

教 職 課 程

<教職課程>

区分	科目名	頁	
免許状取得に必要な 共通科目	日本国憲法	1	
	スポーツ理論	2	
	スポーツ実技Ⅰ（看護学科・社会保育学科）	3	
	スポーツ実技Ⅰ（栄養学科・社会福祉学科）	4	
	スポーツ実技Ⅱ	5	
	コミュニケーション英語Ⅰ	6～13	
	コミュニケーション英語Ⅱ	14～21	
	情報処理Ⅰ	22	
	情報処理Ⅱ	23	
教科に関する科目・教科又は教職に関する科目	高等学校 (公民)	法学（国際法を含む）	24
		国際関係論（国際政治を含む）	25
		人権と法	26
		社会学概論	27
		家族社会学	28
		経済学概論	29
		現代経済学（国際経済を含む）	30
		哲学	31
		倫理学	32
		心理学	33
		生命倫理	34
		公民科指導方法Ⅰ	35
		公民科指導方法Ⅱ	36
		教育学	37
		生涯学習論	38
	ジェンダー論	39	
	文化人類学	40	
	地域社会論	41	
	道德教育論	42	
	高等学校 (福祉)	社会福祉原論	43
		社会保障論	44
		社会福祉教育論	45
		高齢者福祉論Ⅰ	46
		障害者福祉論Ⅰ	47
		子ども福祉論	48
		ソーシャルワーク論Ⅲ	49
		ソーシャルワーク論Ⅳ	50
地域福祉論Ⅰ		51	
地域福祉論Ⅱ		52	
介護概論		53	
基本介護技術		54	
介護現場実習	55		
ソーシャルワーク演習Ⅰ	56		

<教職課程>

区 分		科 目 名	頁
教科に関する科目・教科又は教職に関する科目	高等学校 (福祉)	ソーシャルワーク演習Ⅱ	57
		ソーシャルワーク現場実習Ⅰ	58
		医療概論	59
		介護福祉論	60
		障害者福祉論Ⅱ	61
		福祉科教育法Ⅰ	62
		福祉科教育法Ⅱ	63
		教育学	37
		生涯学習論	38
		ジェンダー論	39
		文化人類学	40
		地域社会論	41
		道徳教育論	42
教育の基礎的理解に関する科目	高等学校 (公民)	教育原理	64
		教職概論	65
		教育法概論	66
		教育心理学	67
		特別支援教育の基礎	68
		教育課程論	69
		総合的な学習の時間の指導法	70
	高等学校 (福祉)	特別活動論	71
		教育方法・技術論	72
		生徒指導論	73
		学校カウンセリング	74
		進路指導及びキャリア教育	75
		教育実習事前事後指導	76
		教育実習	77
		教職実践演習(高等学校)	78
特別支援学校教諭 社会福祉学科	障害児教育学	79	
	知的障害心理・生理・病理	80	
	肢体不自由心理・生理・病理	81	
	病弱心理・生理・病理	82	
	障害児教育課程論	83	
	障害児教育方法論	84	
	肢体不自由教育課程論	85	
	肢体不自由教育演習	86	
	病弱教育学	87	
	視覚障害教育総論	88	
	聴覚障害教育総論	89	
	障害児の病理と心理Ⅰ	90	
	障害児の病理と心理Ⅱ	91	
	障害児教育実習事前事後指導	92	

<教職課程>

区 分	科 目 名	頁
特別支援学校教諭 社会福祉学科	障害児教育実習	93
栄養教諭	栄養教諭論	94
	食生活・食文化論	95
	食教育指導論	96
	教育原理	64
	教職概論	65
	教育法概論	66
	教育心理学	67
	特別支援教育の基礎	68
	教育課程論	69
	道德教育論	42
	総合的な学習の時間の指導法	70
	特別活動論	71
	教育方法・技術論	72
	生徒指導論	73
	学校カウンセリング	74
	栄養教育実習事前事後指導	97
	栄養教育実習	98
教職実践演習（栄養教諭）	99	
幼稚園教諭	国語	100
	生活	101
	音楽Ⅰ	102
	音楽Ⅱ（ピアノ）	103
	図画工作Ⅰ	104
	図画工作Ⅱ	105
	体育	106
	保育内容・人間関係Ⅰ	107
	保育内容・人間関係Ⅱ	108
	保育内容・環境Ⅰ	109
	保育内容・環境Ⅱ	110
	保育内容・健康Ⅰ	111
	保育内容・健康Ⅱ	112
	保育内容・言葉	113
	保育内容・表現Ⅰ	114
	保育内容・表現Ⅱ（音楽）	115
	保育内容・表現Ⅱ（造形）	116
	保育内容・表現Ⅱ（言語）	117
	教育原理	118
	幼児教育史	119
	教職概論（幼稚園）	120
教育法概論	66	
子ども教育心理学	121	

<教職課程>

区 分	科 目 名	頁
幼稚園教諭	発達心理学	122
	特別な教育的ニーズの理解とその支援	123
	保育内容総論	124
	保育指導論	125
	保育指導論演習	126
	子ども理解と教育相談	127
	教育実習指導	128
	教育実習	129
	教職・保育実践演習	130
	生涯学習論	38
	児童文化	131
	児童文化演習	132
特別支援学校教諭 社会保育学科	障害児支援の基礎理論	133
	知的障害者の心理・生理・病理	134
	肢体不自由者の心理・生理・病理	135
	病弱者の心理・生理・病理	136
	知的障害者教育課程論	137
	知的障害者教育方法論	138
	肢体不自由者教育課程論	139
	肢体不自由者教育方法論	140
	病弱者教育論	141
	重複障害・発達障害の評価	142
	重複障害・発達障害の教育	143
	視覚障害者教育総論	144
	聴覚障害者教育総論	145
	障害児教育実習事前事後指導	146
	障害児教育実習	147

免許状取得に必要な共通科目

科目名	日本国憲法				
担当教員名	松倉 聡史				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職：必修
学習到達目標	学習到達目標を①立憲主義の憲法という意義を理解すること、②日本国憲法の成立の根拠を理解すること、③日本国憲法の平和主義の意義を理解すること、④憲法の基本原理や理念を理解すること、⑤人権の分類と体系を理解すること、⑥人権と統治機構との関係を理解することとする。				
授業の概要	立憲的意味の憲法を理解しつつ、憲法は国民一人ひとりを権力者から守るために制定されたことを学ぶ。憲法は人権保障の定めと国家の機能を立法・行政・司法の三つに分類し、三権分立による統治機構の定めもおかれている。日本国憲法は時代に流されない恒久的な価値を示すものとして、日本の国民の幸福のためにつくられていることを深く理解し、学ぶこととする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の進め方・・・憲法とは何か 2 立憲主義とは何か 3 法の支配とは何か 4 日本国憲法の基本原理 5 基本的人権とは何か 6 法の下での平等とは何か 7 精神的自由権（1）思想・良心の自由、信仰の自由 8 精神的自由権（2）表現の自由 9 経済的自由権 10 社会権（1）生存権 11 社会権（2）教育を受ける権利 12 権力分立 13 国会 14 内閣 15 裁判所 				
授業の留意点	憲法が権力者の上位に立ち、権力者に歯止めをかけることにあり、「国民に権利・自由を保障すること」を目的とするものであることに留意して、学ぶ必要がある。そのような視点から、憲法改正の論議についても考察する。				
学生に対する評価	授業参加態度（10点）、リアクションペーパー（20点）、レポート試験（70点）によって総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	「伊藤真の憲法入門」（日本評論社）を利用したい。適宜、プリント等を配布したい。				
参考書（購入任意）	参考書として、芦部信喜「憲法」（岩波書店）を利用する。				

科 目 名	スポーツ理論				
担 当 教 員 名	関 朋 昭				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教 職 : 必 修
学 習 到 達 目 標	<p>スポーツが、社会の中でどのような立場をもち、私たちの生活と連結しているのかを広い視野に立って探求できることを目標とする。また、基本的な保健知識を理解するとともに、所属学科と本講義内容との連携を常に意識し、思考性を深めることをテーマとする。</p> <p>学習到達目標としては、スポーツと自分自身が専攻する学科を関連づけながら今日的課題を見つけることができるようになる、すなわち自分なりの「問い」を立てることができるようになることである。</p>				
授 業 の 概 要	<p>(1)大学生としての保健に関する基本的な知識教養の習得と、スポーツとの関連性を理解する。</p> <p>(2)スポーツが、商業化される問題点と実社会との関係性を学ぶ。</p> <p>(3)スポーツと各学科との連携教育を意識する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：本講義のねらい 2 生活習慣とスポーツの捉え方について 3 運動の捉え方について 4 栄養の捉え方について 5 休養の捉え方について 6 大脳皮質と適応規制の関係 7 社会的欲求とスポーツについて 8 筋組成について 9 スポーツ倫理学 10 学校スポーツ（1）日本 11 学校スポーツ（2）諸外国 12 スポーツとマーケティングの考え方（1）スポーツプロダクト論 13 スポーツとマーケティングの考え方（2）スポーツプロデュース論 14 リーダーシップとチームワークの形成（1）チーム論 15 リーダーシップとチームワークの形成（2）組織論 				
授 業 の 留 意 点	<p>スポーツ、運動、健康に関連するニュース報道、新聞、SNSなどを媒体としながら情報を収集しておくことが学習成果を上げることになるため情報収集のための予習時間が必要不可欠なものとなる。</p>				
学 生 に 対 す る 価	<p>小レポート 60 点。優秀なレポート、発表は 40 点で評価する。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>なし</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>関朋昭 (2015) 『スポーツと勝利至上主義』 ナカニシヤ出版。</p>				

科 目 名	スポーツ実技 I (栄養学科・社会福祉学科)				
担 当 教 員 名	関 朋 昭				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	実 技
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教 職 : 選 択 必 修
学 習 到 達 目 標	生涯スポーツを視野に入れ、多くの学生が、過去の体育授業で経験してきたバドミントン、バレーボールをとりあげ、それらの技術構造や練習方法を学習し、生涯を通じて明るく豊かな活力ある生活を営むことができる能力や態度を育成する。 学習到達目標としては、講義の中でどのようなふるまいが求められているのか、各人がリーダーまたはフォロアーとなり、自発的な行動が取れるようになることである。				
授 業 の 概 要	学習した「基礎技術」がゲームにつながらない「技術」であったりするが、この授業では、「応用技術」であるゲームにつながる「基礎技術」(論)を追求し、学習する。また、共同学習の場であるため、自己の役割を理解し他者と協力しながら種目を展開し進めていくことがねらいである。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ストレッチ運動・バレーボール基本練習 3 バレーボール(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 技術練習(オーバーハンドパス) 4 バレーボール(2) ①技術練習(アンダーハンドパス) ②ルール確認 ③試しのゲーム 5 バレーボール(3) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<1> ③試しのゲーム 6 バレーボール(4) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<2> ③試しのゲーム 7 バレーボール(5) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<3> ③ゲーム 8 バドミントン(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 ③技術練習(ハイクリア、ドライブなど) 9 バドミントン(2) ①技術練習(ハイクリア、スマッシュなど) ②主なルール ③簡易ゲーム 10 バドミントン(3) ①技術練習(サービス) ②戦術<1> ③ダブルスゲーム 11 バドミントン(4) ①技術練習(ドロップショットなど) ②戦術<2> ③ダブルスゲーム 12 バドミントン(5) 団体戦(ダブルスゲーム) 13 まとめ チーム編成および総合試合の戦略策定 14 まとめ 総合試合①(バレーボール、バドミントン) 15 まとめ 総合試合②(バレーボール、バドミントン) 				
授 業 の 留 意 点	服装は運動に適したものであること。ジャージ、トレーナー、Tシャツ、ショートパンツ等で、運動靴は球技専用のシューズが望ましい。栄養学科・社会福祉学科は後期の開講となる。 日頃から健康管理やスポーツに関わるメディア情報や関連書籍などに関心を持ち、予備知識を得ておくこと。				
学 生 に 対 す る 価 値	評価は、授業での意欲・態度 80 点、レポートの提出 20 点とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	スポーツ実技 I (看護学科・社会保育学科)				
担 当 教 員 名	関 朋 昭				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	実 技
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教 職 : 選 択 必 修
学 習 到 達 目 標	生涯スポーツを視野に入れ、多くの学生が、過去の体育授業で経験してきたバドミントン、バレーボールをとりあげ、それらの技術構造や練習方法を学習し、生涯を通じて明るく豊かな活力ある生活を営むことができる能力や態度を育成する。 学習到達目標としては、講義の中でどのようなふるまいが求められているのか、各人がリーダーまたはフォロアーとなり、自発的な行動が取れるようになることである。				
授 業 の 概 要	学習した「基礎技術」がゲームにつながらない「技術」であったりするが、この授業では、「応用技術」であるゲームにつながる「基礎技術」(論)を追求し、学習する。また、共同学習の場であるため、自己の役割を理解し他者と協力しながら種目を展開し進めていくことがねらいである。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ストレッチ運動・バレーボール基本練習 3 バレーボール(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 技術練習(オーバーハンドパス) 4 バレーボール(2) ①技術練習(アンダーハンドパス) ②ルール確認 ③試しのゲーム 5 バレーボール(3) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<1> ③試しのゲーム 6 バレーボール(4) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<2> ③試しのゲーム 7 バレーボール(5) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<3> ③ゲーム 8 バドミントン(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 ③技術練習(ハイクリア、ドライブなど) 9 バドミントン(2) ①技術練習(ハイクリア、スマッシュなど) ②主なルール ③簡易ゲーム 10 バドミントン(3) ①技術練習(サービス) ②戦術<1> ③ダブルスゲーム 11 バドミントン(4) ①技術練習(ドロップショットなど) ②戦術<2> ③ダブルスゲーム 12 バドミントン(5) 団体戦(ダブルスゲーム) 13 まとめ チーム編成および総合試合の戦略策定 14 まとめ 総合試合①(バレーボール、バドミントン) 15 まとめ 総合試合②(バレーボール、バドミントン) 				
授 業 の 留 意 点	服装は運動に適したものであること。ジャージ、トレーナー、Tシャツ、ショートパンツ等で、運動靴は球技専用のシューズが望ましい。看護学科は前期の開講となる。 日頃から健康管理やスポーツに関わるメディア情報や関連書籍などに関心を持ち、予備知識を得ておくこと。				
学 生 に 対 す る 価 値	評価は、授業での意欲・態度 80 点、レポートの提出 20 点とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科目名	スポーツ実技Ⅱ				
担当教員名	関 朋昭・荻野 大助・今野 聖士・敦賀 信人				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	実技
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職：選択必修
学習到達目標	スポーツ実技Ⅱは、名寄市の地域資源を活用し、生涯スポーツとして親しむことのできるウィンタースポーツの修得をめざしている。この講義では、雪質日本一と呼ばれる名寄市の自然環境を生かしたスキー、および全国でも恵まれた競技環境にあるカーリングをとりあげる。スキーおよびカーリングは選択制とし、どちらか一方のみ履修可能とする。				
授業の概要	(スキー) 授業では、スキー(スラローム)の基本技術を、「重心の先行を伴う左右交互荷重」とおさえ、「ブルークボーゲン」を「基礎滑降法」と位置づけ、ブライターンを経て、パラレルターンへと発展させる。学外実習であるため、地域社会との交流といったことも本講義のねらいでもある。 (関) (カーリング) まずカーリングについての基礎知識を学び、実技は氷になれるところから始める。基本動作の練習を行った後、チームを編成してゲームの実戦を行い、戦略を練るところまでをめざす。(敦賀)				
授業の計画	<p>授業計画(スキー)</p> <p>第1日目 午前—実技① 午後—実技②</p> <p>第2日目 午前—実技③ 午後—実技④</p> <p>第3日目 午前—実技⑤ 午後—実技⑥</p> <p>*7月に初回ガイダンスを行う *10月と12月初旬に、オリエンテーション及びガイダンスを行う</p> <p>学習プログラム・A(初心者および初級者対象)</p> <p>1. 初歩動作 - 歩き方、坂の上り方、方向転換</p> <p>2. 滑走感覚養成 - 直滑降、ブルークファーレン→山回り→停止</p> <p>3. 基礎滑降法 - ブルークでの左右交互荷重による大回り、小回り</p> <p>学習プログラム・B(初中級者および中級者対象)</p> <p>1. ブライターン - ターンの切り換えにおける諸動作とタイミング</p> <p>2. 開脚パラレルターン - 立ち上がり抜重による同時切り換え</p> <p>学習プログラム・C(中級者および上級者対象)</p> <p>1. カービングターン - エッジ感覚重視の同時切り換え → 緩・中・急斜面</p> <p>2. ウェデルン - 速いタイミングによる同時切り換え → 緩・中・急斜面</p> <p>授業計画(カーリング)</p> <p>①ルール・ポジションの役割</p> <p>②氷の状態・カーリングの歴史 ③用具などの説明</p> <p>④カーリング技術の基礎(氷に慣れる)</p> <p>⑤カーリング技術の基礎(リリース・フォームなど)</p> <p>⑥カーリング技術の基礎・メンタルトレーニング(スウィーピング)</p> <p>⑦カーリング技術の基礎(作戦)</p> <p>⑧ゲームの進め方とその実際(先攻・後攻の有利・不利)</p> <p>⑨ゲームの進め方とその実際(氷の状態に合った作戦)</p> <p>⑩ゲームの進め方とその実際(チームに必要なこと・チーム作り)</p> <p>⑪ゲームの進め方とその実際(勝っている時、負けている時の作戦)</p> <p>⑫より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう レベルに合ったショット・作戦</p> <p>⑬より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう カーリングに必要なもの</p> <p>⑭より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう</p> <p>⑮技術と戦略作りのまとめ</p>				
授業の留意点	<p>1. 3日間の集中講義で実施する(積雪の状況から冬季休業期間中もしくは土曜日と日曜日の実施となる)。</p> <p>2. スキーのリフト代は個人負担とする。ウェア、帽子、グローブ、ゴーグルなどは各自用意すること。カーリング用具はレンタル可能(個人負担)。</p> <p>3. スキーは10月のオリエンテーションでは事前調査用紙を記入し提出し、12月のガイダンスではグループ分けと事前確認を行う。</p> <p>4. 【重要1】受講希望者が多い場合、抽選とし人数制限をすることがある。 【重要2】初回のガイダンス不参加者は、履修意思がないものと考え履修資格を認めない。 ゆえに、掲示板をみのがさないように(スキーは7月予定)。 【重要3】スキーは二回目(10月予定)、三回目(12月予定)のガイダンスに関しても、 【重要2】と同様に、不参加者は履修意思がないものと考え履修放棄したとみなす。</p>				
学生に対する評価	評価は、授業での意欲・態度80点、レポートの提出20点とする。				
教科書(購入必須)	テキストは使用しない。				
参考書(購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担 当 教 員 名	Martin Meadows				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	This course focuses primarily on developing communication skills through interaction with English-language learners abroad in an online, virtual exchange program. Students will learn about everyday activities and concerns of students from other cultures and, by sharing aspects of their own daily lives with foreign students, have opportunity to reflect on and re-evaluate their own cultural values and assumptions.				
授 業 の 概 要	Using a Moodle-based virtual exchange platform, students will develop writing and speaking skills by posting textual and audio accounts of their daily lives and concerns in shared online forums. At the same time, listening and reading skills will be developed as students read and listen to posts made by their exchange counterparts. Students will not only gain an understanding of and appreciation for the daily concerns of English-language-learning students from a different culture, they will develop a greater appreciation of their own culture. In addition to the virtual exchange, students will rehearse and construct original, "model" speeches and receive feedback from their classmates. Classroom activities will also provide opportunities for spontaneous and unrehearsed speech acts. By the end of this course, all students will be able to make and post a short recorded speech, and provide verbal feedback to their classmates' speeches.				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Class placement test (all students) 2 Adding resources to Moodle 3 Introduction to Cross-Cultural Communication 4 Virtual Exchange (VE) - Self-introductions 5 Virtual Exchange (VE) - Self-introductions 6 Virtual Exchange (VE) - My Place 7 Virtual Exchange (VE) - My Place 8 Virtual Exchange (VE) - Events in our Lives 9 Virtual Exchange (VE) - Events in our Lives 10 Virtual Exchange (VE) - My Future Plans 11 Virtual Exchange (VE) - My Future Plans 12 University Life - Interviewing a Partner 13 University Life - Interviewing a Partner 14 Part-time Jobs 15 Final Speaking Exam 				
授 業 の 留 意 点	Students will be expected to try to use English for the majority of communication conducted in the classroom. With a smaller class, participation in class activities is particularly important and students are strongly encouraged to both speak out and voice their opinions when able, and to ask for information and assistance when necessary. Students should take responsibility for their own learning and participate actively in pair and group activities. Students are also expected to learn how to use some computer-based applications required for the online exchange.				
学 生 に 対 す る 価 値	Class participation - forum posts and replies (40 pts), Term-end oral test (40 pts), Extensive reading (20 pts)				
教 科 書 (購 入 必 須)	Online materials in the Moodle-based course.				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科目名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	小古間 甚一				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	英語 I で学習した基礎的な文法知識を使って英語を発信する力をつける。英語によるコミュニケーション能力を高める。例文を参考にしながら英文が作成できる力を身に付ける。				
授業の概要	中学生レベルの基礎的な文法知識を使って短文を作る練習を徹底的に行う。毎回英文を書き提出してもらう。最終的に 200 ワード程度を英文を書く。英語の基礎的な力を高めるために E ラーニングによる英語読解カトレーニングを行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業ガイダンス 英語 I の復習 2 主語と動詞 3 現在形、過去形、完了形 4 受動態 5 分詞の用法 6 不定詞の用法 7 動名詞の用法 8 比較の用法 9 関係詞を使った英文 1 10 関係詞を使った英文 2 11 仮定法を使った英文 1 12 仮定法を使った英文 2 13 自由テーマ作成 14 英語による質疑応答 (1) 15 英語による質疑応答 (2) 				
授業の留意点	遅刻・欠席をしないこと。遅刻 (5 分程度) 3 回につき 1 回の欠席とする。授業で説明したことをきちんとメモすること。授業で学んだ内容を忘れないようにしっかり復習すること。				
学生に対する評価	基礎文法確認テスト (50 点)、課題提出 (20 点)、E ラーニング読解トレーニング (30 点)。読解トレーニングのワード数は 30000 語とする。				
教科書 (購入必須)	プリントを配布する。				
参考書 (購入任意)	辞書 (中学生用が望ましい)、参考書、英語 I で配布した資料等を持参すること。				

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担 当 教 員 名	野月 朱美				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	英語をコミュニケーションの道具として活用する。				
授 業 の 概 要	英語で自分の言いたいことを伝える練習をする。また、英語の質問に、間を開けず適切に反応できるよう練習する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 クラスガイダンス・リスニング & 会話練習 「気に入ってくれて嬉しいです」 2 リスニング & 会話練習 「大したことではない」 3 リスニング & 会話練習 「楽しんでくれて嬉しいです」 4 リスニング & 会話練習 「お待ちしていました」 5 リスニング & 会話練習 「もう、いいよ」 6 リスニング & 会話練習 「お土産買って来たよ」 7 リスニング & 会話練習 「あの袋使ったら？」 8 リスニング & 会話練習 「ハサミある？」 9 リスニング & 会話練習 「どうやるのかやってみせるね」 10 リスニング & 会話練習 「なんて書いてある？」 11 寸劇のテーマを考え、原稿を作り始める 12 寸劇の原稿を最後まで作り、教師に提出する 13 添削原稿を受け取り、内容を確認、さらに推敲する 14 原稿を完成させる 15 寸劇発表 				
授 業 の 留 意 点	辞書持参のこと 毎回復習し、小テストに備えること 寸劇の原稿作りには翻訳アプリは使わないこと				
学 生 に 対 す る 価 値	小テスト (60 点)、E-learning (15 点)、寸劇 (10 点)、授業参加度(15 点)				
教 科 書 (購 入 必 須)	なし				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担 当 教 員 名	藤岡 順子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	中学、高校と学んだ英語を実際に使えるものにしていきます。いかに自分のことや日常生活を英語で言えるかということに重点を置き授業を進めます。英語圏との文化の違い、考え方の違い（或いは同じ）にも注意を向け、日本の文化を英語で言えるようにします。日本語とは違う英語のリズムを身につけるために Listening にも力をいれます。				
授 業 の 概 要	会話を主にしたテキストの他にスヌーピーの英語なども題材にしながら授業を進めます。また英語のポップミュージックもとりあげます。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Class placement test 2 Introduction I am ~ 3 Getting know the classmates 4 Talking about hometown (1) 5 Talking about hometown (2) 6 Japanese culture ? Enjoy Autumn Leaves 7 What do you like? 8 Talking about daily life 9 How to use adjectives and adverbs 10 How was your weekend? 11 Frequency adverbs 12 Japanese culture ? New Year's Day 13 Talking about the vacation (1) 14 Talking about the vacation (2) 15 POP music 				
授 業 の 留 意 点	毎回辞書を持ってくること。 授業へ積極的に参加し、少しでも多く英語を話すようにすること。				
学 生 に 対 す る 価 値	ほぼ隔週に行われる小テストの合計を 100% (100 点)とし点数で評価をするが、その他提出物なども加味し総合的に評価します。				
教 科 書 (購 入 必 須)	クラス分けテストの後、最初の授業時に指定します。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担 当 教 員 名	前田 千早				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	This course is designed to focus on the listening and speaking skills of the students in hopes to improve their abilities to communicate in English.				
授 業 の 概 要	The classes will focus on a different topic every week. The students are encouraged to openly share their own experiences and interests with their classmates. There will be a variety of speaking, writing and listening assignments.				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Orientation/test 2 introduction 3 Health Habits 4 Haiku 5 Cross words 6 Life Boat 7 Project outline 8 Proper Sentences 9 Describing people 10 How much? 11 Guess who 12 Scrabble 13 Term project 14 Term project 15 Term project 				
授 業 の 留 意 点	Students should come prepared to speak and study English at each lesson. Participation in class will be an important part of this course.				
学 生 に 対 す る 価 値	Class participation (60 点) Readers (20 点) Term Project (20 点)				
教 科 書 (購 入 必 須)	Materials will be handed out in class Dictionary				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担 当 教 員 名	野村 太				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	北海道を訪れる外国人が急増する傾向は今後も続くといわれています。皆さんもこれから先、思いがけない場面で英語を話さねばならない機会が来るでしょう。自信をもって会話できることを目標に掲げ、訓練します。				
授 業 の 概 要	音読、シャドーイングなどの方法を用いて基礎会話力をつけ、習熟度を見ながら応用編に入ります。				
授 業 の 計 画	1 クラス分けテスト 2 Name & Age 3 Hometown & Education 4 Personality & Health 5 My dream 6 My family 7 Pets 8 Clothes 9 Cooking & Restaurants 10 Smartphones 11 Sleeping and Shopping 12 Weekends & Daily schedule 13 My favorite seasons 14 English 15 Music				
授 業 の 留 意 点	授業中の居眠り、無断のスマホ操作は授業放棄とみなし、欠席に準ずる処置をとります。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業態度 50 点、期末テスト 50 点合計 100 点で評価します。無断欠席は 8 点、授業放棄行為は 5 点減点します。Moodle で規定語数に達しなければ不足語数 100 語につき 1 点減点、その反対に多く読めば加点します。				
教 科 書 (購 入 必 須)	プリントを配付します。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担 当 教 員 名	Herman Leung				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	The objective of this course is to build confidence and improve students' abilities conversing in English.				
授 業 の 概 要	The class will focus on discussing life experiences, making skits, and a variety of role-playing scenarios.				
授 業 の 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1 Placement Test 2 Introduction 3 Talkopoly 4 Group Story 5 Food Recipe 6 Fashion Trends 7 Employment 8 Dream Vacation 9 Predictions/Future Tense 10 Project Preparation 11 Reading and acting theater skits 12 Reading and acting movie Scripts 13 Term Project 14 Term Project 15 Final Project 				
授 業 の 留 意 点	Students should come prepared to speak and study English. Class participation is highly expected for this course.				
学 生 に 対 す る 価 値	Class participation (50) Readers (30) Final Project (20)				
教 科 書 (購 入 必 須)	Materials will be handed out in class				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担 当 教 員 名	山口 誉子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	今まで学習した英語を「使える英語」にしていきます。「聴く・話す」を中心に、コミュニケーション力を上げていきます。				
授 業 の 概 要	ペアワークを通して、自分の言いたいことを簡単な英語で言えるようにします。 フォニックスを使って発音を強化します。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、自己紹介、フォニックス 2 性格診断、他己紹介 3 ホームタウン 4 リーディング（1） 5 リーディング（2） 6 週末 7 食べ物 8 リーディング（3） 9 健康 10 感情 11 映画・音楽 12 旅行、リーディング（4） 13 休暇 14 リーディングテスト 15 口頭試験 				
授 業 の 留 意 点	フォニックスのシートは毎回持参すること。積極的に授業に参加してください。				
学 生 に 対 す る 価 値	口頭試験 40点、リーディング 15点、Eラーニング 25点、授業態度 20点				
教 科 書 (購 入 必 須)	なし。プリントを配布します。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	Martin Meadows				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	This course builds on the virtual exchange conducted in Communication 1 and extends the development of communication skills and strategies. Again, students will interact with English-language learners abroad in an online, virtual exchange program to further learn about the values and concerns of students from other cultures. Students from all participating countries will, if possible, engage in a collaborative project that requires them to both explore their own cultural perspectives and show an understanding for opinions and values of other cultures as well.				
授 業 の 概 要	Using a Moodle-based virtual exchange platform, students will develop writing and speaking skills by posting textual and audio accounts of their values and opinions in shared online forums. At the same time, listening and reading skills will be developed as students read and listen to posts made by their exchange counterparts. Students will not only gain an understanding of and appreciation for the values of English-language-learning students from a different culture, they will develop a greater appreciation of their own cultural values. A collaborative project will be undertaken in small groups of both Japanese and foreign students that requires students to prepare simple research inquiries about aspects of their own cultures and investigate the inquiries of their exchange counterparts. A final group presentation will be made of what has been learned.				
授 業 の 計 画	<ul style="list-style-type: none"> * Orientation and Introduction * Cool Japan - Cool Nayoro 				
授 業 の 留 意 点	Students will be expected to try to use English for the majority of communication conducted in the classroom. With a smaller class, participation in class activities is particularly important and students are strongly encouraged to both speak out and voice their opinions when able, and to ask for information and assistance when necessary. Students should take responsibility for their own learning, for engaging with their exchange counterparts, and participating actively in group activities.				
学 生 に 対 す る 価 値	Class participation (30pts), Group-based research inquiry/presentation (30pts) Term-end presentation (40pts)				
教 科 書 (購 入 必 須)	Various printed and online materials.				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	小古間 甚一				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	基礎的な文法知識を応用して英文を作り、英語で発信する力を身に付ける。仮定法や過去完了形など難しい文法知識を使って英語で伝える力をさらに身につける。				
授 業 の 概 要	テーマに沿って英文を書く。まとめとして250～300語程度の英文を2つ書く。基礎力養成のためにEラーニングによる読解トレーニングを行う。読解トレーニングの語数は30000ワードとする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 英語の基礎 復習 2 1週間の出来事を書く1 3 1週間の出来事を書く2 4 1週間の出来事を書く3 5 自己アピール1 6 自己アピール2 7 友人に近況を報告する1 8 友人に近況を報告する2 9 自由課題1 構想 10 自由課題2 英文下書き 11 自由課題3 ワープロ原稿作成 12 自由課題4 原稿修正 13 自由課題5 原稿提出 14 自由課題6 発表1 15 自由課題 発表2 				
授 業 の 留 意 点	遅刻・欠席・居眠り厳禁。遅刻（5分程度まで）3回で欠席1回分とする。辞書（中学生用が望ましい）を必ず持参すること。予習・復習をしっかりと行い、基本的な英文法の知識を理解するよう努めること。				
学 生 に 対 す る 価 値	文法・英作文テスト（50点）、課題提出（20点）、Eラーニング読解トレーニング結果（30点）。Eラーニングによる読解トレーニング30000ワード以上をクリアすること。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	プリントを配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	高校時代に使った参考書、教科書、辞書（中学生用が望ましい）を持参すること。英語Ⅰ・Ⅱで配布したプリントを持参すること。				

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	野月 朱美				
学年配当	2年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	英語をコミュニケーションの道具として活用する。				
授業の概要	英語で自分の言いたいことを伝える練習をする。また、英語の質問に、適切に間を空けず反応できるよう練習する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・リスニング & 会話練習 「久しぶり」 2 リスニング & 会話練習 「お仕事はなに？」 3 リスニング & 会話練習 「気をつけて」 4 リスニング & 会話練習 「うまくいくかな」 5 リスニング & 会話練習 「どう思う？」 6 リスニング & 会話練習 「参考までに」 7 リスニング & 会話練習 「見どころ満載」 8 リスニング & 会話練習 「船酔いするたちなんだ」 9 リスニング & 会話練習 「それは残念」 10 リスニング & 会話練習 「どうだった？」 11 寸劇のテーマを考え、原稿を作り始める 12 寸劇の原稿を最後まで作り、教師に提出する 13 添削原稿を受け取り、内容を確認、さらに推敲する 14 原稿を完成させる 15 寸劇発表 				
授業の留意点	辞書持参のこと 毎回復習し、小テストに備えること Show and Tell の原稿作りには翻訳アプリは使わないこと				
学生に対する評価	小テスト (60点)、E-learning (15点)、寸劇 (10点)、授業参加度(15点)				
教科書 (購入必須)	なし				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	藤岡 順子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	世界の多くの国で英語は共通語として使われています。それに対応していくために自分の意見を簡単な英語で表現できるようにします。ネイティブの発音にならなくても世界の様々な国の人と簡単なコミュニケーションがとれるようにします。日本の文化や習慣も英語で説明できるようにします。				
授 業 の 概 要	会話が主のテキストの他、映画のスク립ト、スヌーピーとその仲間の会話も使い授業を進めます。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 My Summer Break 2 Let's talk about Japan 3 Let's chat 4 Let's chat 5 What do you like 6 Talking about food and recipes (1) 7 Talking about food and recipes (2) 8 Let's talk about Japan 9 Talking about travel (1) 10 Talking about travel (2) 11 Let's talk about Japan 12 My opinions, your opinions 13 Do you agree? 14 Talking about my future plans 15 Review 				
授 業 の 留 意 点	辞書を持ってくること。パートナーとのロールプレイも行いますので、積極的に参加することをもとめます。				
学 生 に 対 す る 価	隔週の小テストの合計を100%（100点）とし評価しますが、課題の提出なども加味し評価します。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	クラス決定後指定します。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	前田 千早				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	The objectives of the second part of this course are the same as the goals for English I. After the completion of both courses, the students are hoped to have gained more confidence in English and to have enjoyed the English language.				
授 業 の 概 要	The classes will focus on a different topic every week. The students are encouraged to openly share their own experiences and interests with their classmates. There will be a variety of speaking, writing and listening assignments.				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 Giving Direction 3 Tanka 4 Recipe 5 Family Tree 6 Invitations 7 Photographs 8 Jobs 9 Shopping 10 School 11 How was your trip? 12 Life Boat 13 Term project 14 Term project 15 Term project 				
授 業 の 留 意 点	Students should come prepared to speak and study English at each lesson. Participation in class will be an important part of this course.				
学 生 に 対 す る 価 値	Class participation (60点) Readers (20点) Term Project (20点)				
教 科 書 (購 入 必 須)	Materials will be handed out in class Dictionary				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	野村 太				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	北海道を訪れる外国人が急増する傾向は今後も続くといわれています。皆さんもこれから先、思いがけない場面で英語を話さねばならない機会が来るでしょう。自信をもって会話できることを目標に掲げ、訓練します。				
授 業 の 概 要	音読、シャドーイングなどの方法を用いて基礎会話力をつけ、習熟度を見ながら応用編に入ります。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Outline of the course 2 Traveling 3 Computers 4 TV 5 Hot springs 6 Drinking 7 Movies 8 Reading 9 Driving 10 Comics 11 Baseball & Soccer 12 Companies, Jobs, and Commuting 13 Co-workers, Working hours & Meetings 14 Vacations and Business trips 15 Review 				
授 業 の 留 意 点	授業中の居眠り、無断のスマホ操作は授業放棄とみなし、欠席に準ずる処置をとります。				
学 生 に 対 す る 価 評	授業態度 50 点、期末テスト 50 点合計 100 点で評価します。無断欠席は 8 点、授業放棄行為は 5 点減点します。Moodle で規定語数に達しなければ不足語数 100 語につき 1 点減点、その反対に多く読めば加点します。				
教 科 書 (購 入 必 須)	プリントを配付します。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	Herman Leung				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	The objective of this course is to build confidence and improve students' abilities conversing in English.				
授 業 の 概 要	The class will focus on discussing life experience, making skits, and a variety of role-playing scenarios.				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 Talkopoly 3 Travel 4 Restaurants 5 Shopping 6 Movies and Television 7 Subway Directions 8 English Karaoke 9 Gestures 10 Project Preparation 11 Reading and acting theater skits 12 Reading and acting movie Scripts 13 Term Project 14 Term Project 15 Final Project 				
授 業 の 留 意 点	Students should come prepared to speak and study English. Class participation is highly expected for this course.				
学 生 に 対 す る 価 値	Class participation (50) Readers (30) Term Project (20)				
教 科 書 (購 入 必 須)	Materials will be handed out in class.				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	山口 誉子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	今まで学習した英語を「使える英語」にしていきます。「聴く・話す」を中心に、コミュニケーション力を上げていきます。				
授 業 の 概 要	ペアワークを通して、自分の言いたいことを簡単な英語で言えるようにします。 フォニックスを使って発音を強化します。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、自己紹介、フォニックス 2 性格診断、他己紹介 3 週末 4 食べ物・レシピ 5 将来の計画・仕事 6 もし～なら 7 意見を言う～賛成・反対 8 レストラン 9 ショッピング 10 ミーティング 11 休暇 12 Show and Tell 原稿下書き、提出 13 Show and Tell 添削を受けて、書き直し 14 Show and Tell 発表（1） 15 Show and Tell 発表（2） 				
授 業 の 留 意 点	フォニックスのシートは毎回持参すること。積極的に授業に参加してください。				
学 生 に 対 す る 価 値	Show and Tell 60点、Eラーニング 20点、授業態度 20点				
教 科 書 (購 入 必 須)	なし。プリントを配布します。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科目名	情報処理 I				
担当教員名	石川 貴彦				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	情報処理技術に関する基礎・基本を理解し、ワープロソフトを用いた文書の作成や、表計算処理ソフトを用いたデータの集計など、日常生活および専門科目に適用できるレベルまで情報処理能力を習得することを到達目標とする。				
授業の概要	授業では、情報機器の操作（OSの操作方法、プリンタ等周辺機器の使用方法）、文書の作成（電子メール、Word を利用した文書作成の方法）、情報の整理（Excel による数値データの処理、グラフの描画）の方法・技術について演習を行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、学内コンピュータ・電子メールの使用方法、パスワードの変更 2 Windows の基本操作（起動・終了・保存・移動・複製・削除）、キー入力練習 3 Word を用いた文章の入力・印刷と編集機能、プリンタの使用方法 4 表の作成と編集 5 クリップアート、ワードアート、図形描画 6 スマートアート、段組み、ドロップキャップ、ページ罫線 7 はがき作成、差し込み印刷 8 Excel を用いたデータの入力・計算 9 ワークシートの活用 1（SUM、AVERAGE 関数、罫線のスタイル） 10 ワークシートの活用 2（絶対参照と相対参照、MAX、MIN、COUNT、COUNTA、IF 関数） 11 グラフの作成（棒グラフ、積み上げグラフ、折れ線グラフ、円グラフ、3D グラフ、複合グラフ） 12 データベース、データの抽出、ピボットテーブル 13 Excel の応用 1（RANK、LOOKUP、INDEX 関数） 14 Excel の応用 2（文字列、データベース関数） 15 3D 計算、Word への Excel の埋め込み 				
授業の留意点	毎回の授業において課題を出すので、欠席はなるべくしないこと。また、進度の遅い者は課題が溜まっていく傾向にあるので、復習を行い演習のペースに遅れないようにすること。なお、他者が作成した課題をコピーして提出した者は、事情聴取の上、当該課題を採点から除外して評価を行う。				
学生に対する評価	授業で課す 13 課題の完成度によって評価を行う。課題点 90 点以上で受講態度良好の者は秀、課題点 80 点以上で態度良好の者は優、課題点 70 点以上で態度良好の者は良、課題点 60 点以上で態度良好の者は可とする。それ以外の者は不可とする。				
教科書（購入必須）	実教出版編修部：30 時間でマスター Word2016、実教出版、2016 年 実教出版編修部：30 時間でマスター Excel2016、実教出版、2016 年				
参考書（購入任意）					

科 目 名	情報処理Ⅱ				
担 当 教 員 名	石川 貴彦				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	栄養・看護・社会福祉：選択 社会保育：必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	情報コミュニケーションおよびネットワークに関する基礎・基本を理解し、プレゼンテーション資料の作成、インターネットを利用した情報配信やコミュニケーションなど、日常生活および専門科目に適用できるレベルまで、情報発信能力を確実に習得することを到達目標とする。				
授 業 の 概 要	授業では、情報の表現・伝達（PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成）、情報の発信（HTML タグによる Web ページの作成・配信）について演習を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、情報コミュニケーション・ネットワークとそのアプリケーション 2 PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成 3 プレゼンテーション資料のブラッシュアップ、図形の挿入 4 グラフの挿入、アニメーションの設定、リハーサルにおける操作 5 PowerPoint を活用した情報表現（自作スライド 1） 6 PowerPoint を活用した情報表現（自作スライド 2） 7 ホームページのしくみ、HTML 言語とは、Web デザインの基礎 8 画像の表示（イメージタグ）、ハイパーリンク 9 表組み（テーブルタグ） 10 フレームタグ 11 スタイルシート 12 著作権、肖像権、情報発信者としての心構え 13 情報モラル、SNS との関わり方 14 Web ページによる情報発信（自作ページ 1） 15 Web ページによる情報発信（自作ページ 2） 				
授 業 の 留 意 点	毎回の授業において課題を出すので、欠席はなるべくしないこと。また、進度の遅い者は課題が溜まっていく傾向にあるので、復習を行い演習のペースに遅れないようにすること。なお、他者が作成した課題をコピーして提出した者は、事情聴取の上、当該課題を採点から除外して評価を行う。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業で課す 10 課題の完成度によって評価を行う。課題点 90 点以上で受講態度良好の者は秀、課題点 80 点以上で態度良好の者は優、課題点 70 点以上で態度良好の者は良、課題点 60 点以上で態度良好の者は可とする。それ以外の者は不可とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	実教出版編修部：30 時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2016、実教出版、2017 年 吉田喜彦、影山明俊：30 時間でマスター Web デザイン、実教出版、2003 年				
参 考 書 (購 入 任 意)					

教科に関する科目・教科又は教職に関する科目

高等学校（公民）

科目名	法学（国際法を含む）				
担当教員名	松倉 聡史				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職（高等学校 公民）：必修	資格要件	教職（高等学校 公民）：必修
学習到達目標	①法とは何であり、法の精神とは何であるかという根本的な問いかけをもって学ぶこと。②一人ひとりが主体的な権利意識と義務意識をもつこと。③各人が社会生活において生成するあらゆる紛争において、社会正義を実現する法的思考力（リーガル・マインド）を養うことをねらいとする。学習到達目標としては、①法と他の社会規範の差異を把握すること、②法の効力の優劣を理解すること、③法の体系と分類を理解すること、④法の特徴と原理、理念を理解することである。				
授業の概要	①法とは社会生活を平穏に維持するための社会規範の一つであるが、他の規範とどう異なるのかを考察する。②法学の対象を国家がつくる「法律」を中心とするが、判例法、慣習法、条理といったことをも広く「法学」として考察する。③一般法学としての法学概論にとどまらず、日本国憲法や国際法などをも広く取り扱う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の進め方・・・法とは何か、法の精神とは何か 2 法と社会生活・・・法と社会規範 3 法と道徳との違いは何か 4 法の目的とは何か 5 憲法はなぜ、国家の基本法といわれるのか 6 憲法の三大基本原理とは何か 7 権力分立の原理 8 統治機構 9 行政法とはどのような法であるか 10 行政法のしくみと行政行為 11 国際法とはどのような法であるか 12 国際法にはどのような特徴があるか 13 子どもの権利条約について 14 法と日本人 15 法の精神、まとめ 				
授業の留意点	テキストと六法（例えば、『岩波コンパクト六法』有斐閣）などを持ってくること。				
学生に対する評価	授業参加態度（30点）、レポート試験（70点）を総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	伊藤正巳・加藤一郎編、『現代法学入門』[第4版]（有斐閣双書、2005年）をテキストとする。また、必要な資料を配布する。				
参考書（購入任意）	参考書として中川淳編『やさしく学ぶ法学』（法律文化社）、渡辺洋三『法とは何か』（有斐閣新書）、渡辺洋三『法を学ぶ』（有斐閣新書）、原田尚彦『行政法要論』（学陽書房）など。				

科目名	国際関係論（国際政治を含む）				
担当教員名	東原 正明				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職（高等学校 公民）：必修
学習到達目標	本講義では、現代の国際社会がいかにして形成されてきたのかという点に焦点を絞り、国民国家の現状とナショナリズムの作用及び第二次世界大戦後のヨーロッパ政治について学ぶ。この学習を通じて、各受講生が国際関係について理解を深めるとともに、現代世界がどのように構築されてきたのか、残された課題は何なのかについて自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。				
授業の概要	20世紀、人類は二度の悲惨な世界大戦を体験し、その後の米ソ冷戦体制下では「核戦争の恐怖」の中での生活を余儀なくされた。そして21世紀に入っても、地球上には依然として戦火が絶えず、急進的なナショナリズムもいまだに大きな影響力を持っている。こうした認識の下、本講義では国際関係について主にヨーロッパを中心に検討する。まず、国民国家とナショナリズムについて考察し、その後、二つの世界大戦とその後の国際体制について検討する。さらに、冷戦体制と戦後ヨーロッパにおける平和の構築という観点から、分断国家であったドイツを中心としつつヨーロッパの動向を検討する。その上で、現代国家のあり方として重要な概念である福祉国家の現状についても取り上げる。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 「政治」、「国際関係」とは何か 3 「国家」、「ナショナリズム」とは何か 4 第一次世界大戦後の世界①ヴェルサイユ体制 5 第一次世界大戦後の世界②ファシズム国家の展開 6 第二次世界大戦後の世界①冷戦とは何か 7 第二次世界大戦後の世界②冷戦体制の現実 8 冷戦体制下の東西関係①西ドイツを例として 9 冷戦体制下の東西関係②ベルリン問題と東ドイツ 10 冷戦体制下の永世中立国－オーストリアを例として 11 冷戦体制の終結 12 ヨーロッパの統合 13 EU－国家連合から連邦国家へ？ 14 福祉国家の理論と現実 15 おわりに－国際関係をどう見るか 				
授業の留意点	履修にあたっては、高校世界史、政治・経済の内容を再確認しておくことが望ましい。また、予習としては、日常的に世界政治の動向に関心を払い、新聞等を積極的に読んでおくことが必要である。復習としては、講義内容をふまえてノートやプリントを整理することが求められる。出席状況に十分留意すること。				
学生に対する評価	定期試験及び小テストの結果に基づいて評価する。配点は、定期試験を80点、小テストを20点とする。				
教科書（購入必須）	使用しない。講義時に資料を配布する。				
参考書（購入任意）	山本左門『現代国家と民主政治（改訂版）』（北樹出版、2010年） 平島健司、飯田芳弘『改訂新版 ヨーロッパ政治史』（放送大学教育振興会、2010年） その他は講義時に指示する。				

科目名	人権と法				
担当教員名	松倉 聡史				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職(高等学校 公民):必修
学習到達目標	学習到達目標として、①人権を人間の尊厳性という根拠から導かれることの意義と考察を深めること、②「基本的人権の尊重」という法学的な定義に対する見解を考察すること、③人権は第一に人間の本質たる人格性にもとづく、前国家的・生来的権利であり、第二に自由権であることを基本とし、第三に個人権であり、自然人に帰属する権利であることを理解する、④自由権のみならず社会権も基本的人権とすることの根拠を理解する、⑤人権の分類と体系を理解すること、⑥人権の歴史的展開や国際社会における人権を理解することとする。				
授業の概要	①世界の人権の歴史的展開をたどり、日本における人権の軌跡を探っていく。②明治憲法下の人権の特徴と日本国憲法の基本的人権と分類を探る。③国際法における人権分野と国連の動きを考える。④生活の中の人権を考え、21世紀の人権のあり方を考える。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人間の尊厳とは何か 2 基本的人権の尊重の根拠 3 人権の自然権としての位置づけ 4 世界の人権の歴史的展開(1) 5 世界の人権の歴史的展開(2) 6 日本の人権の歴史的展開 7 国際社会における人権 8 個人の権利とマイノリティー集団の権利 9 子どもの人権 10 子どもの権利条約の制定経過と特徴 11 女性の権利 12 具体的事例(1) 公民権運動 13 具体的事例(2) 生命倫理と人権 14 20世紀の人権とは何であったか・・・戦争と平和の問題を考える 15 21世紀の人権を考える 				
授業の留意点	人権の特性を法学的な視点から理解することを基礎としながら、世界および日本における歴史的展開を学び、具体的な事例における問題点を探っていく思考力を養うことに力点を置く。				
学生に対する評価	授業参加態度(10点)、リアクションペーパー(20点)、レポート試験(70点)で総合的に評価する。				
教科書(購入必須)	必要な資料を配布して、参考文献を紹介していく。				
参考書(購入任意)					

科目名	社会学概論				
担当教員名	小野寺 理佳				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職（高等学校 公民）・社会福祉士・精神保健福祉士：必修
学習到達目標	<p>1. 個人を規定している社会の枠組みの存在を見抜く力を獲得する。</p> <p>2. そこに多様な価値観があることを理解することができる。</p> <p>3. 将来の実践者として、多様な個人をどのようにとらえるのかを考えることができる。</p> <p>以上3点を到達目標とする。</p>				
授業の概要	<p>社会学とは、ひととひとの相互関係、そこから生まれる集団や組織のしくみ、それがどのように維持され変容してきたのか、を研究する学問である。本講義では、身近な社会現象をとりあげながら、私たち個人の志向や行動がいかに社会によって影響され、形成されているのかを考察する。受講者には空欄のあるレジュメを配付する。講義を受けながら自分でレジュメを完成させていくことで、重要な概念や語句を整理し理解していく。また、必要に応じて関連する雑誌記事のコピー等を配付し、さまざまな事象をより身近に感じ取れるようにする。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 社会学とは何か (1) 社会学という学問の特殊性 3 社会学とは何か (2) 社会学の学び方 4 意思決定と行為 (1) 「社会」とは何かを考える 5 意思決定と行為 (2) 社会における振る舞い方を考える 6 役割とは何か (1) 役割葛藤と役割期待 7 役割とは何か (2) 役割とどうつきあうか 8 集団と規範 (1) 集団の定義 9 集団と規範 (2) 社会における集団 10 見える権力、見えない権力 (1) 権力の定義 11 見える権力、見えない権力 (2) 現代社会における権力 12 社会と文化 (1) 価値を決めるのは誰か 13 社会と文化 (2) マイノリティとマジョリティ 14 社会と文化 (3) 差別とはなにか 15 まとめ 				
授業の留意点	<p>講義予定は上記の通りであるが、進行状況や受講者の関心动向を考慮しながら、内容構成や順番などを調整する。テキストの内容すべてを順に取り上げることはしない。毎回の予習としてはテキストの関連箇所を読んでおくこと。復習としては、レジュメや配付資料を見直し、テキストの該当箇所を読むこと。リアクションペーパーの提出を求めることがある。</p>				
学生に対する評価	<p>レポートにより評価する（100点）。</p>				
教科書（購入必須）	<p>宇都宮京子編 やわらかアカデミズム・〈わかるシリーズ〉 『よくわかる社会学』（第2版） ミネルヴァ書房 2009年</p>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	家族社会学				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	看護・社会福祉：必修 栄養：選択	資 格 要 件	教職（高等学校 公民）：必修
学 習 到 達 目 標	<p>1. 現代家族の成立の歴史についての基本的知識を得る。 2. 家族をめぐる日常的な現象を考察する力をつける。 3. 家族とは何かを考え、自分の家族観を相対化することができる。 以上3点を到達目標とする。</p>				
授 業 の 概 要	<p>家族社会学は、直面する家族問題を深く理解し実践に活かすために参照される学問である。社会そして家族集団において人々は多様な立場におかれ、立場によって家族の見え方も家族に求めるものも異なる。本講義では、身近で具体的な事柄を取り上げながら、家族事象を様々な視角からとらえることを学ぶ。受講者には空欄のあるレジュメを配付する。講義を受けながら自らレジュメを完成させていくことにより、自分の問題意識を深めていく。また、必要に応じて関連する雑誌記事のコピーなどを配付し、家族に関わる様々な出来事をより身近に感じとれるようにする。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 家族とは誰のことか (1) あなたの家族は誰ですか 2 家族とは誰のことか (2) 家族という語の曖昧さ 3 家族とは誰のことか (3) 主観的家族論 4 近代家族の誕生 (1) 近代家族の特徴 5 近代家族の誕生 (2) 近代家族を支える思想 6 近代家族の揺らぎ (1) 家族の変容 7 近代家族の揺らぎ (2) 家族を選択する時代 8 家族に求めるもの (1) 家族に何を求めるか 9 家族に求めるもの (2) 自由と選択 10 生殖補助医療における親子関係 (1) 生殖補助医療とは何か 11 生殖補助医療における親子関係 (2) 父は誰か 母は誰か 12 生殖補助医療における親子関係 (3) 科学と家族 13 生殖技術と市場 (1) 自由を制限するもの 14 生殖技術と市場 (2) 自由と自己責任 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>講義予定は上記の通りであるが、進行状況や受講者の関心动向を考慮しながら、内容構成や順番などを調整する。テキストの内容すべてを順にとりあげることにはしないので各自で学習すること。毎回の予習としてはテキストの関連箇所を読んでおくこと。復習としては、レジュメや配付資料を見直し、テキストの該当箇所を読むこと。リアクションペーパーの提出を求めることがある。</p>				
学 生 に 対 す る 価	レポートにより評価する（100点）。				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>神原文子・杉井潤子・竹田美和 編著 やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ 『よくわかる現代家族』[第2版] ミネルヴァ書房 2009年</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	経済学概論				
担 当 教 員 名	今野 聖士				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（高等学校 公民）：必修
学 習 到 達 目 標	①経済学という学問の世界観・ものごとの捉え方を理解できる、②資本主義経済の段階的発展および各段階における特徴を理解できる、③社会人として最低限身につけておくべき経済学の知識（明治以降の経済史を含む）を習得する、以上の3つの能力を育成する。				
授 業 の 概 要	経済学は、「資本主義」という仕組みによって成立している人間社会の仕組みを理解しようとする学問である。モノの〈生産・流通・分配〉のしくみや、貨幣（お金）・金融システム、市場原理主義と格差社会等のテーマについて解説する。また、日本経済を事例として、資本主義経済の歴史を取り上げる。経済学の初心者でも理解できるよう、できるだけ例をあげて説明する。スライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスー経済学とは何かー 2 分業の利益 3 需要と供給・価格メカニズム 4 市場の効率性 5 市場の限界①（情報の非対称性・モラルハザード・逆選択） 6 市場の限界②（所得分配の不公平・貧困問題） 7 労働市場の機能と限界 8 GDP 9 貨幣と中央銀行 10 政府の役割 11 外国為替市場の仕組み 12 株式市場の仕組み 13 日本経済のあゆみ①（明治期からWW1まで） 14 日本経済のあゆみ②（WW1からWW2まで） 15 日本経済のあゆみ③（戦後について） 				
授 業 の 留 意 点	講義の最後10分程度を使ってその講義に関する質問を書き、提出を求める（必須・評価対象）。受講人数によっては全てに答えられませんが、基本的には次の講義の冒頭で回答し、双方向の講義展開を行います。 新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。 特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通しておくとより理解が深まる。				
学 生 に 対 す る 価	毎回の質問票で30点、期末レポート70点の合計100点で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	使用しない。毎回資料を配付する。期末レポートの際に必要なので無くさずに保存しておくこと。専用のファイル等を用意することが望ましい。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	指定しない。必要があれば講義中に随時紹介する。				

科目名	現代経済論（国際経済を含む）				
担当教員名	今野 聖士				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職（高等学校 公民）：必修
学習到達目標	①現代日本の経済システムと経済問題を理解して説明できる ②社会で生じているさまざまな問題を、経済学の視点から論じることができる ③グローバル化しつつある世界経済のしくみを理解して説明できる 以上の3つの能力を育成する。				
授業の概要	現代経済論では、グローバル化する世界経済の下で、戦後70年を迎えた日本経済が今どうなっているのか。また、どのようにここまで歩んできたのか。そしてどのような理論でそれを説明することが出来るのか。といった視点を持ちながら、現代日本の経済と関連する国際経済について解説していく。 講義の形式としてはスライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス日本経済のいま—戦後70年の日本経済— 2 日本経済の成長と循環①（アベノミクス景気・均衡成長・グローバル化） 3 日本経済の成長と循環②（経済成長と景気循環） 4 望ましい物価とは①（デフレ経済・資産価格） 5 望ましい物価とは②（価格理論） 6 財政は再建できるのか①（高齢化と財政負担・財政改革・年金改革） 7 財政は再建できるのか②（財政の仕組み・財政の理論） 8 金融政策はどう変わったのか①（戦後金融システム・デフレ経済下の金融システム） 9 金融政策はどう変わったのか②（金融政策の理論） 10 日本の貿易に何が起きたのか①（アジアとの貿易・自由経済と経済摩擦） 11 日本の貿易に何が起きたのか②（貿易の理論・貿易の構造） 12 円の実力（円とドル・世界の新通貨体制） 13 地球環境とエネルギー問題①（地球温暖化と京都議定書・生物多様性・循環型社会） 14 地球環境とエネルギー問題②（エネルギー問題・公害と外部不経済・環境対策） 15 日本の選択—未来世代と成熟社会— 				
授業の留意点	講義の最後10分程度を使ってその講義に関する質問を書き、提出を求める（必須・評価対象）。受講人数によっては全てに答えられませんが、基本的には次の講義の冒頭で回答し、双方向の講義展開を行います。 新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。 特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通しておくとより理解が深まる。				
学生に対する評価	毎回の質問票（30点）、期末レポート70点の合計100点相当で評価する。				
教科書（購入必須）	使用しない。毎回資料を配付する。期末レポートの際に必要なので無くさずに保存しておくこと。専用のファイル等を用意することが望ましい。				
参考書（購入任意）	指定しない。必要があれば講義中に随時紹介する。				

科目名	哲学				
担当教員名	古牧 徳生				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職（高等学校 公民）：必修
学習到達目標	<p>まずは童心に返って自然を観察しよう。何か規則的なものがあることが分かるだろう。それは目を凝らしても見えないし、耳を澄ましても聞こえない。となると考えるしかない。そこで古代人は理屈に理屈を重ねていくうちに、自然を超えたものを想定するに至った。しかし感覚できないものがどうして分かるのか。こうして彼らは懐疑に陥った。それを乗り越えるため、人類に恩寵を約束するキリスト教の神を前提にしたことで哲学は中世においては神学になった。だが神学の言うところは哲学以上に曖昧であるから、やがて懐疑が復活した。神学が駄目となると後は感覚に頼るしかないから、感覚できる現象を繰り返し観察していくうちに中世の自然学者たちは実験という手法を生み出した。その結果を数字で表現することを思いついたとき、科学が誕生した。もうお分かりだろう。哲学とはすべての学問の根幹であり、すべての学問は哲学の一部なのだ。だから哲学の歩んだ道を知ることが、学問のあるべき姿を知る助けになる。つまりどんな学問も、豊富なデータを土台に論理的思考を重ねていかねばならないのである。そのことを知るまでの先人の苦闘を辿っていこう。</p>				
授業の概要	<p>いかなる学問も確実な認識ができなければ成立しない。ではその確実な認識はいかにすれば可能なのか。いや、その前に確実な認識は可能なのだろうか。いや、そもそも確実なものなどあるのだろうか。古代ギリシア以来、人類を悩まし続けてきた難問とそれへの先人たちの苦闘を見ていくことで、人間の能力には絶望的困難があることを理解し、これから大学で学んでいくうえで必要な知識に対する謙虚な態度を涵養してもらいたい。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 本当に在るものの探求 2 ソクラテスの問いかけ 3 プラトンのイデア論 4 アリストテレスの超自然 5 懐疑主義と神秘主義 6 アウグスチヌスの方法的信仰 7 初期中世哲学 8 大学の発生とアリストテレスの流入 9 神学者たちの対立 10 後期中世哲学と懐疑の復活 11 デカルトの方法的懐疑 12 理性主義の世界観 13 イギリスの経験主義 14 カントの批判哲学 15 人格的神の退場 				
授業の留意点	<p>異常に板書が多いが、これはどうにもならない癖である。ただし書いてある内容は陳腐なものだから、皆さんは無理して書く必要はない。むしろ心して聞いてほしい。なお 10 回目くらいまでの内容は紀要に書いてあるので興味のある方はそれを読んでみればよい。内容的に整理されているし、少なくとも黒板の悪筆に悩まされる心配はない。</p>				
学生に対する評価	<p>期末試験（100 点満点）で評価する。出席は参考程度。</p>				
教科書（購入必須）	<p>特になし。</p>				
参考書（購入任意）	<p>『哲学のアポリア』（J.&S.Rachels 著 晃洋書房）</p>				

科目名	倫理学				
担当教員名	古牧 徳生				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職（高等学校 公民）：必修	資格要件	教職（高等学校 公民）：必修
学習到達目標	主要な倫理説の趣旨を、現実の次元に即して、自分なりに、自分の言葉で説明できること。				
授業の概要	<p>今はむかし、昭和天皇は「雑草という草はありません」と言われたそうだ。まことに名言である。日本人にはレンコンとかゴボウとかワラビとかゼンマイは野菜だが、西洋人にとってはまったくの雑草にすぎない。昔の日本人なら食べなかったマグロのトロは今は高級食材である。ということは自然の世界にもともと価値などないのに、人間が自分の都合に合わせて野菜とか雑草とか言っているわけである。さらに道徳とは高い価値を追求して生きることであるから、道徳についても自然法則のような客観的な基準などないことになろう。しかし我々は現実道徳を云々して生活をしているのだから、ここで一度くらいは価値とか道徳とか考えてみてもいいだろう。本授業では西洋の哲学者たちの倫理思想を見ていくことで、時代や地域の制約を越えて人間のあるべき姿がはたしてあるのか考えてみたい。</p> <p>内容は大別して四つに分けられる。時代順にまず(1)古代の徳の倫理説を見たあと、(2)功利主義へと至る近世イギリスの一連の道徳感覚説を一つずつ見ていこう。次にそれと対比する形で(3)カントの倫理説を見てみよう。それから(4)進化倫理の主張を見ていこ</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ピュシスとノモス 2 アリストテレスと徳の倫理 3 エピクロスとストア派 4 キリスト教倫理 5 ホッブズの性悪説の社会契約論 6 ロックの性善説の社会契約論 7 シャフツベリとマンデビル 8 ハチソンとアダム・スミス 9 ヒューム 10 功利主義 1 11 功利主義 2 12 カントの倫理説 1 13 カントの倫理説 2 14 進化倫理 1 15 進化倫理 2 				
授業の留意点	とかく道徳とか倫理と聞くと非常に堅苦しい響きがあるため、一般の受けは哲学以上に芳しくない。だが本当は哲学の中では一番わかりやすい分野であるし、哲学の諸分野の中でこれからは残るのは第一に倫理学だと思ふから、とにかく聞いてもらいたい。なお板書が非常に多いが、無理に写す必要はない。				
学生に対する評価	試験がすべて。受講者が数人程度なら 30 分程度の口頭試問をする。				
教科書（購入必須）	特になし。				
参考書（購入任意）	<p>一応、参考書として図書館にあるのを訳書をあげておく。</p> <p>『現実をみつめる道徳哲学』『ダーウィンと道徳的個体主義』 『倫理学に答えはあるか』『卓越の倫理』『哲学のアポリア』</p>				

科目名	心理学				
担当教員名	糸田 尚史				
学年配当	2年	単位数	2単位		講義
開講時期	前期	必修選択	社会福祉：必修 栄養・看護・社会保育：選択		教職（高等学校 公民）・社会福祉士・精神保健福祉士：必修
学習到達目標	「心理学」という学問について網羅的に学び、扱われるトピックスについて理解し、専門領域や日常生活へ応用する。人間や動物の心と行動を「心理学的にみることができる」「心理学的に理説明することができる」ようになる。人間の認知や発達などに関する知識と理論に基づき、心理的な支援のできる専門職者を目指す。				
授業の概要	人間（動物）の心と行動を客観的・科学的に研究する学問としての「心理学」について、日常生活にひそむ心理学的な現象を実際に体験し、脳にハッキングをかけ、心理系映画なども視聴し、体系的かつ実践的に学習する。また、多数の写真やイラストのスライドなどから、人間の認知、子どもから大人までの生涯発達、心理的支援などについて考える。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに：履修上の注意事項、成績評価の方法、簡易な心理学的実験による演習 2 感覚・知覚・認知①：感覚・知覚、感覚遮断、順応、闘、サブリミナル効果、プライミング効果、知覚的セット（構え）、目、盲点の実験、視覚 3 感覚・知覚・認知②：色彩視、色覚多様性、図と地、ルビンの盃、ゲシュタルト知覚、両眼視差、立体視、奥行知覚、エイムズの部屋 4 感覚・知覚・認知③：錯視、錯覚、動く錯視（北岡明佳）、ミュラー＝リヤー錯視、サッチャー（トンブソン）錯視、シェパード錯視、恒常性、擬態 5 感覚・知覚・認知④：耳、聴覚、音源定位、腹話術効果、マガーク効果、鼻、嗅覚、舌、味覚、うま味、味覚嫌悪学習 6 感覚・知覚・認知⑤：触覚、ホムンクルス、アリストテレスの錯覚、アフォーダンス、応用心理学、認知と文化 7 記憶：多重（二重）記憶モデル、系列内位置効果、H・M氏、感覚記憶、ワーキングメモリー（短期記憶）、長期記憶、記憶術、忘却、虚偽記憶 8 思考・言語・知能：思考、概念、推論、問題解決、ウェイソン選択課題、ヒューリスティックス、言語、言語相対性仮説、言語獲得、失語症、言語検査、知能理論、知能指数、知能検査、知的能力障害 9 学習：古典的条件づけ、強化、消去、般化、弁別、生物学的制約、オペラント条件づけ、問題箱、動因低減説、洞察学習、潜在学習、社会的学習理論、学習転移 10 感情・動機づけ：誘導運動、感情生起のメカニズム、動機づけ、内発的動機づけ、欲求階層説、葛藤、欲求不満、原因帰属理論、自己効力感、学習性無力感 11 性格・パーソナリティ：類型（タイプ）論、特性論、ビッグ・ファイブ、カ動論、状況論、相互作用論、性格検査、ロールシャッハ検査、TAT、PF スタディ、Y-G 性格検査 12 社会と集団：社会的促進、社会的抑制、社会的手抜き、援助行動、社会的比較過程理論、自己開示、対人魅力、リーダーシップ、集団浅慮、態度変容、バランス理論、同調実験、服従、偏見・差別、説得、認知的不協和 13 発達：生涯発達、発達段階、相互作用説、エソロジー（動物行動学）、アタッチメント（愛着）、認知発達、アイデンティティ（自我同一性）、中年期の危機、結晶性知能 14 心理臨床：ストレス、汎適応症候群、タイプA・B、トラウマ、PTSD、サバイバーズ・ギルト、心理アセスメント、心理的障害、サイコセラピー、カウンセリング、精神分析 15 まとめ 				
授業の留意点	スライドによる心理学実験をたくさん行うので楽しく学修していただきたい。 配布資料は順番に綴り、遺漏のないように管理すること。				
学生に対する評価	(1) レポート形式による期末試験：50点 (2) 授業毎の小レポート：30点 (3) 授業参加態度：20点				
教科書（購入必須）	山村豊ほか 『心理学 [カレッジ版]』 医学書院 2017年				
参考書（購入任意）	N・C・ベンソン著（清水・大前訳） 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体像が見える』 講談社（ブルーバックス） 2001年 長田久雄（編） 『看護学生のための心理学：第2版』 医学書院 2016年 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編） 『心理学：第5版』 東京大学出版会 2015年 下山晴彦（編） 『誠信 心理学事典（新版）』 誠信書房 2014年				

科 目 名	生命倫理				
担 当 教 員 名	古牧 徳生				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	看 護：必修 栄 養・社会福祉：選択	資 格 要 件	教 職（高等学校 公民）：必修
学 習 到 達 目 標	20 世紀半ば、医療技術の進歩により植物状態や臓器移植、さらには経口避妊薬が現れたことは医療の現場のみならず社会全体にも大きな影響を与えた。従来の医療倫理が現実によって乗り越えられてゆく有様をみて、医療関係者たちは個々の例に即応した状況主義的解決を模索するようになった。それが生命倫理という 20 世紀の決議論 Casuistry である。本授業の到達目標は次の二つである。 (1)生命倫理において議論されている主要な問題点を理解する。 (2)それらの問題の背後にはいかなる思想があるのか洞察する。				
授 業 の 概 要	生命倫理が登場した 60 年代の時代背景からまずパーソン論を説明し、そこから第 I 部として安楽死・尊厳死、脳死と臓器移植、脳死体利用とアニマリズムを、第 II 部として中絶、人工授精、体外受精、遺伝子治療、遺伝管理社会を、第 III 部として万能細胞やクローン人間、遺伝子改良など遺伝子医療の近未来を見ていきたい。全体を通せば「権利主体をどう確定するか」(パーソン論)が第 I 部と第 II 部の問題であり、それはつまるところ人間観の問題であり、究極的には世界観にまで行きつく。つまり社会の宗教離れにより、それまでの規範が力を失ったため、行為の是非は個人の欲望で判断する以外になくなってしまったのである。では個人の欲望がすべてとなると将来はどうなるか。それが第 III 部の問題である。				
授 業 の 計 画	1 序論 第二次大戦後の医療の発達と伝統的な医療倫理 2 続き 中絶問題とパーソン論 3 1-1 生命の終わりに関わる医療・終末期医療 4 続き 安楽死から尊厳死へ 5 1-2 脳死と臓器移植 6 1-3 脳死体と動物の地位 7 2-1 生命の始まりに関わる医療・出生回避 8 続き 避妊から中絶へ 9 2-2 生殖補助・人工授精 10 続き 体外受精と代理出産 11 続き 超高齢出産と死後生殖 12 2-3 出生操作 13 続き 優生思想と遺伝管理社会 14 3-1 遺伝子に関わる医療 万能細胞と iPS 細胞 15 3-2 クローン人間				
授 業 の 留 意 点	板書が非常に多いが、無理に写す必要はない。真面目に聞いてくれれば結構。医学の進歩が皆さん一人一人にとって切実な問題であること、人類全体としても大変な曲がり角にあること、さらには従来の倫理観がもはや曲がり角に来ていることが理解できることだろう。				
学 生 に 対 す る 価 値	期末試験（100 点満点）で評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	なし。				
参 考 書 (購 入 任 意)	『基礎から学ぶ生命倫理学』村上喜良(勁草書房) 『生命倫理の教科書』黒崎剛/野村俊明(ミネルヴァ書房) 『神と生命倫理』古牧徳生編(晃洋書房)				

科目名	公民科指導法 I				
担当教員名	三戸 尚史				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職（高等学校 公民）：必修	資格要件	教職（高等学校 公民）：必修
学習到達目標	<p><到達目標> 「良識ある公民としての資質」をはぐくむために必要となる見方・考え方、意識、行動、生き方・あり方を学び、それに対して適切な学習指導法を探究し、自らが社会の一員としての自覚と責任を身につける。</p> <p><授業目標> 日本国憲法・教育基本法の理想とする平和で民主的な国家社会の形成者を育成する教科であるということをしっかり認識し、授業実践などを具体的に学びながら、社会科授業の理論と実際を習得させることを目標とする。</p>				
授業の概要	生徒が能動的に学ぶ意欲を引き出すための授業のあり方（年間計画内容、教材、方法など）について、学生の理解を促したい。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 社会科教師に求められるもの 3 社会科成立の歴史（戦前の社会科、戦後の社会科） 4 学習指導要領の変化と社会科教育 5 社会科の目標と社会科の学力 6 社会科授業づくりの可能性と課題 7 「社会科」と「公民科」という教科について 8 社会科教育の現状と課題 9 「社会科」の内容分析と指導方法 10 学習指導案の作成について 11 学習指導案の実践事例分析と作成実践 12 模擬授業の実施と分析① 13 模擬授業の実施と分析② 14 模擬授業の総括（意見交換・レポート） 15 前期のまとめ 				
授業の留意点	事前に配布する資料に基づいて、受講者への予習・復習の内容等について、その都度指示する。学習指導案づくり、模擬授業のための知識・理論など総合的力を身につけさせたい。学生が自主的、意欲的に講義に参加することを期待する。				
学生に対する評価	授業参加態度、試験、レポート、模擬授業等により総合的に評価する。 100点満点（授業参加態度20点、試験・レポート60点、模擬授業20点）				
教科書（購入必須）	高等学校教科用図書（『諸説 日本史B』：山川書店） ※但し、中学・高校時代に使用していた教科書が手元にある場合は、購入の必要なし 『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版 2018年（平成30年）				
参考書（購入任意）	佐藤功著『憲法と君たち』（時事通信社） 大森 正・石渡 延男 編著 新版『社会・地歴・公民の教育』（梓出版社）				

科目名	公民科指導法Ⅱ				
担当教員名	三戸 尚史				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職（高等学校 公民）：必修	資格要件	教職（高等学校 公民）：必修
学習到達目標	<p><到達目標> 「良識ある公民としての資質」をはぐくむために必要となる見方・考え方、意識、行動、生き方・あり方を学び、それに対して適切な学習指導法を探究し、自らが社会の一員としての自覚と責任を身につける。</p> <p><授業目標> 日本国憲法・教育基本法の理想とする平和で民主的な国家社会の形成者を育成する教科であるということをしっかり認識し、授業実践などを具体的に学びながら、社会科授業の理論と実際を習得させることを目標とする。</p>				
授業の概要	生徒が能動的に学ぶ意欲を引き出すための授業のあり方（年間計画内容、教材、方法など）について、学生の理解を促したい。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 「現代社会」「政治・経済」「倫理」の内容分析と指導方法① 3 「現代社会」「政治・経済」「倫理」の内容分析と指導方法② 4 創造的な授業実践から学ぶもの 5 新聞記事を生かした授業（情報機器の活用を含む） 6 討論授業の工夫 7 教科の評価について 8 時事問題について分析と研究協議（情報機器の活用を含む） 9 学習指導案の作成と検討 10 模擬授業の実施と分析① 11 模擬授業の実施と分析② 12 模擬授業の実施と分析③ 13 模擬授業の実施と分析④ 14 模擬授業の総括（意見交換・レポート） 15 後期のまとめ 				
授業の留意点	事前に配布する資料に基づいて、受講者への予習・復習の内容等について、その都度指示する。学習指導案づくり、模擬授業のための知識・理論など総合的力を身につけさせたい。学生が自主的、意欲的に講義に参加することを期待する。				
学生に対する評価	授業参加態度、試験、レポート、模擬授業等により総合的に評価する。 100点満点（授業参加態度20点、試験・レポート60点、模擬授業20点）				
教科書（購入必須）	高等学校教科用図書（『諸説 日本史B』：山川書店） ※但し、中学・高校時代に使用していた教科書が手元にある場合は、購入の必要なし 『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版 2018年（平成30年）				
参考書（購入任意）	佐藤功著『憲法と君たち』（時事通信社） 大森 正・石渡 延男 編著 新版『社会・地歴・公民の教育』（梓出版社）				

科目名	教育学				
担当教員名	加藤 隆				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職（高等学校 公民）：必修 教職（高等学校 福祉）：選択
学習到達目標	<p>社会の急激な変化の中で、子ども達も変わってしまったという議論や指摘は多い。一体、子ども達の何が変わったのだろうかという問いを大切に授業を進めたい。そのことを具体的には、気質、心身、生活、関わりというキーワードから考えてみたい。また、そのような変化の背景や要因についても触れながら、子どもの全体像に迫りたい。そして、子どもの変化について問うことは、必然的に教育の課題や在り方を問うことにつながる。このようなことを通じて、受講生は自ら問題意識を持ち、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を育成する。</p>				
授業の概要	<p>前半においては、子どもの家庭や地域社会での生活を中心に上げ、食生活や家族との関わり、マスメディアの圧倒的な情報の中での孤独や関わり減少とが及ぼす実態や教育との関わりについて考える。後半では、学校教育から派生することがらを中心に上げ、小一プログラム、多様化する中学校の実情、教師の課題と可能性などについて考えたい。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもは変わったか（戦前の子どもの姿を中心に） 2 子どもは変わったか（戦後の子どもの姿を中心に） 3 社会的権威の変化（権威の不在の中での子ども） 4 孤立する子ども達（豊かさの中での孤独） 5 子どもの五感の変化（アンバランスな五感の実態） 6 少年問題の噴出と対応策（その特徴と、求められるカウンセリング） 7 学校の中の子ども達（子どもに学校はどう映っているか） 8 教室の中の子ども変化（漂流する多数の個） 9 中学生問題に向き合う（問題を潜在化させる子ども達） 10 多様化する高校生たち（地方の高校の挑戦） 11 教師の可能性を探る（国際比較の中で教師像を考える） 12 学校改革の視点（何は改革すべきなのか、何は守るべきなのか） 13 家庭教育の見直し（現代家庭の危うさと可能性） 14 地域の教育力を構築する（過疎化の中で地域にある力とは） 15 これからの教育を考える（グループ発表、意見交流） 				
授業の留意点	自身の経験や課題意識など、教育についての問題意識を持って履修してください。予習も重視したい。				
学生に対する評価	評価は、授業での意欲・態度 30 点、レポートの提出 30 点、及び試験 40 点による。				
教科書（購入必須）	なし。資料は毎回教師が用意します。				
参考書（購入任意）	参考書については、講義開始時、指示します。				

科 目 名	生涯学習論				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（高等学校 公民・高等学校 福祉）：選 択
学 習 到 達 目 標	日本の生涯学習・社会教育実践の蓄積に学び、人々の「学ぶ権利」の保障について、また、問題への気づきから解決に向かう過程とそれに対する支援について理解を深める。身近な生涯学習の機会に関心を持ち、その意義について考えることができる。				
授 業 の 概 要	生涯学習や社会教育は、単なる生きがいづくりやキャリア・アップの手段ではない。生活の困難に立ち向かい、主体的力量を形成する（＝エンパワメント）学びであり、人々の学ぶ権利は「人間の生存にとって不可欠な手段」（ユネスコ「学習権宣言」）である。こうした視点から本講義では、保健・医療・福祉・保育との関連も念頭に、生涯学習・社会教育の本質と構造、実践について概説する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯学習とは何か ー保健・医療・福祉・保育との関連にもふれて 2 成人にとっての「学び」 ー自主夜間中学を例に 3 生涯学習の国際的な動向と「学習権」の発展 4 家庭・学校・地域の連携と社会教育の役割 5 生涯学習・社会教育の法と行政 6 生涯学習・社会教育の施設と職員 7 自己教育活動と仲間づくり・集団づくり 8 北海道の地域づくりと生涯学習・社会教育 9 子どもの職業体験にみる学習の組織化 10 誰が学習要求を組織するのか 11 学習過程とその支援（1）健康学習を例に 12 学習の構造化 ー青年・若者をめぐる社会教育実践① 13 自分さがしと居場所づくり ー青年・若者をめぐる社会教育実践② 14 学習過程とその支援（2）子育て支援と親の学び 15 若者自立支援と社会教育 ー青年・若者をめぐる社会教育実践③ 				
授 業 の 留 意 点	教育実習にともなう欠席状況等によって授業の順番を変更することがある。				
学 生 に 対 す る 価 値	期末レポート（70点）のほか、小レポートやグループワークの参加状況等（計30点）で評価を行う。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	小林文人・伊藤長和・李正連 編著『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013年 鈴木敏正『[増補改訂版]生涯学習の教育学』北樹出版、2014年 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』エイデル研究所、2017年				

科目名	ジェンダー論				
担当教員名	小野寺 理佳				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職（高等学校 公民）：選択
学習到達目標	<p>1. ジェンダーの概念について説明できる。</p> <p>2. 職場、家庭、教育、地域など多くの場面に潜むジェンダー問題について具体的な知識を獲得する。</p> <p>3. それらの問題を生み出す社会的な構造を理解し、ジェンダー平等社会について自分の意見を述べることができる。</p> <p>以上3点を到達目標とする。</p>				
授業の概要	<p>本講義は社会学の一領域という位置づけであり、様々な社会事象をジェンダーの視点で分析する力をつけることを目的とする。女性・男性を取り巻く社会的現実および最近の変化の様相を取り上げ、考察する。セクシャル・マイノリティについても理解を深める。空欄のあるレジュメを配付する。受講者は、講義を受けて自らレジュメを完成させることにより、重要な概念や語句を整理し理解していく。また、必要に応じて関連する雑誌記事のコピー等を配付し、ジェンダーに関わるさまざまな事象をより身近に感じ取れるようにする。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 ジェンダーとはなにか (1)「ジェンダー」のとらえ方 3 ジェンダーとはなにか (2) ジェンダー概念の変容 4 恋愛とジェンダー 5 結婚・家族はどう変わったかー非法律婚のライフスタイル (1) 非法律婚とは何か 6 結婚・家族はどう変わったかー非法律婚のライフスタイル (2) 非法律婚が意味するもの 7 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (1) 生殖への4つの視点 8 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (2) 自己決定権について考える 9 学校文化とジェンダー (1) 学校という場所とジェンダー 10 学校文化とジェンダー (2) 顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム 11 メディアの性役割表現 (1) マスメディアのもつ影響力 12 メディアの性役割表現 (2) メッセージ伝達のメカニズム 13 介護とジェンダー (1) 介護は誰の責任か 14 介護とジェンダー (2) 家族とは誰のことか 15 まとめ 				
授業の留意点	<p>講義予定は上記の通りであるが、進行状況や受講者の関心動向を考慮しながら、内容構成や順番などを調整する。テキストの内容すべてを順に取り上げることはしない。毎回の予習としてはテキストの関連箇所を読んでおくこと。復習としては、レジュメや配付資料を見直し、テキストの該当箇所を読むこと。リアクションペーパーの提出を求めることがある。</p>				
学生に対する評価	レポートにより評価する（100点）。				
教科書（購入必須）	伊藤公雄・牟田和恵（編）『ジェンダーで学ぶ社会学』〔全訂新版〕世界思想社 2017年				
参考書（購入任意）					

科 目 名	文化人類学				
担 当 教 員 名	渡部 裕				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（高等学校 公民）：選 択
学 習 到 達 目 標	本講義の主要な目標は、文化人類学の根幹である民族学を学ぶことによって、人類の文化や社会のあり方の多様性を理解するとともに、他者の文化・社会に対する自己の認識・価値観を見つめ直すための視点を養うことです。また、寒冷な北方地域に暮らしてきたアイヌを含む北方諸民族の文化を知ること、さまざまな工夫や英知が込められた北方の文化の特徴を学びます。				
授 業 の 概 要	文化人類学（民族学）の歴史や学説の概要を学び、具体的な研究事例からさまざまな文化や社会のあり方、歴史的な変化や文化の相互作用、また北方諸民族の文化的特徴などを学びます。さらに、他者の文化を理解する方法を考えます。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 文化人類学とは -人類学・文化人類学の研究分野と基本概念- 2 人類の進化と移動・拡散 -われわれはどこから来たか- 3 日本の人類学・文化人類学の始まり -柳田国男、宮本常一、鳥居龍蔵の調査研究- 4 参与観察に基づく民族調査 -ブロスニワフ・マリノフスキー、原ひろ子の調査から- 5 アメリカの文化人類学 -フランツ・ボアズの功績と後継者たち- 6 寒冷環境における人類の適応 -北方諸民族の文化的特徴- 7 アイヌの歴史と文化 -北太平洋沿岸における位置づけ- 8 記録されたアイヌ文化 -文書と絵画にみるアイヌ文化- 9 毛皮交易と北方諸民族の経済活動 -毛布交易がもたらしたもの- 10 文化接触① -北洋漁業の日本漁民とカムチャツカ先住民との事例- 11 文化接触② -イヌイト（エスキモー）の事例- 12 近代国家における先住民経済と社会 -先住民政策と政治・経済体制- 13 現代の先住民社会 -ロシア・カムチャツカにおける現状- 14 バナナ、ナマコ、エビをめぐる文化人類学 -生産する側と消費する側- 15 文化の多様性と文化相対主義 				
授 業 の 留 意 点	本講義では各受講者が積極的に文化人類学（民族学）を学ぶ姿勢が重要であり、授業のなかで適宜、質問や小レポートによって受講者の理解度や意見・感想を確認します。				
学 生 に 対 す る 価 値	講義修了後のレポート（50点）と、随時行う小レポート（50点）によって評価します。また、授業態度も加味します。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	適宜、プリントを配布します。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	参考図書については、講義の際に指示する予定。				

科 目 名	地域社会論				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教 職 (高 等 学 校 公 民) : 選 択
学 習 到 達 目 標	1. 地域社会をめぐる様々な問題について理解を深める。 2. 現代社会における地域問題について分析する視角を身につける。 以上2点を到達目標とする。				
授 業 の 概 要	専門職者として地域社会のなかで仕事をする際には、その地域のありようを理解し、そこに生きる人々との関係性を育て、必要に応じて適切な対応ができる力が必要である。本講義では、地域が抱える様々な問題を取り上げながら、地域社会とはなにか、地域における生活課題としてどのような問題があるのかを考える。空欄のあるレジユメを配付し、受講者は、講義を受けて自らレジユメを完成させることにより、重要な概念や語句を整理し理解していく。また、必要に応じて関連する論文や雑誌記事のコピー等を配付する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 地域社会とはなにか 3 地域を支える制度と組織 4 地域における社会関係 5 地域にとって「歴史」がもつ意味とは？ 6 地域の重要性とはなにか 7 子育ての場としての地域社会 (1) 家族の変容 8 子育ての場としての地域社会 (2) 子育ての困難 9 学校と地域 10 高齢者にとっての地域社会 (1) 高齢者という存在 11 高齢者にとっての地域社会 (2) 高齢期をどのように生きるか 12 エスニック集団と地域社会 (1) エスニック集団とホスト社会の人々の協働の可能性 13 エスニック集団と地域社会 (2) 現代社会が抱える民族や人種に関する諸問題 14 地域社会の未来 15 おわりに 				
授 業 の 留 意 点	講義予定は上記の通りであるが、進行状況や受講者の関心动向を考慮しながら、内容構成や順番などを調整する。テキストの内容すべてを順に取り上げることはしない。毎回の予習としてはテキストの関連箇所を読んでおくこと。復習としては、レジユメや配付資料を見直し、テキストの該当箇所を読むこと。リアクションペーパーの提出を求めることがある。				
学 生 に 対 す る 価	レポートにより評価する (100 点)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	「地域の社会学」(森岡清志著、有斐閣アルマ、2008 年)				
参 考 書 (購 入 任 意)	「新版キーワード地域社会学」(地域社会学会編、ハーベスト社、2011 年)				

科 目 名	道徳教育論				
担 当 教 員 名	加藤 隆				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職（栄養）：必修	資 格 要 件	教職（栄養）：必修
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心の成長の基本と学校課題（いじめや人間関係の希薄さ）を理解し、その上で子どもの道徳性の発達を考察する。 ・道徳の本質や道徳教育の歴史を概観し、今日の道徳教育を複眼的に捉える。 ・道徳の学習指導案の作成及び実践交流を通じて、よりよい授業方法や教材の用い方、或いは、望ましい評価の在り方を学ぶ。 				
授 業 の 概 要	<p>前半では、日常生活や倫理思想を土台にして道徳の本質を考え、お互いに意見交流をする。また、道徳教育の歴史について西洋と日本に分けてその特徴な道徳教育の捉え方を学び、それを受けて、我が国の学習指導要領に示された道徳教育の流れや目標・内容を理解する。</p> <p>後半は実践交流に重点を置き、学生による道徳学習指導案の作成と発表を通じて指導方法や教材の用い方の改善、或いは、評価の視点を学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義全体のガイダンス：15回の授業展開とねらいについて説明する。 2 道徳とは何か I：モラルやマナーと関連させながら倫理や道徳について考え、お互いの問題意識について意見交流を行う。 3 道徳とは何か II：近代ヨーロッパの倫理思想や東洋の倫理思想と対比させながら、日本の道徳思想の特徴について理解する。 4 道徳教育の歴史 I：日本における修身科と道徳教育の関係、教育勅語と戦後教育の関係について理解を深める。 5 道徳教育の歴史 II：学習指導要領の変遷と道徳教育の流れについて理解する。 6 学習指導要領にみる道徳教育 I：道徳教育の基本的な構成について学び、その目標と内容について理解する。 7 学習指導要領にみる道徳教育 II：道徳教育の基本的な構成について学び、その指導計画作成と、内容の取り扱いについて理解する。 8 道徳教育の授業方法：道徳性の発達段階に応じた資料活用のポイントや「心のノート」の活用について理解する。 9 学習指導案の作成 I：指導事例に基づき、指導の基本について理解する。 10 学習指導案の作成 II：指導事例に基づき、資料の選択について理解する。 11 学習指導案の作成 III：実際に指導案を作成し、お互いに発表し、検討を行う。 12 学習指導案の作成 IV：作成した指導案を全体の中で交流し、改善的な視点から修正などを行う。 13 学習指導案の作成 V：作成した指導案を全体の中で交流し、改善的な視点から修正などを行う。 14 世界の道徳教育を学ぶ：欧米を中心とした道徳教育を紹介し、その成果と課題について理解を深める。 15 まとめと小論文作成：14回の授業を振り返り、道徳教育の課題と可能性について討論する。また、その後小論文を書く。 				
授 業 の 留 意 点	道徳的課題解決に向けてペア・グループ学習で解決の一般化を図るため、論理的に自分の考えを表現できるよう努力すること。新聞や本などを参考に道徳教育の教材を発掘し、教壇に立つ意識を持って講義に参加すること。				
学 生 に 対 す る 価 値	複数のレポート50点、課題提出（指導案の提出を含む）50点を総合的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	特になし。必要な資料などは教師が用意します。				
参 考 書 (購 入 任 意)	講義の中で紹介します。				

教科に関する科目・教科又は教職に関する科目

高等学校（福祉）

科目名	社会福祉原論				
担当教員名	田中 利宗 他				
学年配当	1年	単位数	4単位	開講形態	講義
開講時期	通年	必修選択	必修	資格要件	教職（高等学校 福祉）・社会福祉士・精神保健福祉士：必修
学習到達目標	社会福祉とは何か、歴史的に陶冶されてきた福祉の思想。それに基づいた援助や制度の展開。社会福祉実践の基礎に流れる原則など、社会福祉の基本的枠組みと基本概念及び論点の理解を目指す。				
授業の概要	前期は、社会福祉の歴史的な理解をふまえた現代の到達点と課題を概観し、社会福祉的ニーズや社会福祉援助の理論と方法など、その基本的理解と論点に触れながら講義を進めていく。後期は、社会福祉各論にも触れながら、とくに国際比較の視点も入れて、日本の社会福祉のあり方に言及する。なお、各回の講義の中では、できる限り社会福祉の基本概念や基本用語に関する初歩的理解の課題を取り上げていく。				
授業の計画	1 プロローグ：(モチベーション) 2 社会福祉とはどんなこと(概念) 3-5 社会福祉の発展（慈善事業、社会事業、社会福祉） 6-8 第二次大戦後の社会福祉の展開と到達点 9-11 社会福祉の対象とニーズの実現（ニーズとは何か） 12-14 社会福祉援助の理論と方法（ニーズ実現とソーシャルワーク） 15 前期のまとめと討論 16-17 社会福祉の概念と基本視点をあらためて考える 18-21 社会福祉の諸分野の課題（公的扶助、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉） 22-24 社会福祉の法と行財政 25 社会福祉の組織と運営(専門職論) 26-27 社会福祉と地域社会の課題 28-29 日本の社会福祉の今後の課題（世界との比較も踏まえて） 30 後期のまとめと討論—エピローグ—				
授業の留意点	参考文献は講義の中で紹介する。社会福祉の知識体系は既成の学問分野を多く含んでいることから、とくに基礎的知識も求められる。したがって、社会学、心理学、経済学、哲学、倫理学等などにも親しんでもらいたい。なお、多くの資料等を手渡すので各自管理してほしい。				
学生に対する評価	前期レポートと後期レポートを加味し、評価する。				
教科書（購入必須）	「現代社会と福祉 第2版」大橋、白澤編著 ミネルヴァ書房 毎回プリント資料とともに、必要に応じて、参考図書を紹介する。				
参考書（購入任意）					

科目名	社会保障論				
担当教員名	永嶋 信二郎				
学年配当	2年	単位数	4単位	開講形態	講義
開講時期	通年	必修選択	必修	資格要件	教職（高等学校 福祉）・社会福祉士・精神保健福祉士：必修
学習到達目標	<p>1 社会保障の理論と歴史を学ぶことを通して、「社会保障とは何か」を理解し、社会保障を総合的に把握する。</p> <p>2 年金保険制度の仕組み、医療保険制度、介護保険制度、労働保険制度、社会福祉制度などの様々な社会保障制度の仕組み、特徴、役割について理解する。</p> <p>3 ソーシャルワークにおける社会保障の位置づけについて理解できるようになる。</p>				
授業の概要	<p>社会保障は人々の生活において直面する社会的リスクに対応することによって人々の社会生活を保障する政策であり、セーフティ・ネットの役割を果たしている制度である。そこで、本講義では、社会保障の仕組みと歴史的展開を明らかにすることによって、社会保障が社会に対して果たしている役割を学ぶ。そして、そのために、この授業では、社会保障の倫理と歴史、年金保険、医療保険、介護保険、労働保険、社会福祉、民間保険、現代における社会保障、そして各国における社会保障について講義を行う。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 社会保障の概念・対象・理念 3 社会保障制度の歴史 4 社会保障制度の体系 5 社会保険と社会扶助 6 社会保障の財源・費用・経済 7 年金保険制度（1） 年金保険の仕組み 8 年金保険制度（2） 国民年金 9 年金保険制度（3） 厚生年金 10 年金保険制度（4） 共済年金と年金における最近の動向 11 医療保険制度（1） 医療保険の仕組み 12 医療保険制度（2） 健康保険と共済組合 13 医療保険制度（3） 国民健康保険 14 医療保険制度（4） 高齢者医療制度 15 医療保険制度（5） 国民医療費と医療における最近の動向 16 介護保険制度（1） 介護保険の歴史、保険者、被保険者、利用手続き 17 介護保険制度（2） 介護保険の保険給付、運営、最近の動向 18 労災保険制度（1） 労働保険と労災保険の歴史・被保険者 19 労災保険制度（2） 保険給付、保険料、最近の動向、雇用情勢 20 雇用保険制度（1） 歴史、被保険者、保険給付 21 雇用保険制度（2） 保険料と最近の動向 22 社会福祉制度（1） 社会福祉制度と生活保護制度（公的扶助） 23 社会福祉制度（2） 児童福祉、障害者福祉、ひとり親家庭への支援、高齢者福祉、社会手当 24 社会保障と民間保険（1） 社会保険と民間保険 25 社会保障と民間保険（2） 民間保険 26 現代社会における社会保障制度の課題（1） 少子高齢化と労働市場の変化 27 現代社会における社会保障制度の課題（2） 日本の少子化対策 28 諸外国における社会保障制度（1） 社会保障の類型とヨーロッパにおける社会保障 29 諸外国における社会保障制度（2） アメリカとアジアにおける社会保障と社会保障における国際化 30 まとめ 				
授業の留意点	<p>社会保障は、国民の関心が高い分野であることから、様々なメディアでもよく取り上げられている。よって、日頃から社会保障に関心を持ち、様々なメディアを通して、社会保障の情報に触れておくことと授業の内容も理解しやすくなると思われる。ただメディアの情報を鵜呑みにせず、自分で考えて理解するようにしてほしい。</p>				
学生に対する評価	宿題として配布するプリント（30点）と期末試験（70点）で評価する。				
教科書（購入必須）	社会福祉士養成講座編集委員会編『社会保障（最新版）』中央法規出版				
参考書（購入任意）	棕野美智子・田中耕太郎編著『はじめての社会保障（最新版）』有斐閣				

科 目 名	社会福祉教育論				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（高等学校 福祉）：必修
学 習 到 達 目 標	児童・生徒や成人一般が、国民の権利としての社会福祉に対する関心と理解を深め、地域福祉における参加・参画と協働をすすめるための教育活動について、具体的・実践的な活動を組織するための視点と方法を学ぶ。				
授 業 の 概 要	学校教育などにおいて教育活動として行われる福祉教育だけでなく、地域福祉活動に参加することを通して人々が互助・共助の意義を理解し、サービス利用者として、また地域福祉の担い手として主体形成してゆく過程も視野に入れて、内容を構成する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉教育の概念 2 現代の福祉課題と福祉教育 3 学校教育における福祉教育の展開（1）「福祉のこころ」から人権教育へ 4 学校教育における福祉教育の展開（2）体験学習をどうすすめるか 5 学校教育における福祉教育の展開（3）ボランティア活動と福祉教育 6 学校教育における福祉教育の展開（4）福祉教育の評価をめぐって 7 生涯学習としての福祉教育（1）地域福祉活動における住民の学び 8 生涯学習としての福祉教育（2）地域で考える認知症 9 生涯学習としての福祉教育（3）高齢者にとっての学びと文化 10 生涯学習としての福祉教育（4）障害者の学習権保障と社会参加 11 生涯学習としての福祉教育（5）「助ける一助けられる」を学ぶ 12 生涯学習としての福祉教育（6）地域共生社会の実現と福祉教育 13 職業教育としての社会福祉教育（1）職業指導・職業教育と専門職養成 14 職業教育としての社会福祉教育（2）援助技術教育と社会認識の形成 15 職業教育としての社会福祉教育（3）社会福祉従事者としての職業観・倫理観の指導 				
授 業 の 留 意 点	高等学校（福祉）の教員免許を取得しようとするものは必修となるので注意すること。				
学 生 に 対 す る 価 評	期末のレポートで評価を行う。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	村上尚三郎・阪野貢・原田正樹編著『福祉教育論』北大路書房、1998年 原田正樹『地域福祉の基盤づくり—推進主体の形成』中央法規、2014年 辻 浩『住民参加型福祉と生涯学習』ミネルヴァ書房、2004年				

科 目 名	高齢者福祉論 I				
担 当 教 員 名	黄 京性				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職（高等学校 福祉）・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	本講義では、高齢者を取り巻く環境の変化や関連する諸問題・課題及びニーズを総合的に理解することで高齢者及び高齢社会に対する適切な知識及び必要とされる支援方法を学ぶ。特に、その変化が激しい高齢者における保健・医療・介護関連の制度及び施策に関する動向を時代的背景のその詳細を的確に学習することを目標とする。				
授 業 の 概 要	高齢者・高齢期の身体的・精神的・社会的な特徴やそれに関連する諸要因を自ら考えた上、さらに学術的及び科学的な根拠をもとに学習する。その上、現行の高齢者の健康や生活を支える諸制度・施策を体系的に学ぶ。特に、介護保険制度に関する詳細な知識習得のための構成にする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 加齢（老化と疾病を中心に） 2 高齢者・高齢期の特徴（心理・社会的特性を中心に） 3 高齢社会日本の現状 4 高齢社会対策の変遷と主な内容 5 老人福祉法及び後期高齢者医療制度 6-7 高齢者の在宅福祉サービス及び施設福祉サービス 8 介護保険制度（1） 9 介護保険制度（2） 10 介護保険制度（3） 11 高齢者の虐待及び認知症対策など 12 高齢者を支援する組織と役割 13 高齢者を取り巻く法制度に関する最近の動き 14 国際高齢者福祉 15 総括 				
授 業 の 留 意 点	加齢、高齢者、高齢期、高齢社会、介護及び年金など、全てが身近な問題であることの認識をもって授業に望んでほしい。そのためには授業前後における予習及び復習を徹底すると同時に、日頃マスコミなどの高齢者関連情報に常に興味を持つことが本科目に大いに役立つことを忘れずに。				
学 生 に 対 す る 価 値	テスト(80点)とレポートなど課題への取り組み(10点)や授業態度(10点)（授業妨害行為は減点の対象）				
教 科 書 (購 入 必 須)	高齢者に対する支援と介護保険制度 第5版（中央法規）				
参 考 書 (購 入 任 意)	高齢社会白書、介護保険六法				

科目名	障害者福祉論 I				
担当教員名	堀 智久				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	教職（高等学校 福祉）・社会福祉士・精神保健福祉士：必修
学習到達目標	障害者福祉とは、障害者の社会生活上の問題を社会福祉サービスや社会福祉の援助方法を用いて解決しようとする施策と実践の総称をいう。本講義では、第一に、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢等を理解する。第二に、障害者福祉制度の発展過程について理解する。第三に、相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解することをねらいとする。				
授業の概要	授業の計画にあるように、実態、歴史、障害（者）の概念等について学んだ後、障害者総合支援法を中心に障害者福祉に関する法律について学習する。福祉サービスとその実施体制、専門職の役割や実際等について学ぶとともに、他職種連携、ネットワーキング等の望ましいあり方についても言及したい。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢 3 障害者福祉の歴史 4 障害（者）の概念 5 障害者福祉の法体系と障害者基本法 6 身体障害者福祉法・知的障害者福祉法 7 精神保健福祉法・発達障害者支援法ほか 8 障害者総合支援法の概要 9 障害者総合支援法と介護保険制度の関係性 10 障害者総合支援法における支給決定プロセス 11 障害者総合支援法における自立支援給付 12 障害者総合支援法における自立支援医療費ほか 13 障害者総合支援法における組織及び団体の役割とその実際 14 障害者総合支援法における専門職の役割とその実際 15 障害者総合支援法における他職種連携、ネットワーキング 				
授業の留意点	配布資料の自己管理をしっかりと行うこと。必ず復習しましょう。				
学生に対する評価	リアクションペーパー・宿題（40点）、レポート課題（30点）、期末試験（30点）				
教科書（購入必須）	テキストについては別途周知する。また、毎回、関連する資料を配布する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	子ども福祉論				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職（高等学校 福祉）・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	<p>1. 子どもと家族の問題を社会的・歴史的背景をふまえて理解する。</p> <p>2. 子ども親と子どもの権利保障について理解する。</p> <p>3. 子ども家庭福祉の法制度について理解する。</p> <p>4. 子ども家庭福祉援助の実際と課題について理解し、専門職者として必要な基礎的知識を身につける。</p> <p>以上4点を到達目標とする。</p>				
授 業 の 概 要	<p>上記の学習到達目標を達成するために、1. 現代社会における子どもと家族の生活実態とこれを取り巻く社会状況、必要とされる福祉（子育て、貧困、ひとり親、非行、児童虐待等）について理解する。2. 子ども家庭福祉制度の歴史を理解する。3. 子どもの権利について理解する。4. 子ども家庭に関わる法制度および具体的課題と施策について理解する。5. 子ども家庭福祉を担う専門職のあり方について理解する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 「子ども」とはどんな存在なのか 2 現代社会における子育て 3 子ども家庭福祉の歩み 4 子どもの権利と子ども家庭福祉に関わる法体系 5 子育て支援 6 児童相談所の役割・児童虐待・社会的養護 7 小括 8 子ども家庭に関わる課題と施策 (1) 貧困 9 子ども家庭に関わる課題と施策 (2) 母子保健と障害 10 子ども家庭に関わる課題と施策 (3) ひとり親家庭と女性福祉 11 子ども家庭に関わる課題と施策 (4) 非行 12 ディスカッション (1) 子ども福祉に関わるテーマの映像資料を見よう 13 ディスカッション (2) 映像資料を見た感想や意見を交換しよう 14 子ども家庭福祉の専門職・多職種連携・ネットワーキング 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当箇所、関連箇所を授業の前後に読むこと。 ・授業の展開、受講者の関心動向によって、順序を変更する場合がある。 ・リアクションペーパーの提出を求めることがある。 ・映像資料が長尺である場合やディスカッションを深めるためにより多くの時間が必要と判断される場合は、授業計画を調整して時間を確保することがある。 				
学 生 に 対 す る 価	レポート 20 点 定期試験 80 点 合計 100 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	中央法規 新・社会福祉士養成講座 15 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」(第6版)				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅲ				
担 当 教 員 名	木下 一雄				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（高等学校 福祉）・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	社会福祉士における相談援助の基盤となる理論と支援方法について学び、人と環境とその関係という三者に介入する方法を理解する。専門的援助関係について、対人援助業務に不可欠な価値・倫理や援助過程についておさえ、具体的事例を通してアウトリーチやアセスメントの意義と重要性について理解を深める。				
授 業 の 概 要	相談援助・調整・連携業務に役立つ社会福祉実践に必要な理論と技術の基本を理解する。 相談援助の展開過程について、導入からアセスメントの技術について事例を通して展開する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉の相談援助技術：ソーシャルワークとは 2 ソーシャルワークの構造と機能 3 相談援助の視点：人と環境とその関係性 4 相談援助関係 5 相談援助の展開過程 6 相談援助の展開過程①：インテーク～アセスメント、介入 7 相談援助の展開過程②：モニタリング、効果測定、終結、予防的対応 8 アウトリーチの技術 9 社会福祉士の専門性：連携・調整業務 10 相談援助事例から展開過程をふりかえる 11 実践現場における契約の技術 12 社会福祉士の価値・倫理：支援対象者の自己選択・自己決定 13 アセスメントの技術①：情報収集・面接技術・ジェノグラム 14 アセスメントの技術②：地域資源の把握とエコマップ 15 アセスメントの技術③：支援に活用するアセスメントの実際 				
授 業 の 留 意 点	ソーシャルワーク演習やソーシャルワーク実習との関連も加味しながら社会福祉士の専門性について関心を広げ、出席や課題に対する意欲を持続するよう事例を具体的に伝える。				
学 生 に 対 す る 価 値	定期試験 80 点、レポート提出 20 点とし、総合的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	中央法規 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第 3 版 第 7 巻 相談援助の理論と方法 I』				
参 考 書 (購 入 任 意)	ミネルヴァ書房 『社会福祉用語辞典』				

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅳ				
担 当 教 員 名	宮崎 理				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（高等学校 福祉）・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	相談援助の展開過程より具体的支援事例を通して介入やモニタリング、面接や記録など社会福祉士に必要な技術を習得する。社会福祉士資格取得に不可欠なソーシャルワーク現場実習等をふまえ、相談援助の方法と技術の意義を理解する。				
授 業 の 概 要	社会福祉実践に必要な理論と技術の基本を理解する。 ソーシャルワークの支援事例を通して専門的視点、介入方法、介入の技術を知る。 受講学生の関心があるテーマ等も取り入れながら、価値・倫理、援助の原則を理解する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 相談援助の展開過程①：介入とは 2 相談援助の展開過程②：モニタリングの意義と方法 3 相談援助の展開過程③：効果測定、評価の意義と方法 4 社会福祉士の専門性：地域における資源開発とサービス創出 5 支援事例からアセスメントをふりかえる 6 面接の技術①：コミュニケーション、非言語コミュニケーション 7 面接の技術②：援助の原則、マイクロカウンセリング、応答技法 8 記録の技術①：マッピングの活用（ジェノグラム・エコマップ） 9 記録の技術②：時系列の変化と各種記録様式 10 交渉の技術①：説明責任と権利擁護、情報公開 11 交渉の技術②：連携・協働実践における交渉と調整・仲介業務 12 契約・介入・終結時における倫理的配慮について 13 援助の原則とサービス提供の実践現場を理解する 14 信頼関係の構築に必要な自己理解、自己覚知 15 総括 				
授 業 の 留 意 点	テキストを基本に展開するが、配布資料や事例を伝えることが多いので集中して聴講すること。 具体的な相談援助の方法、技術の習得とソーシャルワーク演習等との連動した科目であることを留意し、出席や目的意識を明確にして臨むことが必要である。				
学 生 に 対 す る 価	定期試験 70%、受講態度 30%で評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・社会福祉士養成講座〈7〉 相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版』中央法規 社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・社会福祉士養成講座〈8〉 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』中央法規				
参 考 書 (購 入 任 意)	ミネルヴァ書房 『社会福祉用語辞典』				

科 目 名	地域福祉論 I				
担 当 教 員 名	長谷川 武史・佐藤 みゆき・宮崎 理・江連 崇				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職（高等学校 福祉）・社会福祉士・ 精神保健福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	1. 地域福祉の理念とその展開について理解する 2. 地域住民が暮らしやすい場所とするための住民参画と主体性形成の方法について理解する 3. 地域福祉実践に関連する各組織の役割と連携のあり方について理解する				
授 業 の 概 要	今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多くなっている。地域とは地域住民の生活の場であり、住民を主体として具体的に実践・展開していく必要があるからであり、その実践の中で福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。 そこで、地域福祉を考えていくためには、「何のための地域福祉なのか」「誰のための地域福祉なのか」を理解していく必要がある。 本科目では、地域福祉理論の歴史的発展過程を踏まえ、今日の社会において地域福祉実践がどのような役割				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 地域福祉とは何か 2 日本における地域福祉の発展過程① 3 日本における地域福祉の発展過程② 4 新しい福祉としての地域福祉 5 地域福祉における主体性の形成 6 地域福祉の基本的な考え方①地域福祉理論の展開と広がり 7 地域福祉の基本的な考え方②地域の捉え方と福祉圏域 8 地域福祉の主体と福祉教育① 9 地域福祉の主体と福祉教育② 10 行政組織と民間組織の役割と実際① 地方分権と地域福祉計画 11 行政組織と民間組織の役割と実際② 社会福祉協議会 12 行政組織と民間組織の役割と実際③ 社会福祉法人・ボランティア活動 13 行政組織と民間組織の役割と実際④ 民生委員活動、福祉ビジネス 14 ソーシャルサポートネットワーク① ネットワークの捉え方とエコロジカルアプローチ 15 ソーシャルサポートネットワーク② 事例検討				
授 業 の 留 意 点	・各講義は、使用するテキストの目次と関連付けている。講義前に該当の項目を熟読しておくこと。 ・講義内では指定テキストの他、適時プリントを配布する。 ・バズセッションを適時行うため、積極的な受講姿勢を望む。				
学 生 に 対 す る 価 値	・毎回のリアクションペーパー：30点 ・講義内の理解度確認レポート：20点 ・期末レポート：50点				
教 科 書 (購 入 必 須)	新・社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法(第3版) 中央法規出版				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	地域福祉論Ⅱ				
担 当 教 員 名	長谷川 武史・佐藤 みゆき・宮崎 理・江連 崇				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職（高等学校 福祉）・社会福祉士・ 精神保健福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	1. 地域福祉実践における社会資源の活用とニーズ把握について理解する 2. 災害支援・復興支援における地域福祉の役割について理解する 3. コミュニティワーク実践の具体的な方法について理解する 4. 共生社会におけるソーシャルワーク実践について理解する				
授 業 の 概 要	今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多くなっている。地域とは地域住民の生活の場であり、住民を主体として具体的に実践・展開していく必要があるからであり、その実践の中で福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。 そこで、地域福祉を考えていくためには、「何のための地域福祉なのか」「誰のための地域福祉なのか」を理解していく必要がある。 本科目では、地域福祉実践における社会資源(ヒト・モノ)の活用方法、災害支援および復興支援における				
授 業 の 計 画	1 地域における社会資源の活用・調整・開発① ニーズに対応するための資源開発、行政施策との関係 2 地域における社会資源の活用・調整・開発② ソーシャルアクションとの関係性 3 地域における福祉ニーズの把握方法と実際 4 災害支援と地域福祉① 地域福祉と災害ソーシャルワークの関係 5 災害支援と地域福祉② 事例検討 6 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方① イギリス 7 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方② アメリカ 8 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割① 基本的な考え方とその展開 9 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割② 具体的な方法と多職種連携 10 住民の参加と方法① 住民参加の意義 11 住民の参加と方法② 福祉行政への住民参加 12 コミュニティワーク事例検討① 個別ニーズから地域ニーズへ 13 コミュニティワーク事例検討② 地域ニーズに対応した社会資源の開発・改良 14 コミュニティワーク事例検討③ 多文化社会における地域福祉実践 15 地域共生社会における地域福祉のあり方				
授 業 の 留 意 点	・各講義は、使用するテキストの目次と関連付けている。講義前に該当の項目を熟読しておくこと。 ・講義内では指定テキストの他、適時プリントを配布する。 ・バズセッションを適時行うため、積極的な受講姿勢を望む。				
学 生 に 対 す る 価 値	・毎回のリアクションペーパー：30点 ・講義内の理解度確認レポート：20点 ・期末レポート：50点				
教 科 書 (購 入 必 須)	新・社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法(第3版) 中央法規出版 (地域福祉論Ⅰから継続使用)				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	介護概論				
担 当 教 員 名	千葉 安代				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（高等学校 福祉）：必修
学 習 到 達 目 標	<p>1. 介護とは何か、介護の専門職の役割について述べることができる。</p> <p>2. 同じ福祉領域に働く介護福祉士への理解を深め、自らの専門性との関係性について考えることができる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>介護は、対象の特性を理解し、どのような生活を望みどうありたいのか、より良く生きるための可能性を引き出し支援する役割をもつ。介護の目的、対象理解、実践のための方法論を学び、福祉の実践者としての基礎を学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 少子高齢社会の現状、家族構造と機能の変化 3 高齢者の総合的理解 4 終末期のケアをめぐる概念の変遷 5 高齢者の終末期の特徴 6 終末期ケアの考え方と実際 7 介護の概念、範囲 8 介護の目的、対象、専門職倫理 9 求められる介護福祉士像 10 認知症の原因と症状 11 新オレンジプランと地域の連携体制 12 認知症のケアの実際 13 生活支援技術（食事・口腔ケア） 14 生活支援技術（移動・入浴・排泄） 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点					
学 生 に 対 す る 価 値	適宜レポート 30 点、定期試験 70 点				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	新・社会福祉士養成講座 13「高齢者に対する支援と介護保険制度」：中央法規出版				

科目名	基本介護技術				
担当教員名	川田 哲也				
学年配当	2年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職（高等学校 福祉）：必修
学習到達目標	①体の仕組みを知ることにより、エビデンスに基づいた基本的な介護技術を習得することができる。 ②「自立」を目的とした介護技術を学ぶことにより、アセスメント能力の向上と介護のポイントを習得することができる。				
授業の概要	専門職として、介護の基礎知識を学んだ上で、本人の状態を把握し適切な方法で介助、支援できるポイントを学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 なぜ、人は寝たきりになるのか？ 2 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは1（覚醒と座位の重要性） 3 移動、移乗介助1（寝返り～起き上がり） 4 移動、移乗介助2（立ち上がり～移動） 5 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは2（食事の基礎知識と介助のポイント） 6 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは3（排泄の基礎知識と介助のポイント） 7 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは4（入浴の基礎知識と介助のポイント） 8 コミュニケーション技法と現場でのポイント 9 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは5（認知症の基礎知識と対応方法） 10 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは6（アセスメントの基本とICFの視点①） 11 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは7（アセスメントの基本とICFの視点②） 12 演習1（事例をとおしての介護実技） 13 演習2（事例をとおしての介護実技） 14 演習3（事例をとおしての介護実技） 15 講義のまとめ（現場で求められる社会福祉士の介護技術の視点） 				
授業の留意点	動きやすい服装				
学生に対する評価	（自己評価25点満点）+（テスト 35点満点）+（レポート 40点満点）=100点				
教科書（購入必須）	介護基礎学 竹内孝仁 医歯薬出版				
参考書（購入任意）					

科目名	介護現場実習				
担当教員名	長谷川 武史				
学年配当	4年	単位数	1単位	開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職（高等学校 福祉）：必修
学習到達目標	<p>介護サービス利用者に対して、授業で学んだ介護知識・技術を踏まえた介護支援の方法を体験的に習得する。</p> <p>(1)利用者に対して、その状況に適したコミュニケーションの方法を習得する。</p> <p>(2)利用者のアセスメントを通して、必要なサービス支援の意義と効果を適切に把握する方法を習得する。</p> <p>(3)利用者との人間的なかわりを体験し、利用者が求めている介護ニーズに関する理解力、判断力を養う。</p> <p>(4)指導者のスーパービジョンを受けながら、介護職務についての理解を深める。</p>				
授業の概要	<p>介護サービス利用者個々における援助の必要性を客観的かつ具体的に考察し、理論的根拠に基づく思考と実践を行う。</p> <p>事前学内授業（オリエンテーション含む）、現場実習5日、事後学習(レポート)を予定している。</p> <p>実習施設は履修人数に応じて、市内のデイケアセンター、デイサービスセンター、介護老人福祉施設のいずれかを予定している。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(実習に向けての事前学習について) 2 事前学習(1)介護技術の振り返りと実習課題の検討 3 事前学習(2)実習課題の作成と実習に向けての諸注意 <p>実習 計4日間の施設実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 事後学習(1)実習の振り返りの実習課題の考察 5 事後学習(2)実習成果報告書の作成 6 事後学習(3)実習成果報告 				
授業の留意点	現場実習に対する明確な目的意識をもって、自主的かつ積極的な姿勢で取り組むこと。				
学生に対する評価	<p>実習日誌：20点</p> <p>実習課題の考察：30点</p> <p>実習成果報告書：30点</p> <p>事前・事後学習の状況：20点</p>				
教科書（購入必須）	使用しない。 授業中にレジュメ、資料等を適宜配布する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	ソーシャルワーク演習 I				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・永嶋・長谷川(武)・堀・宮崎・江連				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	教職(高等学校 福祉)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	<p>1.実践力の高い社会福祉士（ソーシャルワーカー）を養成する観点から、ソーシャルワークの基本的知識と技術を習得するための基礎的知識を習得する。</p> <p>2.疑似体験やグループでの討議などを通じて、コミュニケーション能力や自己覚知能力を習得する。</p> <p>3.相談援助事例の検討を通じて相談援助技術の基本を習得する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>ソーシャルワークの知識と技術に関する他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められている相談援助に関する知識と技術について、実践的に習得していきます。具体的には、自己覚知や基本的なコミュニケーション技術と方法の習得を通じて、基本的な面接技術の習得ができるように学んでいくこととなります。</p> <p>1 年次は入門編として具体的課題別の相談援助事例を活用し、総合的包括的な援助について実践的に学べるようにします。その際、具体事例を通じて、相談援助場面や過程を想定し、個別にまた集团的に実技指導ができるような演習内容</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワーク演習 I を始めるにあたって 2 自己理解と自己覚知(1) 3 さまざまな疑似体験と実体験(1) 4 さまざまな疑似体験と実体験(2) 5 さまざまな疑似体験と実体験(3) 6 さまざまな疑似体験と実体験(4) 7 さまざまな疑似体験と実体験(5) 8 自己理解と自己覚知(2) 9 自己理解と自己覚知(3) 10 自己理解と自己覚知(4) 11 相談・援助実践について学ぶ(1) 12 相談・援助実践について学ぶ(2) 13 相談・援助実践について学ぶ(3) 14 相談・援助実践について学ぶ(4) 15 ソーシャルワーク演習 I ふりかえり 				
授 業 の 留 意 点	<p>ソーシャルワーク〈社会福祉援助実践〉の実際をより具体的、実践的に学ぶことができるように、グループ別の演習で展開されます。学生個々の主体的参加や積極的発言を強く望んでいます。</p>				
学 生 に 対 す る 価	<p>単元レポート：50 点 期末レポート：50 点</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>必要に応じて資料等を配布します。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅱ				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・永嶋・長谷川(武)・堀・宮崎・江連				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高等学校 福祉)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	<p>1.実践力の高い社会福祉士(ソーシャルワーカー)を養成する観点から、ソーシャルワークの基本的知識と技術を習得するための基礎的知識を習得する。</p> <p>2.疑似体験やグループでの討議などを通じて、コミュニケーション能力や自己覚知能力を習得する。</p> <p>3.相談援助事例の検討を通じて相談援助技術の基本を習得する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>ソーシャルワークの知識と技術に関する他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められている相談援助に関する知識と技術について、実践的に習得していく。具体的には、自己覚知や基本的なコミュニケーション技術と方法の習得を通じて、基本的な面接技術の習得ができるように学んでいく。</p> <p>1年次は入門編として具体的課題別の相談援助事例を活用し、総合的包括的な援助について実践的に学べるようにしていく。その際、具体事例を通じて、相談援助場面や過程を想定し、個別にまた集団的に実技指導ができるような演習内容にしていく。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワーク演習Ⅱをはじめるにあたって 2 基本的なコミュニケーション技術の理解(1) 3 基本的なコミュニケーション技術の理解(2) 4 基本的なコミュニケーション技術の理解(3) 5 基本的な面接技法の理解(1) 6 基本的な面接技術の理解(2) 7 基本的な面接技術の理解(3) 8 基本的な面接技術の理解(4) 9 基本的な面接技術の理解(5) 10 基本的な面接技術の実践(1) 11 基本的な面接技術の実践(2) 12 基本的な面接技術の実践(3) 13 基本的な記録技法の理解(1) 14 基本的な記録技法の理解(2) 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	ソーシャルワーク〈社会福祉援助実践〉の実際をより具体的、実践的に学ぶことができるように、グループ別の演習で展開されます。学生個々の主体的参加や積極的発言を強く望む。				
学 生 に 対 す る 価	<p>単元レポート：50点</p> <p>期末レポート：50点</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	必要に応じて資料等を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	ソーシャルワーク現場実習 I				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・永嶋・長谷川(武)・堀・宮崎・江連				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高等学校 福祉)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	実践力の高い社会福祉士(ソーシャルワーカー)を養成する観点から、ソーシャルワーク現場実習Ⅱに先立ち、社会福祉施設・機関の見学実習を通じて、社会福祉現場とはどのような機能や役割、また、どのような専門職員が従事しているのかを理解するとともに、見学後のグループ討議等によってその知識を深め、ソーシャルワーク実習Ⅱに向けて、ソーシャルワーカーとしての資質を向上させ、施設実習に対する基礎知識を身に付けることを到達目標とします。				
授 業 の 概 要	社会福祉現場における見学、実習に先立ち、当該施設の施設長等よりお話をお聴きし、当該施設の理解を深めます。また、実際に社会福祉現場で実習することを通じて、社会福祉現場の実状と課題を整理し、次年度の現場実習に役立てていかれるようにします。現場実習先は、社会福祉機関・施設(行政・地域包括支援センター、社会福祉協議会、高齢者関連施設、障害者関連機関・施設、児童関連施設等)です。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 社会福祉機関・施設実習① 3 社会福祉機関・施設実習② 4 社会福祉機関・施設実習③ 5 社会福祉機関・施設実習④ 6 社会福祉機関・施設実習⑤ 7 ソーシャルワーク現場実習報告会参加 				
授 業 の 留 意 点	前段は、全体で社会福祉施設・機関についての基本的な学習おこないます。後半では、グループに分かれて個別に演習を展開していきます。これらを通じて、社会福祉施設についての法的根拠、社会的役割、機能の理解等を重点的に学習していきます。また、実習の際の基本的な心構えやマナーなどについても学びます。				
学 生 に 対 す る 価 値	演習を通じていくつかの課題を提示します。そのレポートと出席状況、演習における授業態度を総合的に判定し、評価します。演習態度 30 点 レポート 70 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	必要に応じてレジユメを作成して配布します。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	医療概論				
担 当 教 員 名	大見 広規				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	社会福祉：必修 栄養：選択	資 格 要 件	教職（高等学校 福祉）・社会福祉士・ 精神保健福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	社会福祉士・精神保健福祉士として実地で役割を果たすためには、生体としての人の解剖生理学的な仕組み、各種疾病の原因・発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法の基礎、疾病についての基礎的な医学的知識、疾病によって失われた機能を補償する保健医療福祉制度、を習得しておく必要がある。本講義では、医療現場における福祉職の基礎的な医学的知識の獲得を目標とする。				
授 業 の 概 要	人体の構造・機能、疾病・障害および福祉政策、関連法制度について解説する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人の成長・発達 2 人の老化 3 身体構造と心身の機能（1）：細胞、体液、免疫 4 身体構造と心身の機能（2）：神経 5 身体構造と心身の機能（3）：感覚器、筋肉 6 身体構造と心身の機能（4）：循環器 7 身体構造と心身の機能（5）：消化器、呼吸器、体温 8 身体構造と心身の機能（6）：泌尿器、内分泌 9 疾病の概要（1）：生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、高血圧 10 疾病の概要（2）：糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患と膠原病 11 疾病の概要（3）：腎臓疾患、泌尿器系疾患、骨関節疾患、目・耳の疾患、感染症、神経疾患と難病、先天性疾患、その他の高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケア 12 障害の概要（1）：ICF、視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、高次機能障害 13 障害の概要（2）：DMS、発達障害、認知症、精神障害 14 リハビリテーションの概要 15 健康のとらえ方 				
授 業 の 留 意 点	教科書、講義資料を中心に授業を進める。講義の際に問題集と復習問題を配布する。試験は問題集と復習問題から出題する。				
学 生 に 対 す る 価	定期試験 100 点により評価する。2005 年度（社会福祉士：第 18 回、精神保健福祉士：第 9 回）～2018 年度（社会福祉士：第 31 回、精神保健福祉士：第 22 回）社会福祉士・精神保健福祉士国家試験共通問題のうちこの分野に関連する問題 57 問（各 1 点）をマークシート方式で回答を求める。復習問題から 6 問（各 5 点）を論述式で説明、用語の説明から専門用語の回答：キーワード集（13 問×1 点）を求め評価する。また、復習問題の提出状況も最終評価に反映させる場合がある。国家試験問題のうちこの分野に関連する問題、復習問題、キーワード				
教 科 書 (購 入 必 須)	社会福祉士養成講座編集委員会編集「人体の構造と機能及び疾病」 中央法規出版株式会社 厚生統計協会編『厚生指針・国民衛生の動向』厚生統計協会（1 年次の公衆衛生学で使用したもの）				
参 考 書 (購 入 任 意)	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験問題分析と受験対策 共通科目 久美（株） 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック 共通科目 中央法規 吉岡利忠、内田勝雄編「生体機能学テキスト 第 2 版」中央法規出版（2009 年） 田中明、宮坂京子、藤岡由夫編「栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち」羊土社 田中明、宮坂京子、藤岡由夫編「栄養科学イラストレイテッド [演習版] 臨床医学ノート 疾病の成り立ち」羊土社：絶版ですが図書館にあります。 加藤昌彦他「イラスト人体の構造と機能および疾病の成り立ち				

科目名	介護福祉論				
担当教員名	長谷川 武史				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職（高等学校 福祉）：必修
学習到達目標	1. 介護福祉の概念について理解する。 2. 介護福祉の今日的状況について理解し、介護を取り巻く課題を検討できる視座を獲得する。 3. 介護過程の展開を理解し、利用者の状況にあった支援環境を考察できるようになる。				
授業の概要	今日の介護福祉の位置づけを把握し、海外と日本における介護福祉の沿革と課題について理解する。そのうえで、在宅介護・施設介護の意義と沿革を学び、人権尊重を基盤とした介護に関する基礎的な知識を習得する。				
授業の計画	1 オリエンテーション、介護福祉の概念を理解する 2 介護福祉の目的(理念とその対象)を理解する 3 介護福祉の範囲と方法を理解する 4 地域包括ケアシステムの目的と課題を理解する 5 共生社会における要介護者の生活支援を理解する 6 介護職という労働環境を理解する 7 基本的な介護過程の展開を理解する 8 高齢者のこころとからだのしくみを理解する 9 認知症による生活への影響と介護者支援についての理解する 10 施設介護におけるケア方式を理解する 11 高齢者の人権と関連する問題について理解する①(高齢者虐待) 12 高齢者の人権と関連する問題について理解する②(介護殺人) 13 終末期ケアについて① 日本における終末期ケアの現状を理解する 14 終末期ケアについて② 終末期ケアにおける専門職連携・家族支援について理解する 15 介護福祉の今日的課題を整理する				
授業の留意点	毎回、講義と演習を使用して展開していく。演習では各自の積極的な取り組みが必要となる。				
学生に対する評価	毎回のリアクションペーパー：30点 レポート：70点				
教科書（購入必須）	必要な資料は講義時に配布する				
参考書（購入任意）					

科 目 名	障害者福祉論Ⅱ				
担 当 教 員 名	堀 智久				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	社会福祉士・精神保健福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	障害者福祉論Ⅰの内容を受け、より発展的かつ実践的な講義をおこなう。障がい者の福祉需要の把握方法とその具体的内容、障がい者に対する相談援助活動、障がい者福祉及び関連分野の専門職の連携のあり方、当事者、家族、ボランティア、関連分野の専門職などの活動や実践に関して学ぶ。その中で障がい書を取り巻く状況、権利擁護、福祉関連の制度、法律の変化・改正の流れを学び何が課題となっているかを理解する。				
授 業 の 概 要	理論と実践、具体的事例の学習を行うことにより、また、本学教員による障害者福祉論Ⅰの講義と本講義・障害者福祉論Ⅱの講義が相まって学習効果をあげるように進行する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障がいとは 2 現代社会と障がい及び障がい者－制度と法律 3 障がい児・者と家族が置かれている現状 4 障がい児・者をとりまく地域環境と地域生活支援 5 障がい者福祉計画 6 障がい児・者福祉サービスの実際（１） 7 障がい児・者福祉サービスの実際（２） 8 障がい者福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方 9 障がい者に対する相談援助活動 10 当事者、当事者団体、親、親の会、家族会に学ぶ 11 地域のボランティア団体に学ぶ 12 インクルーシブ社会と連携、協働 13 関連分野の専門職に学ぶ 14 災害と障がい者 15 障がい者の権利擁護と触法問題 				
授 業 の 留 意 点	講義の中で、随時発言を求めながら進めていく。 実践的講義により障がいの理解を深めると共に理論と実践の統合を図る。				
学 生 に 対 す る 価	レスポンスペーパー（30点）、レポート（30点）、期末試験（40点）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	講義ごとにプリントを配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	講義ごとにプリントを配布する。				

科目名	福祉科教育法 I				
担当教員名	大坂 祐二				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職（高等学校 福祉）：必修	資格要件	教職（高等学校 福祉）：必修
学習到達目標	高等学校における福祉教育や教科「福祉」の意義と目標・内容を理解する。国民的課題としての社会福祉を青年期に学ぶ意義について考察し、授業設計に活用することができる。				
授業の概要	現行の学習指導要領、介護福祉士養成カリキュラムをふまえながら、2022年度から実施予定の次期指導要領も視野に入れた内容とします。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科「福祉」創設の意義と福祉教育の役割 2 福祉人材問題と高校福祉科 一土・土法改正と学習指導要領改訂の経過 3 青年期における「福祉の学び」 一私の福祉学習体験をふりかえる 4 高等学校における福祉教育の全体像 5 福祉科の目標と内容① 社会福祉基礎（1）社会福祉の理念と意義 6 福祉科の目標と内容① 社会福祉基礎（2）私たちの生活と福祉の関わり 7 福祉科の目標と内容② 介護福祉基礎 8 福祉科の目標と内容③ 介護過程 9 授業の展開と構成を考える（1）指導案に何を書くか 10 授業の展開と構成を考える（2）指導案の発表と検討 11 福祉科の目標と内容④ コミュニケーション技術 12 福祉科の目標と内容⑤ 生活支援技術（1）生活の理解と支援・医療的ケア 13 福祉科の目標と内容⑤ 生活支援技術（2）生活支援技術の指導 14 福祉科の目標と内容⑥ こころとからだの理解 15 福祉科の目標と内容⑦ 福祉情報活用（福祉情報） 				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・高校福祉の教員採用は、例年 30 ほどの府県で行われています。道内でも福祉のコース等をおく総合学科の高校が増えてきました。道・札幌市では採用試験は行われていませんが、高校福祉免許を活かす道はあります。「社会福祉学科で学んだ教員」の強みを生かせる免許ととらえてほしいものです。 ・高校生など青年期に福祉や介護を学ぶ意義について考えることを求めます。大学入学後も含め、自らの経験もふり返りながら授業に臨んでください。 				
学生に対する評価	レポート試験（70点）および指導案等の提出物（30点）				
教科書（購入必須）	高等学校学習指導要領、高等学校指導要領解説 福祉編（平成 34 年 4 月施行予定 文部科学省） 保住芳美編著『高等学校 新学習指導要領の展開 福祉科編』明治図書、2010 年				
参考書（購入任意）	大橋謙策編『福祉科指導法入門』中央法規、2002 年				

科 目 名	福祉科教育法Ⅱ				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	教 職 (高 等 学 校 福 祉) : 必 修	資 格 要 件	教 職 (高 等 学 校 福 祉) : 必 修
学 習 到 達 目 標	福祉科教育法Ⅰをふまえて社会福祉の理念、制度、支援技術等の効果的な指導方法について考察する。模擬授業やグループワークを通して具体的な授業を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。				
授 業 の 概 要	教科「福祉」は、介護実習をはじめとする体験的な学習など多様な方法で展開される。それらの方法について理解を深める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉科の目標と内容⑧ 介護実習 2 福祉科の目標と内容⑨ 介護総合演習 3 福祉科・福祉教育における教育方法 4 教科「福祉」における「授業」をどうつくるか 5 教材研究と指導案（1）学習の内容と教材 6 教材研究と指導案（2）教材から学習活動への展開 7 福祉教育における評価 8 指導案の検討と模擬授業（1）指導案の検討 9 指導案の検討と模擬授業（2）模擬授業 10 指導案の検討と模擬授業（3）ふりかえり 11 授業における ICT と福祉機器の活用 12 体験学習の指導 13 ボランティア学習の指導 14 訪問・交流・行事の指導 15 現代の福祉課題と福祉教育 				
授 業 の 留 意 点	グループワークや模擬授業を取り入れて行うので、学生の積極的な参加を求める。履修者数や模擬授業を行う人数によって授業の計画を変更することがある。				
学 生 に 対 す る 価 値	模擬授業の発表内容と提出課題（60 点）およびレポート試験（40 点）				
教 科 書 (購 入 必 須)	高等学校学習指導要領、高等学校指導要領解説 福祉編（平成 34 年 4 月施行予定 文部科学省） 保住芳美編著『高等学校 新学習指導要領の展開 福祉科編』明治図書、2010 年				
参 考 書 (購 入 任 意)	大橋謙策編『福祉科指導法入門』中央法規、2002 年				

教育の基礎的理解に関する科目等

高等学校（公民・福祉）

科目名	教育原理				
担当教員名	加藤 隆				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職：必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における教育の課題や可能性について相互関連的に考察する。 ・世界や日本の教育の歴史や教育制度について概括的に理解する。 ・代表的に教育思想家について理解し、これからの教育の在り方を考察する。 				
授業の概要	日本の学校教育に大きな影響を与えた教育思想や教育の基礎理論を取り上げ、それとの関連で学校教育上の成果と課題について考察する。また、そのことの延長線上にある課題として、児童生徒の現状や、学校教育が抱える問題についても学ぶ。それらを踏まえて、家庭・地域との連携の課題の可能性について考える。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業全体のガイダンス、経験してきた教育について考える 2 社会環境の変化と教育の光と影 3 教育改革の視点（変革すべきは何か、守るべきは何か） 4 教育の歴史（1）西洋古代近代教育を中心に 5 教育の歴史（2）西洋現代教育を中心に 6 教育の歴史（3）日本の明治・大正期の教育の歴史を中心に 7 教育の歴史（4）昭和期の戦前・戦後の教育の歴史を中心に 8 教育の歴史（5）現代社会と求められる学校教育の方向 9 コメニウスの教育思想と実践（「大教授学」「世界図絵」など） 10 ルソーの教育思想と実践（代表的著作「エミール」とその教育論） 11 ペスタロッチとフレーベルの教育思想と実践（教育実践や幼稚園） 12 デューイの教育思想と実践（「学校と社会」、シカゴ大学附属小での実験的研究） 13 家庭・地域との連携の課題の可能性（1）日本の先進事例を中心に 14 家庭・地域との連携の課題の可能性（2）北欧の先進事例を中心に 15 授業のまとめ（これまでの振り返り、レポート） 				
授業の留意点	自身の経験や課題意識など、教育についての問題意識を持って履修してください。予習も重視します。				
学生に対する評価	評価は、授業での意欲・態度 30 点、レポートの提出 30 点、及び試験 40 点による。				
教科書（購入必須）	指定する教科書はありません。必要なものは資料などで用意します。				
参考書（購入任意）	参考書については、講義開始時、指示します。				

科 目 名	教職概論				
担 当 教 員 名	佐藤 憲夫				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	教 職 : 必 修	資 格 要 件	教 職 : 必 修
学 習 到 達 目 標	(到達目標) 教職を目指す学生のための入門授業として、教職への理解を深めるとともに、自らが目指す教師の姿を具体的に描けること、教師の立場から保護者への対応を考える視点を持つことを到達目標とする。 (テーマ) 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む)				
授 業 の 概 要	教育の今日的課題と現状を学び、教職者としてのあるべき姿と社会的要請として求められる姿を学ぶ。さらに、現実の職務内容の広さと多忙煩雑さ、そこから得られる達成感など、多角度から「教職」についての理解を深める授業とする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 本講義の概要とオリエンテーション なぜ教師を目指すのか 2 教職の意義 3 教職観と理想の教師像 4 教師と教員養成の歴史 5 教員の任用とサービス1－配置・身分・サービス 6 教員の任用とサービス2－分限・懲戒・勤務条件 7 教師の役割と仕事 8 校長・副校長・教頭の役割 「チーム学校運営」への対応を含む 9 ミドルリーダーの役割 「チーム学校運営」への対応を含む 10 教師の職場環境 「チーム学校運営」への対応を含む 11 教師の資質向上と研修 12 教師に必要な資質と力量形成 13 教師の資格と採用試験 14 教育現場を知る(ケーススタディ) 「チーム学校運営」への対応を含む 15 「生きぬく力」を育てる教師 講義のまとめ 				
授 業 の 留 意 点	教職への希望と夢を大切に持つことができる授業にしたいと考えています。皆さんの考えや思いを交流できる機会を、ケーススタディなどを通じて持ちたいと考えています。				
学 生 に 対 す る 価 値	<ol style="list-style-type: none"> 1. リアクションペーパー 30点(授業の感想、課題提出など) 2. 課題レポート 70点 3. 授業態度を加味する 				
教 科 書 (購 入 必 須)	「教職概論 第5次改訂版 -教師を目指す人のために-」佐藤晴雄 学陽書房				
参 考 書 (購 入 任 意)	講義の中で適宜紹介する				

科目名	教育法概論				
担当教員名	松倉 聡史				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職（高等学校 公民）：必修	資格要件	教職（高等学校 公民・幼稚園）：必修
学習到達目標	学習到達目標を①戦前の教育法体系から戦後の教育法体系へといかに転換されたかを理解すること、②現代公教育制度の意義・原理・構造について、法的・制度的仕組みに関する知識を修得し、内在する課題を理解する、④学校や教育行政の目的と実現について、経営の観点から理解する、⑤学校や地域の連携や地域との協働のあり方と子どもの人権教育について事例を踏まえて理解する、⑥学校事故や災害に関して、学校安全の目的や対策を理解する。				
授業の概要	教育法の概要を基礎的に学び、戦後の教育的諸課題について学校を中心に具体的に考察する。また、現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項の基礎的知識を学ぶとともに諸課題を理解する。学校や地域との連携とともに子どもの人権教育、主権者教育のあり方を学ぶ。学校事故の実情や学校安全のあり方を学ぶ。現代の教育改革の動向や課題をさぐることを本講義の課題とする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育法の歴史 2 現代法学と人権としての教育 3 戦後教育行政改革と展開 4 学校教育制度の構造と展開 5 現代教育の課題と教育法・・・教育内容をめぐる法的問題（1）国民の教育権説、国家の教育権説 6 現代教育の課題と教育法・・・教育内容をめぐる法的問題（2）家永教科書裁判、旭川学テ裁判 7 子どもの「生きる力」を育む教員の役割 8 教員の地位と身分保障（1）教職の意義、（2）国・公・私立学校教員の違い 9 教員の地位と身分保障（1）教員の待遇と服務条件、（2）教員の研修 10 学校事故・学校災害の実情と学校安全のあり方：（1）安全・安心な教育、（2）子どもの居場所、（3）安全・防犯への対応、（4）子ども・保護者への安全教育、（5）危機管理体制への整備 11 子どもの人権教育、（1）子どもの権利条約を活かした教の実践、主権者教育のあり方、（2）地域・家庭と連携した子育て支援と取り組み事例、（3）保護者参加による地域交流、（4）事故・防犯における保護者、地域社会との連携・協力体制 12 現代教育改革の動向と教育法（1）・・・教育基本法の改正 13 現代教育改革の動向と教育法（2）・・・教育基本法と教育三法の改正 14 教師に求められる適格性と専門性 15 教師をめぐる現状と課題（1）変容する子ども・家庭・地域、（2）いじめ・不登校の対応、（3）懲戒・体罰をめぐって、（4）子どもの虐待防止と地域の取り組み、（5）子どもの安心・安全と子どもの居場所づくり、（6）子育て・子育てを支援する相談救済制度 				
授業の留意点	教育と法との関係を具体的に把握するようにつとめること。教職に対して熱意ある学生の受講を期待する。				
学生に対する評価	授業の積極的な参加態度（10点）、小レポート（20点）、レポート課題試験（70点）などを総合して評価します。				
教科書（購入必須）	特になし、ほぼ毎回、プリントを配布します。				
参考書（購入任意）	参考書等を必要に応じて指示します。				

科目名	教育心理学				
担当教員名	糸田 尚史				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職：必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	<p>テーマ：教育にかかわる心理学の理論や実践について学び、知識や応用力を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育にかかわる心理学についての知識や理論を学び、理解する ・教育にかかわる心理学についての知見を教育現場に応用できる力を身につける ・教師としての自覚と責任をもつ 				
授業の概要	<p>学習、神経発達症（知的能力障害・発達障害）、モチベーション、記憶、パーソナリティなど教育と関連の深い心理学的な領域について解説する。実際の教育相談事例などにも触れる。写真や図が主体のスライドと共に映画などの視聴覚教材や教育にかかわる優れた絵本なども織り交ぜながら講義を進める。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに（心理学、教育心理学、発達心理学、心理学実験） 2 学習① 条件づけ 3 学習② 学習理論 4 学習③ 発達理論 5 知能① 知能理論 6 知能② 遺伝は環境を通して 適性処遇交互作用 7 神経発達症と特別支援教育① 心の理論（心の理解） 8 神経発達症と特別支援教育② 知的能力障害 ADHD DCD SLD 児童虐待 9 モチベーション① 進化心理学、動因低減説、動機づけ 10 モチベーション② 学習性無力感 自己効力 帰属理論 11 記憶① 感覚記憶 ワーキングメモリー（短期記憶） 長期記憶 12 記憶② 記憶 忘却 記憶術 13 パーソナリティ① 類型論 特性論 14 パーソナリティ② 力動論（精神分析理論） 15 まとめ 				
授業の留意点	<p>心理学的実験・演習も行うので積極的に参加してほしい。 配布資料は順番に綴り、遺漏のないように管理していただきたい。</p>				
学生に対する評価	<p>試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物（20点）は毎時の「気づき・学び」にかかわるリアクションペーパーの作成・提出である。</p>				
教科書（購入必須）	<p>N・C・ベンソン著（清水・大前訳） 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体像が見える』 講談社（ブルーバックス） 2001年</p>				
参考書（購入任意）	<p>鎌原雅彦・竹綱誠一郎 『やさしい教育心理学（第4版）』 有斐閣 2015年 教員採用試験情報研究会 『教職教養これだけはやっところ（教員採用試験シリーズ）』 一ツ橋書店 2016年 東京アカデミー 『教員採用試験対策参考書2 教職教養Ⅱ（教育心理・教育法規）』 七賢出版 2017年</p>				

科 目 名	特別支援教育の基礎				
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	1. インクルーシブ教育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子どもの教育の在り方について理解する。 2. 様々な障害についての理解や支援の方法、組織的な支援体制について学ぶ。 3. 障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 4. 障害等のある子どもにかかわる教育や福祉等の現状と課題について理解する。				
授 業 の 概 要	(1) インクルーシブ教育を支える理念、(2) 障害等の理解と支援 (3) 家庭及び関係機関との連携、 (4) 障害等のある子どもにかかわる教育や福祉の現状と課題 などについて学び、グループ協議を行う。				
授 業 の 計 画	第1回 特殊教育から特別支援教育へ転換の経緯 第2回 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システムが目指すもの 第3回 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(1) LD、ADHDの児童生徒 第4回 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(2) 自閉スペクトラムの児童生徒 第5回 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(3) 診断のない児童生徒 第6回 児童生徒の行動の理解と対応(1) コミュニケーション 第7回 児童生徒の行動の理解と対応(2) 不適切な行動 第8回 特別支援学級、通級指導教室の教育課程と個別の教育支援計画 第9回 特別支援学校の教育課程と自立活動の指導 第10回 就学に向けた相談支援体制と福祉制度 第11回 特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制 第12回 家庭や地域と連携した支援体制の構築 第13回 関係機関と連携した支援体制の構築 第14回 児童生徒一人一人の個性を尊重した学級経営の在り方 第15回 これからのインクルーシブ教育				
授 業 の 留 意 点	ディスカッションを行うため、積極的に参加すること。				
学 生 に 対 す る 価 評	毎回の授業中の議論や質問などの様子（30点）と最終試験の結果（70点）により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	なし				
参 考 書 (購 入 任 意)	発達障害とはなにか（古荘純一）				

科目名	教育課程論				
担当教員名	橋 達				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職：必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	① 教育課程に関する基本的事項やカリキュラム研究成果(理論)を学び、教育課程・カリキュラムに関する知識の基盤をつくる。 ② 学習指導要領の変遷とその主な特徴を把握し、わが国の教育課程行政の仕組みを理解する。 ③ 次期学習指導要領の理念や改訂内容を把握し、これから学校に求められるカリキュラム・マネジメントについて考察する。				
授業の概要	わが国の学校教育の教育課程は、時代や社会の変化に対応すべく、様々な変化を遂げてきた。本授業では、教育課程・カリキュラムに関する諸理論を概観するとともに、学校の教育課程の基準としての学習指導要領の基本的な性格やその変遷、さらには現行の学習指導要領の主な特徴や次期学習指導要領の理念や改訂内容を踏まえ、今後の新しい学校教育の展開とその課題を考察する。				
授業の計画	1 ガイダンス 教育課程の意義 2 教育課程編成の思想と構造 3 近代・現代日本の教育課程の歩み 4 教育課程の編成と諸要因 5 学習指導要領と教育課程編成の実際 6 学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関連 7 各教科と道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連 8 教育課程と評価 9 カリキュラム開発と学力向上策 10 国際学力調査の教育課程改革への影響 11 様々な教育課程の改革 12 次期学習指導要領の検討(1) 理念・キーワード 13 次期学習指導要領の検討(2) 改訂内容など 14 教育課程の現代的課題(カリキュラム・マネジメント等について) 15 講義のまとめ・レポート作成				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育をめぐる動向や社会の動きに関心を持ち、教育課題解明のために教育課程をどのように編成・実施すべきか、つねに問題意識を持ちながら受講すること。 ・教科書を輪番で解説する演習を設けるので、その役割を果たすこと(割り当てやレポート作成方法などは最初の講義にて指示する)。 ・指示された教科書の該当頁を読んで予習してくること。(各講2時間) ※最初の回は、第1章を予習範囲とする。 ・講義後に授業ノート、配付資料を見直し、復習すること。(各講2時間) 				
学生に対する評価	■小テスト(20%) ■レポート(30%) ■演習課題(30%) ■履修(授業参加など)の状況(20%)				
教科書(購入必須)	古川治ほか編(2019)「改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論」北大路書房 文部科学省(2018)「高等学校学習指導要領」(平成30年3月告示) …購入不要				
参考書(購入任意)	国立教育政策研究所編(2016)「国研ラブラリー 資質・能力[理論編]」東洋館出版社 苫野一徳著(2014)「教育の力」講談社現代新書				

科目名	総合的な学習の時間の指導法				
担当教員名	松田 剛史				
学年配当	2年	単位数	1単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職：必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の意義と目標を理解することができる。 ・総合的な学習の時間のもつ教育的効果を高める学習プロセスの在り方について考えることができる。 				
授業の概要	総合的な学習の時間の意義とねらいを理解し、各教科や領域で培った知識や経験を活用することを通して養う実際的かつ探究的な学びの在り方について共に考え、指導に必要な知識・技能や素養を身につける授業である。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 総合的な学習の時間の教育的意義と目標 3 総合的な学習の時間の実践の実際と留意点 4 教育活動の評価とカリキュラム・マネジメント 5 演習①～フィールドワークを準備する～ 6 演習②～フィールドワークを経験する～ 7 演習③～主体的で体験的な学習の指導を計画する～ 8 総合的な学習の時間という教育活動は何だったか 				
授業の留意点	主に受講者の参加型によってすすめる。受講者相互に参加意識をもち、学習を創り上げることでより効果的かつ価値ある時間となると考える。社会の一員としての自覚と責任を指導していく本教科のねらいをよく認識し、授業に臨んでほしい。				
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動へ取り組むパフォーマンス(60点) ・レポートや各種学習成果に関する提出物(40点) 				
教科書(購入必須)	文部科学省『高等学校学習指導要領 総合的な学習の時間編』平成34年4月施行予定				
参考書(購入任意)	適宜情報を提供する				

科目名	特別活動論				
担当教員名	松田 剛史				
学年配当	2年	単位数	1単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職：必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の意義と目標を理解することができる。 ・特別活動のもつ教育的効果を高める学習プロセスの在り方について考えることができる。 				
授業の概要	特別活動の意義とねらいを理解し、各教科や領域で培った知識や経験を活用することを通して養う実際的かつ探究的な学びの在り方について共に考え、指導に必要な知識・技能や素養を身につける授業である。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 特別活動の歴史の変遷 3 特別活動の教育的意義と目標 4 学級活動・ホームルーム活動の実践 5 児童会・生徒会活動／クラブ活動／学校行事の実践 6 演習①～指導計画を構想する～ 7 演習②～指導計画を作成する～ 8 特別活動という教育活動は何だったか 				
授業の留意点	主に受講者の参加型によってすすめる。受講者相互に参加意識をもち、学習を創り上げることでより効果的かつ価値ある時間となると考える。社会の一員としての自覚と責任を指導していく本教科のねらいをよく認識し、授業に臨んでほしい。				
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動へ取り組むパフォーマンス(60点) ・レポートや各種学習成果に関する提出物(40点) 				
教科書(購入必須)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原田恵理子, 高橋知己, 森山賢一, 加々美肇『基礎基本シリーズ③最新特別活動論』大学教育出版 2016年 2. 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』平成34年4月施行予定 				
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜情報を提供する 				

科目名	教育方法・技術論				
担当教員名	石川 貴彦				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職：必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	<p>事物・事象を教育内容として構成し、授業で展開するための方法・技術を習得する。併せて、ICT を活用した教材づくりや授業分析の方法を学ぶ。これらの教育方法・技術をマイクロティーチング（模擬授業）で実践し、相互評価による確認・内省を通じて、自身の教育方法を客観的に捉え高めていく力を養うことを到達目標とする。</p>				
授業の概要	<p>教材研究、授業設計、教育評価、教育技術といった一連のプロセスを、各要素から十分に検討しながら、授業実践の方法・技術を習得する。これらを踏まえて、実際にマイクロティーチングの相互評価を行い、授業評価・分析を通じて、自身の指導力向上の方法について検討する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育方法・技術を学ぶにあたって必要な基礎的要件 2 行動主義、認知主義から教育方法と教材作りを考える 3 教師主導から子ども主体の授業へ（構成主義、社会的構成主義アプローチ） 4 学習目標と評価、観点別学習状況の評価に応じた授業設計 5 教育技術、発問・板書の工夫、教材・教具の使い方 6 情報活用能力育成のための指導法（ブレンディッドラーニング、タブレット活用） 7 学習指導案の書き方 8 学習指導案の作成 9 パワーポイントを用いたスライド教材の作成 10 食に関する指導（栄養教諭）を対象としたマイクロティーチングと相互評価 11 公民科を対象としたマイクロティーチングと相互評価 12 福祉科を対象としたマイクロティーチングと相互評価 13 他者評価の量的・質的分析による授業の分析・省察 14 他者への評価（評価履歴）を用いた客観的な授業評価視点の育成 15 「学び続ける教員像」を目指して 				
授業の留意点	<p>3年次の教科等指導法、4年次の教育実習を見据えて、受講者全員に1人8分程度の模擬授業を行ってもらおう。模擬授業の際は、指導案と教材の準備をしっかりと行い実践に臨むこと。また、免許取得を安易に考えている学生は、この講義で教職課程を辞退する傾向にあるので、自分の進路にとって教職履修が必要かどうかをしっかりと考えて受講すること。</p>				
学生に対する評価	<p>マイクロティーチングの実践・相互評価（40%）、期末レポート（40%）、授業時に課した小課題（指導案作成、授業分析ワークシート）（20%）</p>				
教科書（購入必須）	<p>使用しない。授業中に資料を配布する。</p>				
参考書（購入任意）	<p>食に関する指導の手引（第一次改訂版）（平成22年3月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 公民編（平成30年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 福祉編（平成30年7月 文部科学省） 自分が小・中学校・高校時に使用していた教科書・資料を用意すること</p>				

科目名	生徒指導論				
担当教員名	佐藤 憲夫				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職：必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	<p>(到達目標) ①生徒指導の意義と役割について、基本的な概念を説明することができる。②生徒指導に係る教師のスタンスを理解し、場面に応じた自分の考えを持つことができる。③生徒理解の方法について、自分のアイデアを練り、工夫を凝らすことができる。④発達障害に関する知識と対応の方法について、理解をすることができる。</p> <p>(テーマ) 生徒指導の理論及び方法</p>				
授業の概要	<p>生き方指導、教育相談、進路指導、非・反社会的行為など幅広い生徒指導の実態を学ぶとともに、教育現場において生徒指導が機能するための教師のあり方について学習を深める。実際の教育現場の抱える課題について、ケーススタディを通して考察を行う。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 生徒指導とは何か 生徒指導の目的①－目標と課題 2 生徒指導の目的②－発達観・指導観・新しい生徒指導の使命 3 教育課程との関連 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における生徒指導 4 生徒指導の組織と計画 5 生徒指導の意義と機能 6 生徒理解の内容 7 生徒指導の方法 個別指導と集団指導 8 教育相談の理解と進め方 9 適応と発達 防衛機制と適応障害 10 問題行動①－様相 11 問題行動②－種類と原因 12 問題行動③－処遇 13 進路指導の目的と内容 14 教育現場の実際にふれる(ケーススタディ) グループ協議と発表 15 子どもたちの「生き抜く力を育てる教師 講義のまとめ 				
授業の留意点	<p>教師を志す者としてのスタンスをしっかり持つ。自分が教師となったときの場面を想定し、指導者としての立場でどう行動することが必要であるのか考えを深めてほしい。講義の内容を自分自身の中高時代の行動や思考にスライドさせることも、理解の深化に結びつく。また、常に社会の動向を注視し、教育に関する情報アンテナを高く持つことが必要である。</p>				
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. リアクションペーパー 30点(授業の感想、課題提出など) 2. 課題レポート 70点 3. 授業態度を加味する 				
教科書(購入必須)	<p>「はじめて学ぶ生徒指導・進路指導―理論と実践」広岡義之編著 ミネルヴァ書房</p>				
参考書(購入任意)	<p>文部科学省 2010『生徒指導提要』他、講義の中で適宜紹介する</p>				

科 目 名	学校カウンセリング				
担 当 教 員 名	大橋 毅士				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	教育相談（学校カウンセリングを含む）は生徒指導の機能であり、学校のあらゆる教育活動を通しての行われることを理解する。また、カウンセリングについての基礎的な知識や技能を学び、教師としての教育相談の進め方について理解する。				
授 業 の 概 要	児童生徒の抱える問題について知り、生徒指導と教育相談（学校カウンセリングを含む）の関連や発達障害等の発達上の課題について理解するとともに、児童生徒の指導に生かすカウンセリングの基礎的な知識や技能について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 生徒指導と学校における教育相談（学校カウンセリングを含む）の意義と課題 3 教育相談の計画と校内体制の整備、組織的な取り組み 4 生徒指導上の諸問題①（暴力、いじめ、不登校・高校中退、虐待、非行など） 5 生徒指導上の諸問題②（暴力、いじめ、不登校・高校中退、虐待、非行など） 6 発達障害①（自閉症スペクトラム障害、ADHD、学習障害その他） 7 発達障害②（自閉症スペクトラム障害、ADHD、学習障害その他） 8 児童期・思春期における精神疾患、その他の心理的な問題 9 心理療法の理論と方法（カウンセリングマインド・傾聴〔受容・共感的理解・自己一致〕） 10 教育相談に生かす解決志向アプローチ① 11 教育相談に生かす解決志向アプローチ② 12 教育相談に生かす解決志向アプローチ③ 13 教育相談に生かす解決志向アプローチ④ 14 児童生徒、保護者に対する教育相談の進め方（スクールカウンセリングとチーム援助） 15 学校の危機管理と緊急支援（地域の保健医療・福祉・司法等の専門機関との連携） 				
授 業 の 留 意 点	事例や資料をもとに具体的な授業をめざす。カウンセリングの基礎的な知識や技能を身に付けるためのワークやロールプレイを行う。また、学生の感想（今までの教育相談等の体験を含む）を授業の中で取り上げていきたい。そのため、毎回短いレポートの提出を求める。				
学 生 に 対 す る 価 値	・授業への参加態度（30点） ・レポートの提出（30点）・レポートの内容（40点）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	使用しない。必要な資料はその都度配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科目名	進路指導及びキャリア教育				
担当教員名	橋 達				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職：必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	①進路指導・キャリア教育の意義や原理、政策的な経緯と現状について理解する。 ②進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 ③進路指導・キャリア教育の実践的課題は何であるか等の見通しをもち、将来の実践者としての教育への意欲を高めるとともに、指導の基盤をつくる。				
授業の概要	本授業では進路指導・キャリア教育について、歴史的政策的な経緯を踏まえ、基本的な事項を解説し、学校教育のなかで進路指導・キャリア教育がどのような役割を担い、どのような意義を持つ教育活動であるのか、さらにこれからどのような教育実践が求められていくのかについて学ぶ。授業の方法は、講義・演習・発表等、履修者の参加を重視した方法で行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア教育の意義 2 キャリア教育の理論 3 教育課程とキャリア教育 4 キャリア教育の方法と技術 5 キャリア教育の評価 6 キャリア教育の組織と推進 7 キャリア・カウンセリングの理論と方法 8 高等学校におけるキャリア教育・総括テスト 				
授業の留意点					
学生に対する評価	定期試験（25点）、小テスト（10点）、レポート（25点）、演習課題（40点）				
教科書（購入必須）	小泉令三・古川雅文・西山久子編（2016）『キーワード・キャリア教育－生涯にわたる生き方教育の理解と実践－』北大路書房				
参考書（購入任意）	文部科学省（2012）『高等学校 キャリア教育の手引き』教育出版 児美川孝一郎（2013）『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書				

科 目 名	教育実習事前事後指導				
担 当 教 員 名	加藤 隆・石川 貴彦				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	教職（高等学校 公民・高等学校 福祉）： 必修	資 格 要 件	教職（高等学校 公民・高等学校 福祉）：必修
学 習 到 達 目 標	教育実習は、これまでの教職課程での学びを学校現場で実践する唯一の科目である。実習でなるべく多くの経験を積むためには、事前に十分な準備を行い、さらには自己課題を明確にして、子どもや教師から様々なことを吸収できる体制を自ら構築しておかなければならない。そして、教育実習の経験を踏まえて自ら成長できる教師を目指さなければならない。 本演習ではこれらのことを到達目標とし、教育実習に向かうための事前指導、および実習後の事後指導を実施する。				
授 業 の 概 要	事前指導では、教育実習において必要な事項を最終確認する。そして各自の実習課題を明確にし、それに向けて十分な準備を進める。 事後指導では、各自の事後レポート報告を前提に、得られた経験や学び、自らの今後の課題についての意見交換を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 教育実習の内容と準備 3 実習日誌の書き方 4-5 教育実習に向けての最終確認（模擬授業） 6-7 教育実習に向けての最終確認（模擬授業） 8 教育実習後の意見交流（実習報告会） 				
授 業 の 留 意 点	事前指導から教育実習は始まっていると認識してほしい。特に遅刻・欠席は実習中止の対象になり得る。また、教育実習前の4月に集中的に実施するので、就活等で長期間欠席するのは避けること。 事後指導は教育実習報告会を兼ねて、3年生を交えながら12月下旬に実施する。				
学 生 に 対 す る 価	リアクションペーパー（30点）、実習前の取組状況（模擬授業等）（30点）、教育実習後レポートおよび実習報告（40点）から総合的に評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	教育実習の手引き（第6版）、学術図書出版社、2010年 教育実習日誌（第3版）、学術図書出版社、2011年				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	教育実習				
担 当 教 員 名	加藤 隆・石川 貴彦・大坂 祐二				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	実 習
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	教職（高等学校 公民・高等学校 福祉）： 必修	資 格 要 件	教職（高等学校 公民・高等学校 福祉）：必修
学 習 到 達 目 標	高等学校において、①大学で学んだ知識や理論、技術を具体的に展開できる、②授業や生徒指導の中に知識等を結びつけて、生き生きとした教育を展開できる、③教育実習を通じて、自己の教員としての適性や能力を発見したり、判断したりできることを、実習の到達目標とする。				
授 業 の 概 要	教育実習（高等学校） 高等学校の教員免許のみを取得する者は、高等学校において2週間の教育実習が必要である。教育実習事前指導を受けた後、教育現場での実習に臨む。また、研究授業については、道内の実習校に限り、教職担当教員が訪問し直接指導を行う。				
授 業 の 計 画	<p>1 教育実習（第1週） 実習校のプログラムによるが、概ね以下のような内容になる。 着任式、講話、学級経営、教材研究、授業観察 等</p> <p>2 教育実習（第2週） 学級経営、教材研究、授業実習、研究授業、離任式 等</p>				
授 業 の 留 意 点	教育実習途中での履修放棄は絶対にしないこと。あらゆる場面に直面しても、最後まで責任を持って実習をやり通すこと。				
学 生 に 対 す る 価 評	各実習校において取組を総合的に評価し、その結果を踏まえて教職担当教員が最終的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	使用する教科書等については、実習校および実習教科により異なるので、事前訪問や連絡を通じて、各自準備しておくこと。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	教職実践演習（高等学校）				
担 当 教 員 名	加藤 隆・大坂 祐二・石川 貴彦・松倉 聡史				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職（高等学校 公民）：必修	資 格 要 件	教職（高等学校 公民）：必修
学 習 到 達 目 標	教職課程の履修を通じて、教員として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認する。このような学びを通じて、受講生は自ら問題意識を明確にし、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を育成する。				
授 業 の 概 要	「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「生徒理解や学級経営に関する事項」「教科等の指導力に関する事項」の4項目で構成し、各項目について総合的に学習するとともに、教職課程の総まとめとして、自己の到達度や今後の課題について最終的な確認を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教職論 教師の専門性（加藤） 2 教職論 授業づくりと実践(加藤) 3 教職論 教師と生徒指導（加藤） 4 社会性・対人関係 子どもの人権、表現の自由（松倉） 5 学校経営 校務分掌と教職員の協働（松倉・現職者） 6 学級経営 学級づくりの実践（松倉・現職者） 7 教科指導 教材研究と指導案①（石川・松倉・大坂） 8 教科指導 教材研究と指導案②（石川・松倉・大坂） 9 教科指導 授業研究・模擬授業①（石川・松倉・大坂） 10 教科指導 授業研究・模擬授業②（石川・松倉・大坂） 11 生徒指導 ケーススタディ①（外部講師） 12 生徒指導 ケーススタディ②（外部講師） 13 生徒指導 ケーススタディ③（外部講師） 14 社会性・対人関係 保護者・地域との連携（松倉） 15 教職論 教職実践と自己の課題（加藤） 				
授 業 の 留 意 点	教育実習などの振り返りを生かして進める。				
学 生 に 対 す る 価 値	4つの項目について、実践およびレポート等の課題（20点×4項目）を課し、授業意欲（20点）と合わせて総合的に評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特になし				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	各項目に応じて、適宜指示する。				

特別支援学校教諭

社会福祉学科

科目名	障害児教育学				
担当教員名	矢口 明				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職（特別支援）：必修
学習到達目標	障害者の権利に関する条約批准に伴い、2016年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、福祉や教育は、大きな転換点が訪れている。特別支援教育が本格的に始まってから10年が経過し、障害のある子どもへの教育も変化してきている。わが国が築きあげてきた障害児教育の歴史を概観し、先達の理念と努力を学ぶことを通して、その意義と継承すべき視点について深く理解する。併せて、障害児教育を学ぶスタートラインとして、特別支援教育に関わる教員としての職業的自覚や今後の学びの意味を理解し、高いキャリア意識を醸成する。				
授業の概要	特別支援教育が何を目指しているのかについて学び、これまで行われてきた障害児教育の歴史、特にわが国における歴史を、明治、大正、昭和にわたって学習するとともに、世界の動向について知る。また、わが国における優れた教育実践とその創意工夫から、現在の制度や教育実践を再評価する。各障害の概要を知り、障害や特性に応じた根拠のある支援の基本の理解を目指す。障害児教育の担い手として必要な知識・技術の概要を知り、今後の学習計画の基盤とする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 特殊教育から特別支援教育への転換 2 障害児教育の歴史(1) 欧米における障害児教育の成立と展開 3 障害児教育の歴史(2) わが国における明治期の障害児教育に尽くした人々 4 障害児教育の歴史(3) わが国における大正期・昭和前期の障害児教育 5 障害児教育の歴史(4) わが国における戦後の障害児教育 6 障害児教育実践－先達に学ぶ 7 世界の動向とインクルーシブ教育システム 8 障害のある子どもの教育制度と就学支援 9 特別支援教育と特別支援学校、特別支援学級 10 ライフステージと教育（1）出生から幼児期まで 11 ライフステージと教育（2）学童期から青年期まで 12 個別の教育支援計画と個別の指導計画 13 卒業後の就労に向けた支援 14 交流及び共同学習とインクルーシブ教育システム 15 関係機関との連携と特別支援教育 				
授業の留意点	知識として吸収するだけでなく、積極的に議論に参加し、解の見つけにくい課題に対しても思考するプロセスを身につけていくことが求められる。				
学生に対する評価	議論や質問に応じていく機会の多い授業となるため、授業の参加態度や議論の質等について、日常的にフィードバックする（30点）。これらの評価と最終試験の結果（70点）と併せて、総合的に判断し、評価する。				
教科書（購入必須）	資料を配布する。				
参考書（購入任意）	橋場隆著「発達障がいの幼児へのかかわり」小学館				

科目名	知的障害心理・生理・病理				
担当教員名	玉重 詠子				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職（特別支援）：必修	資格要件	教職（特別支援）：必修
学習到達目標	<p>本講義の学習到達目標を以下の3点とする。</p> <p>(1)知的障害の定義を説明できる。</p> <p>(2)知的障害のアセスメントの方法を説明できる。</p> <p>(3)アセスメントに基づいた知的障害の特徴を理解し、知的障害教育の意義を説明できる。</p>				
授業の概要	<p>特別支援教育の対象である知的障害について学習する。知的障害教育の意義を考察した上で、知的障害の定義とアセスメント方法について学習する。特別支援学校での指導実践例に触れ、知的障害教育の意義を再考する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 知的障害とは 2 知的障害教育の意義 3 知的障害の定義 知的障害の原因 4 発達の生理的基礎（中枢神経系の構造と機能） 5 知的障害のアセスメント1 ビネー式知能検査の復習 6 知的障害のアセスメント2 ウェクスラー式知能検査（WISC-III WISC-IV） 7 知的障害のアセスメント3 ウェクスラー式知能検査（WPPSI-III WAIS-III WAIS-IV） 8 知的障害のアセスメント4 カウフマン式認知検査（K-ABC 心理・教育アセスメントバッテリー 日本版 KABC-II） 9 知的障害のアセスメント5 DN-CAS 認知評価システム 10 知的障害のアセスメント6 発達検査（遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査） 11 知的障害のアセスメント7 発達検査（新版 K 式発達検査 2001） 12 知的障害のアセスメント8 適応能力の検査（S-M 社会生活能力検査第3版） 13 知的障害のアセスメント9 心理アセスメントのまとめ 14 知的障害児の言語発達と支援 特別支援学校での実践例 15 まとめ 				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校教諭免許に関わる講義であるため、知的障害教育を念頭に置いて理解を深めることが望ましい。 ・授業の展開、及び受講者の関心や理解のようすによって順番を変更することがある。 				
学生に対する評価	課題提出・発表（30点）、試験（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。				
参考書（購入任意）	向後利明監修「知的障害の子どものできることを伸ばそう！」日東書院				

科 目 名	肢体不自由心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	高橋 和明				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職（特別支援）：必修	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	肢体不自由とは、四肢体幹に永続的な機能障害があり、姿勢や運動動作に制限がある状態のことをいう。その発生原因となる疾病は多様である。それぞれの疾病に応じた特性をテーマにし、それらについての基本的な理解を得ることを目標とする。				
授 業 の 概 要	肢体不自由教育の対象となる主な疾患の病理・生理及び心理について学ぶ。また、認知・社会・コミュニケーション・心理特性などの特性について理解しながら、その支援について学習する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 肢体不自由とは 2 姿勢と運動の発達①（運動発達について） 3 姿勢と運動の発達②（感覚・姿勢反射） 4 脳性マヒの特性とその支援①（脳性マヒの種類とその特性） 5 脳性マヒの特性とその支援②（脳性マヒ児に対する支援） 6 筋ジストロフィーの特性とその支援①（筋ジストロフィーの種類とその特性） 7 筋ジストロフィーの特性とその支援②（筋ジストロフィー児に対する支援） 8 二分脊椎の特性とその支援 9 その他の疾病について 10 てんかんについて 11 肢体不自由をともなう子どもの心理発達過程とその支援 12 肢体不自由をともなう子どもの認知機能とコミュニケーションへの支援 13 肢体不自由をともなう子どもの社会及び関係発達 14 肢体不自由をともなう子どもの就学、就労支援について 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許にかかわる講義であり、免許取得希望者は履修すること。				
学 生 に 対 す る 価 値	リアクションペーパー（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	適宜、資料・視聴覚教材を使用する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	講義で紹介する。				

科 目 名	病弱心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	高橋 和明				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職（特別支援）：必修	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の子ども心理・生理・病理について理解する。 ・具体的な事象や事例から病弱の子どもの行動背景を考えることができる。 				
授 業 の 概 要	病弱教育の対象となる子どもにみられる疾患の生理・病理や病気の子ども心理的理解と求められる心理的支援・配慮について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（授業の進め方等） 2 健康、病気、障害の概念 3 小児期の慢性疾患Ⅰ（喘息・アレルギーの特性） 4 小児期の慢性疾患Ⅱ（腎臓病・心臓病の特性） 5 小児期の慢性疾患Ⅲ（糖尿病の特性） 6 悪性腫瘍（小児ガン、脳腫瘍） 7 進行性筋ジストロフィーの特性 8 てんかんの特性 9 血友病、その他の疾患 10 心身症・精神疾患 11 発達障害と二次障害 12 病気がもたらす心的な影響Ⅰ（慢性疾患による心的な影響） 13 病気がもたらす心的な影響Ⅱ（セルフコントロール） 14 病弱の教育上の定義 15 障害の特徴と心理的支援・配慮のあり方 				
授 業 の 留 意 点	特別支援教育学校教員免許に関わる講義でもあり、他の障害（知的障害、肢体不自由、病弱、聴覚障害、軽度発達障害、等）の教育課程・指導法に関する理解を深めることが望ましい。				
学 生 に 対 す る 価 値	リアクションペーパー（20点）、課題の取り組み状況（30点）、レポート（50点）。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	講義で紹介する。				

科目名	障害児教育課程論				
担当教員名	矢口 明				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職（特別支援）：必修	資格要件	教職（特別支援）：必修
学習到達目標	<p>知的障害を中心とする教育について、教育史、教育の目的及び教育形態の概要と、学校が教育的活動を計画し、実践する際のよりどころとなる教育課程の概要を理解する。</p> <p>改訂された特別支援学校学習指導要領のポイントについて理解する。</p> <p>あわせて、近年のインクルーシブ教育の潮流に基づいた、制度・教育的変遷の意義と課題を概観する。</p>				
授業の概要	<p>視覚障害教育や聴覚障害教育から始まった「特殊教育」の時代から、現在の「特別支援教育」に至る過程を理解しながら、今後の展望を見通すことを目的とする。</p> <p>特別支援教育の理念を十分に理解しながら、障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、改訂された学習指導要領に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と立案の際の留意点等について理解をしていく。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害とは（イントロダクション） 2 障害児教育の概要（1）北海道教育大学附属特別支援学校の教育の実際 3 障害児教育の概要（2）北海道内の特別支援学校の教育の実際 4 障害のある子どもの学ぶ場（特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室） 5 教育課程の概念と原理（国による法令と基準） 6 学習指導要領改訂の変遷と意義（1）養護・訓練から自立活動への変遷 7 学習指導要領改訂の変遷と意義（2）交流及び共同学習の推進 8 改訂学習指導要領のポイント(1) 9 改訂学習指導要領のポイント(2) 10 各教科等を合わせた指導と自立活動の指導 11 医療や福祉との連携の課題（就学から入学まで） 12 医療や福祉との連携の課題（卒業後の就労） 13 重複障害児の指導 14 特別支援学校教員に求められる専門性 15 特別支援学校教員に求められる専門性と教師キャリア 				
授業の留意点	特別支援学校教員免許に関わる講義であるため、知的障害以外の障害と教育の概要について、同時に理解を深めていくことが望ましい。				
学生に対する評価	講義への参加態度（10点）、議論参加や質問への対応などの自発的な学習の深化（20点）、最終試験結果（70点）を総合的に判断して評価する。				
教科書（購入必須）	特に指定しない。資料は適宜配布する。				
参考書（購入任意）	文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編				

科 目 名	障害児教育方法論				
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	知的障害児の発達の諸相と障害特性についての理解を深め、効果的な指導方法を導き、指導の効果を評価→改善していくプロセス（Plan-Do-Check-Action）の意義と具体的な指導について理解を深める。				
授 業 の 概 要	知的障害や発達障害、自閉症スペクトラム障害は、認知、コミュニケーション、社会性、行動の調整などの困難な状態が、継続しているものである。したがって、その教育や対応は、それぞれの発達の背景と機序を理解することから、具体的な指導法を導くところにあるといえる。障害の特性の評価を行うアセスメントから指導計画の作成、指導方法の検討と指導、評価を行っていく一連のプロセスについて、事例を交えながら学べるようにする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害教育がめざす自立とは（イントロダクション） 2 行動観察とアセスメント 3 支援ツールの開発と利用 4 応用行動分析による行動の理解 5 自発的行動を高めるための支援 6 家庭や地域と連携した支援 7 主体的活動を促す支援とツール 8 コミュニケーションの発達と支援 9 社会性の発達と支援 10 知的障害と認知処理過程 11 発達障害の理解 12 発達障害児者への支援 13 自閉症スペクトラム障害の理解 14 自閉症スペクトラム障害児者への支援 15 自発的な行動を育てるチームティーチング 				
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許に関わる講義であるため、知的障害以外の障害と教育の概要について、同時に理解を深めていくことが望ましい。				
学 生 に 対 す る 価 値	講義への参加態度(20点)、質問への対応、議論の質などの自発的な学習の深化(20点)、最終試験結果(60点)を総合的に判断して評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	特に指定しない。資料は適宜配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	古荘純一著「発達障害とは何か」朝日新聞出版				

科目名	肢体不自由者教育課程論				
担当教員名	小野川 文子				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職（特別支援）：必修	資格要件	教職（特別支援）：必修
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由児の障害特性を理解する。 ・肢体不自由教育の教育内容・方法を学び、教育課程の基本について理解する。 ・肢体不自由教育の授業づくりの基本的視点を理解する。 				
授業の概要	肢体不自由児の障害の基礎的な特徴を概説し、肢体不自由教育の教育課程、指導方法について学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（肢体不自由の定義） 2 肢体不自由教育の現状 3 肢体不自由教育のあゆみ 4 発達と障害の基礎理解 5 脳性マヒの発達と障害の基礎的理解 6 肢体不自由教育の教育課程（教育課程編成の特徴） 7 肢体不自由教育の内容と指導法①（自立活動） 8 肢体不自由教育の内容と指導法②（コミュニケーション） 9 肢体不自由教育の「個別指導計画」の作成 10 重度重複児の実態把握の方法 11 重度重複児の教育実践①（特別支援学校における教育内容） 12 重度重複児の教育実践②（訪問教育、医療的ケア） 13 肢体不自由児とその家族の生活実態と支援 14 肢体不自由教育の今日的課題 15 まとめ 				
授業の留意点	特別支援教育学校教員免許に関わる講義でもあり、他の障害（知的障害、病弱、視覚障害、聴覚障害、軽度発達障害、等）の心理・生理・病理に関する理解を深めることが望ましい。				
学生に対する評価	リアクションペーパー（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教科書（購入必須）	猪狩恵美子・河合隆平・櫻井宏明編（2014）『テキスト肢体不自由教育 子ども理解と教育実践』全障研出版部				
参考書（購入任意）	講義で紹介する。				

科目名	肢体不自由教育演習				
担当教員名	小野川 文子				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	教職(特別支援):必修	資格要件	教職(特別支援):必修
学習到達目標	肢体不自由教育は、一人ひとりの子どもの運動障害の程度や知的発達に応じて、複数の教育課程が用意されている。本講義では、肢体不自由児の事例を通して、教育課程・指導内容・指導方法の理解を深めることを目標とする。				
授業の概要	知的障害を伴う重複障害の子どもの事例を中心に、肢体不自由児の実態把握や指導内容・方法を考える。また、グループディスカッションや発表を通して、実際の授業等を想定した演習を行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業の進め方、グループ分け) 2 肢体不自由児の実態把握の実際① 単一障害児の事例から考える 3 肢体不自由児の実態把握の実際② 知的障害を伴う重複障害児の事例から考える 4 肢体不自由児の実態把握の実際③ 重症心身障害児の事例から考える 5 教育目標と教育評価について考える 6 個別指導計画の作成 7 個別指導計画の検討 8 授業づくり① 指導内容の設定(教材、指導方法の検討) 9 授業づくり② 指導内容の設定(指導案の作成) 10 授業研究(授業発表の準備) 11 授業研究(授業発表) 12 授業研究(評価・反省) 13 障害のある子どもの生活について考える 14 家族支援について 15 まとめ 				
授業の留意点	特別支援教育学校教員免許に関わる講義でもあり、他の障害(知的障害、肢体不自由、病弱、聴覚障害、軽度発達障害、等)の教育課程・指導法に関する理解を深めることが望ましい。				
学生に対する評価	課題の取り組み状況(60点)、レポート(40点)。				
教科書(購入必須)	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定。				
参考書(購入任意)					

科 目 名	病弱教育学				
担 当 教 員 名	高橋 和明				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職（特別支援）：必修	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・病弱者教育の歴史と意義について理解する。 ・病弱者教育の対象者に応じた教育の特徴について理解する。 ・病弱者教育の現代的課題について理解する。 				
授 業 の 概 要	病弱教育の歴史から病弱教育が果たしてきた役割について学び、病弱教育の意義と課題について学ぶ。病弱教育の対象である主な疾患とその特徴、教育を行うに当たって配慮すべきことを考察する。病弱教育の現代的課題や病類に応じた教育の特徴について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 病弱者教育の歴史の変遷と定義：病弱者教育の成り立ち 3 病弱者教育の意義と目的：学ぶ権利の保障 4 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と特性①：呼吸器疾患、内分泌疾患 5 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と特性②：腎・泌尿器疾患 6 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と特性③：心疾患、筋疾患 7 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と特性④：重症心身障害 8 ターミナル期にある子どもの教育：死について考える 9 命の選択：自分自身を振り返る 10 病気とともに生きるということ：グループワーク 11 子どものこころの病について：不登校、虐待について 12 病弱教育の設置基準と教育の場：特別支援学校、学級、院内学級 13 医療機関と教育の関係と連携、家庭との連携：連携のあり方 14 病弱者教育の現代的課題 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	特別支援教育学校教員免許に関わる講義でもあり、他の障害（知的障害、肢体不自由、病弱、聴覚障害、軽度発達障害、等）の教育課程・指導法に関する理解を深めることが望ましい。				
学 生 に 対 す る 価 値	リアクションペーパー（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	適宜、資料・視聴覚教材を使用する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	講義で紹介する				

科目名	視覚障害教育総論				
担当教員名	前佛 誠				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職(特別支援):必修	資格要件	教職(特別支援):必修
学習到達目標	<p>本講義では、視覚障害の概要、視覚障害教育の歴史・教育課程・指導内容・指導方法・評価法などについて学び視覚障害教育に関する知識を習得するとともに共生社会形成の基礎となる特別支援教育に対する理解を深めることを目的とする。学習の到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害の概要を視覚器の構造・視機能の観点から指摘できる。また、児童生徒の眼疾患に関する健康管理や教育的配慮について説明できる。 2. 近代視覚障害教育の成立から現代までの重要な教育史的事実を指摘し、視覚障害教育変遷の過程を説明できる。 3. 特別支援教育制度の概要を理解し、視覚障害教育の制度上の特徴を説明できる。 4. 視覚障害教育における教育課程、指導計画、指導内容、指導方法、評価方法の特徴及び指導上の配慮事項について説明できる。 				
授業の概要	<p>本講義では、主として視覚障害教育に関する以下の内容について、テキスト、プリント資料、映像教材、実物教材を使用しながら授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害の概要及び視覚管理 2. 視覚障害教育の歴史及び制度 3. 視覚障害教育の教育課程及び指導計画 4. 視覚障害教育の指導内容・指導方法及び評価法 				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 視覚障害の概要と視覚管理 視覚障害の定義 視覚器の構造と視覚障害 視機能と視覚障害 眼疾患と教育的配慮 2 視覚障害教育の歴史 近代視覚障害教育の成立 日本訓盲点字の完成 盲学校及び聾唖学校令 学校教育法盲学校、聾学校及び養護学校の義務制実施 特別支援教育への転換 3 視覚障害教育の制度 特別支援教育の仕組み 特別支援学校(視覚) 特別支援学級(視覚) 通級による指導 重複障害教育 特別支援学校(視覚)のセンター的役割 視覚障害児童生徒の就学 4 視覚障害教育における教育課程と指導計画 教育課程の意義 教育課程の編成と指導計画の作成 特別支援学校(視覚)における教育課程の特徴 視覚障害教育における自立活動の内容 個別の指導計画 5 視覚障害教育における指導内容と指導方法Ⅰ(盲児の指導) 盲児の触知覚の特性 点字の読み書きの指導 空間概念の指導 言葉と事物・事象の対応の指導 歩行の指導 盲教育の教材教具 盲教育における指導上の配慮事項 6 視覚障害教育における指導内容と指導方法Ⅱ(弱視児の指導) 弱視児の視知覚の特性 弱視教育の教材教具 弱視教育における指導上の配慮事項 7 視覚障害乳幼児の発達と支援及び視覚障害教育における評価法 視覚障害児の発達を規定する要因と発達の特徴・支援 視覚障害児のアセスメントの基本 視覚障害児のアセスメントの方法及び記録 8 視覚障害教育の課題と展望 特別支援学校(視覚)のセンター機能の充実 交流・共同学習の充実 早期教育の充実 キャリア教育・進路指導の充実 インクルーシブ教育の進展 				
授業の留意点	<p>特別支援教育学校教員免許に関わる講義でもあり、他の障害の教育課程及び指導内容・指導方法に関する理解を深めることが望ましい。授業前にシラバスを参考にテキスト及び参考書の関係部分を学習し、課題意識を持って授業に臨むことを期待する。又、毎回授業後に当該授業に関する演習課題を提示するので復習に活用し学習内容の定着を図ることを期待する。</p>				
学生に対する評価	<p>講義の態度、提示課題の取り組み状況、レポートの結果等を総合的に判断して評価する。レポート評価の基準は60点未満は不可、60点以上70点未満はC、70点以上80点未満はB、80点以上90点未満はA、90点以上はSとする。</p>				
教科書(購入必須)	<p>書名:「視覚障害教育入門」 青柳まゆみ 鳥山由子 編著 発行所:ジアース教育新社</p>				
参考書(購入任意)	<p>書名:「五訂版 視覚障害教育に携わる方のために」 香川邦生 編著 発行所:慶応義塾大学出版会</p>				

科 目 名	聴覚障害教育総論				
担 当 教 員 名	玉重 詠子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職（特別支援）：必修	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	聴覚障害児教育について、以下の3点を学習到達目標とする。 (1)聴覚の評価方法を説明できる。 (2)補聴について説明できる。 (3)聴覚障害領域における福祉制度を説明できる。				
授 業 の 概 要	特別支援教育の対象である聴覚障害に関連して学習する。聴覚の評価方法について学習し、障害程度と福祉制度について理解する。さらに補聴について理解し、聴覚障害児への支援について独自の工夫ができるようになる。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス きこえのしくみ 2 聴覚障害の評価1 純音聴力検査 3 聴覚障害の評価2 語音聴力検査 4 難聴の種類 福祉制度 5 補聴1 補聴器の種類 補聴器のしくみ 6 補聴2 補聴器の調整 人工内耳のしくみ 7 聴覚の定型発達 聴覚障害教育の歴史 8 聴覚障害児の言語指導 				
授 業 の 留 意 点	耳の聴こえづらさが発達や日常生活に及ぼす影響について考えながら受講してほしい。前の時間の復習をした上で、次の時間の授業を受けてほしい。				
学 生 に 対 す る 価	講義内課題提出 30 点、試験 70 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	障害児の病理と心理 I				
担 当 教 員 名	玉重 詠子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	<p>障害児に共通して現れる言語に関わる障害に関連して、本講義の学習到達目標を以下の3点とする。</p> <p>(1)言語発達の阻害要因を説明できる。</p> <p>(2)言語障害に関わる代表的な検査について説明できる。</p> <p>(3)障害種別により言語発達の支援目標を説明できる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。本講義では、構音障害と言語発達遅滞の評価と支援の基礎について学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 言語にかかわる障害の種類 2 音韻の産生 3 構音の発達と構音障害 4 構音検査 1 検査の概要 5 構音検査 2 結果のまとめと解釈 6 構音指導（事例） 7 言語発達とその阻害要因 8 言語発達評価の基本的な流れ 9 語彙発達の評価 絵画語い発達検査（PVT-R）の概要 10 言語発達遅滞児の支援 語彙の獲得・拡大の支援 11 言語発達の評価 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査の概要 12 語彙発達評価 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査の発達段階（段階1～2） 13 言語発達評価 国リハ式＜S-S 法＞言語発達遅滞検査の発達段階（段階3～5） 14 言語発達遅滞児の支援 評価結果の読み取りと支援計画の作成 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>自らの発話の仕方を内省し、児童への構音指導をイメージすることが望ましい。また、語彙の獲得についての経験を思い出し、効率的な語彙獲得を考察してほしい。自分の考えを根拠をもって他者へ伝えられるように努力してほしい。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	<p>授業内課題提出 40 点、試験 60 点</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。</p>				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	障害児の病理と心理Ⅱ				
担 当 教 員 名	玉重 詠子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	<p>障害児に共通して現れる言語に関わる課題への支援について、以下の3点を学習する。</p> <p>(1)言語発達の阻害要因を理解し、支援に応用できる。</p> <p>(2)障害の特性（知的障害・自閉症スペクトラム）を理解し、説明できる。</p> <p>(3)言語発達検査の結果を解釈し、言語発達段階に応じた支援を考えられる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。本講義では、個々の障害特性を理解した上での言語発達障害への具体的な支援方法について学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 言語発達の阻害要因 2 自閉症 3 発達障害 4 知能研究の歴史 5 知的障害のアセスメント1 ビネー式知能検査（改訂版鈴木ビネー知能検査） 6 知的障害のアセスメント2 ビネー式知能検査（田中ビネー知能検査V） 7 談話の発達 8 談話の評価1 質問-応答検査（検査の概要） 9 談話の評価2 質問-応答検査（結果のまとめ方） 10 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の復習 11 自閉症児の言語指導 12 言語発達遅滞児の支援1 前言語期の指導 13 言語発達遅滞児の支援2 語連鎖理解の指導 助詞理解の指導 14 言語発達遅滞児の支援3 文字の指導 語彙の拡大 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>特別支援学校教諭免許に関わる講義であるため、障害児教育実習を念頭において理解を深めることが望ましい。「障害児の病理と心理Ⅰ」の内容を復習し、支援内容・方法を積極的に考えてほしい。</p>				
学 生 に 対 す る 価	<p>講義内課題提出・発表 40点、試験 60点</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>テキストは使用せず、プリントを参考資料として配付する。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>「自閉症の僕が跳びはねる理由」東田直樹（角川文庫）</p>				

科目名	障害児教育実習事前事後指導				
担当教員名	矢口 明				
学年配当	4年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	教職(特別支援):必修	資格要件	教職(特別支援):必修
学習到達目標	教育実習は、障害児の教育に関して具体的実践的に学ぶ重要な場となる。事前指導と事後指導を通じて、対象児の理解に基づいた指導を実践し、評価していくための手続きと方法を具体的に学ぶ。実習の反省を十分にいかして、専門家としての自覚を持つことを目標とする。				
授業の概要	事前指導では、学校参観や模擬授業案の作成などを通じて、具体的・実践的な見通しを持つために、できるだけ協力校等をフィールドとした活動を通して、教育実習に対する事前準備を十分に行う。 事後指導では、実習の反省を具体的に報告することを通じて、児童・生徒の特性による課題、学校組織の課題、専門的知識や方法論による課題、チームティーチング等具体的なマネージメントなどを分析的に検討し、専門家として教育現場で活躍する基礎的態度を身につけるようにする。				
授業の計画	<p>〈事前指導〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 教育実習校の訪問参観 3. 知的障害特別支援学校、肢体不自由特別支援学校、高等特別支援学校の現状と課題 4. 実習計画の作成 <p>〈事後指導〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習反省報告 2. 課題グループ討議 3. 課題改善のための討議成果報告 4. 教師としてのライフデザイン作成 5. 教師教育と教師キャリア 				
授業の留意点	基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、自らの課題意識と開発的な授業提案を持つことが望ましい。				
学生に対する評価	講義への参加態度(20点)、学習指導案の評価(20点)、学習支援や模擬授業等の実践活動(80点)を総合的に判断して評価する。				
教科書(購入必須)	教育実習日誌(第3版)、学術図書出版社、2011年 教育実習日誌をもとに、資料、DVDなどの教材を活用する。				
参考書(購入任意)					

科 目 名	障害児教育実習				
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職（特別支援）：必修	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	教育においては、高い実践的指導力が求められている。教育実習では、幅広い知識と大学における経験とを十分に発揮し、具体的な経験を積む。職業としての魅力を十分に理解し、自らの課題を真摯に受け止めることを通して、内省的実践者としての態度を育成することを目指す。				
授 業 の 概 要	教育実習は、学生の関心の高い特別支援学校（北海道内知的障害養護学校、肢体不自由養護学校、高等特別支援学校、道外自閉症特別支援学校）で行うようにし、教員として必要な知識・技能・態度及び習慣を培う。 実習の成果を内省的にととらえることを通じて、自己の適性や職業に対する意欲を改めて把握し、進路選択や進路決定にいかす有用な機会ともなる。				
授 業 の 計 画	<p>各実習先の指導教員の監督・指導に基づいて、以下の内容を中心に実習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育講話の聴講 2. 学習場面・生活場面の観察 3. 学習場面・生活場面の部分的指導 4. 授業計画の作成 5. 教材研究 6. 授業の実施 7. 研究授業（指導案作成・教材研究・授業・反省会） 				
授 業 の 留 意 点	基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、自らの課題意識と開発的な授業提案を持つことが望ましい。				
学 生 に 対 す る 価 評	実習先の評価及び研究授業評価を総合的に判断して評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	教育実習日誌（第3版）、学術図書出版社、2011年				
参 考 書 (購 入 任 意)					

榮養教諭

科 目 名	栄養教諭論				
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職(栄養):必修	資 格 要 件	教職(栄養):必修
学 習 到 達 目 標	栄養教諭の職務である学校給食の管理および食に関する指導について基礎的な知識を修得し、理解を深める。				
授 業 の 概 要	①学校給食および食に関する指導の対象となる児童生徒の成長・発達、生活状況などについて確認する。 ②学校給食および食に関する指導にかかわる法制を理解する。 ③食に関する指導と各教科および給食業務のかかわりについて学ぶ。 ④教材となる献立作成が「食に関する指導の全体計画」に結びつき指導案の作成に繋がることを理解する。				
授 業 の 計 画	1 栄養教諭の現状、児童生徒の成長、発達 2 児童生徒の生活状況 3 学校給食、食に関する指導の歴史 4 学校給食、食に関する指導にかかわる法令 5 「食に関する指導」(1)-全体計画 ①必要性 ②作成手順 ③留意点 6 「食に関する指導」(2)-指導計画・成果・評価 7 「食に関する指導」(3)-①給食の時間 ②発達段階に応じた内容 8 「食に関する指導」(4)-教科「総合的な学習の時間」「特別活動」 9 「食に関する指導」(5)-教科「家庭科、技術・家庭科」「体育科、保健体育科」 10 「食に関する指導」(6)-教科「道徳」「生活科」 11 「食に関する指導」(7)-個別栄養相談指導 家庭・地域との連携 12 給食管理における栄養教諭の役割(1)献立作成、食品構成 13 給食管理における栄養教諭の役割(2)学校給食摂取標準 14 給食管理における栄養教諭の役割(3)衛生管理 15 給食管理における栄養教諭の役割(4)施設設備				
授 業 の 留 意 点	栄養教諭は栄養士職と教育職を兼ね備える職種であり、全ての基本は「給食管理」であることを認識して授業に臨んでほしい。				
学 生 に 対 す る 価 値	小テスト(20点)、レポート(20点)、試験(60点)により総合的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	『栄養教諭論-理論と実際-4訂版』 金田雅代編著 建帛社 『食に関する指導の手引-第一次改訂版-』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省 東京書籍 『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 家庭編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編(平成29年7月)』 文部科学省 教育図書 『小学校学習指導要領解説 体育編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 保健体育編(平成29年7月)』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年7月)』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月-平成29年告示』 文部科学省 廣済堂あかつき 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月』 文部科学省 教育出版				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	食生活・食文化論				
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職（栄養）：必修	資 格 要 件	教職（栄養）：必修
学 習 到 達 目 標	小中学生の生活環境に適した食教育の実践および学校給食の教育的効果を引き出すために、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得する。				
授 業 の 概 要	前半は既存資料をもとに食生活の変遷と現状および児童生徒の栄養・食生活状況を把握し、家庭の食事や学校給食の変遷を確認する。後半は日本における食文化を概観し、地域の食文化の礎となる地場産物について演習を通して学習する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本における食生活の変遷 2 日本における食生活の現状 3 全国調査にみる児童生徒の栄養・食生活状況 4 地域における児童生徒の栄養・食生活状況 5 家庭食の変遷 6 学校給食の変遷 7 日本の食文化 8 地域の食文化 9 地場産物と食に関する指導 10 地場産物と学校給食①北海道の地場産物 11 地場産物と学校給食②出身地別の地場産物 12 演習①関心のある地域の地場産物を調べる 13 演習②給食における地場産物の活用を考える 14 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える 15 演習④地場産物についての発表、レポート提出 				
授 業 の 留 意 点	食および地域について広く関心をもって授業に臨んでほしい。				
学 生 に 対 す る 価 評	発表内容（30点）、試験（70点）により総合的に評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	金田雅代編著『栄養教諭論－理論と実際－3訂』建帛社、2009年 文部科学省『食に関する指導の手引－第一次改訂版－』東山書房、2010年 文部科学省『小学校学習指導要領〈平成20年3月告示〉』東京書籍、2008年 文部科学省『中学校学習指導要領〈平成20年3月告示〉』東京書籍、2008年				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	食教育指導論				
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職（栄養）：必修	資 格 要 件	教職（栄養）：必修
学 習 到 達 目 標	食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成・教科等との関連および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、さらに家庭・地域との連携、調整の重要性を広く横断的に見る力を養う。 学習指導案の作成・発表・模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法・技法等を修得する。				
授 業 の 概 要	栄養教諭として各自のテーマをもつことができるように知識を凝集していき、各自のテーマに対して広い視野から問題を把握し、指導計画案を作成・実行・評価することを学ぶ。 学校給食を「生きた教材」として活用する食に関する指導についての理解を深めるために、現役栄養教諭に実際の職務についての講義をしていただき、栄養教育実習先を想定して学校給食を教材とした「食に関する指導」の指導案作成・模擬授業などを行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：「食教育指導論」で何を学ぶか、学校における食育の推進の必要性、食に関する指導の目標・必要性 2 食に関する指導に係る全体計画の作成、各教科等における食に関する指導の展開 3 学校給食を生きた教材とした食育の推進、学校・家庭・地域が連携した食育の推進 4 個別的な相談指導の進め方、学校における食育の推進の評価 5 食に関する指導の教育理論と技術 6 教材研究、指導案づくり 7 食に関する指導と学校給食の管理を一体のものと行なう職務の実際 8 給食時間における食に関する指導の指導案づくり 9 給食における食に関する指導の模擬授業（1）発表会（前半グループ） 10 給食における食に関する指導の模擬授業（2）発表会（後半グループ） 11 栄養教諭の職務の実際（1）学校における職務内容 12 栄養教諭の職務の実際（2）調理場における職務内容 13 給食を教材として活用する授業の指導案作成（1）教科目標と会に関する指導 14 給食を教材として活用する授業の指導案作成（2） 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	栄養教育実習で実施する研究授業につながる科目であり課題が多い科目であるが積極的に取り組んでほしい。				
学 生 に 対 す る 価 値	提出物提出状況（30点）、試験（70点）により総合的に行う。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	文部科学省『食に関する指導の手引-第一次改訂版-』（東山書房） 文部科学省『小学校学習指導要領』（東京書籍）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	栄養教育実習事前事後指導				
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職（栄養）：必修	資 格 要 件	教職（栄養）：必修
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習に必要な知識や技術を確実なものにする。 ・事後指導では、自分の課題を明確化し、今後さらに修得する必要がある知識・技術、コミュニケーション能力などについて明らかにする。 				
授 業 の 概 要	<p>事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習心得を確認する。 また、児童・生徒についての食に関する課題を明確にし、実習日誌や実習報告書の作成方法等を通じ実習効果を高める方法を学ぶ。 実習校での研究授業の準備を行う。 事後指導では、実習の問題点を整理し、実習内容および研究課題などをまとめ、報告会で発表する。</p>				
授 業 の 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1 栄養教育実習の意義、目的、内容 2 栄養教育実習のための準備と心得 3-6 模擬授業 7-8 栄養教育実習報告会 				
授 業 の 留 意 点	<p>栄養教諭の職務は、食に関する指導と学校給食の管理を一体的に展開することであるため、学校給食の管理についての復習をしてから授業に臨んでほしい。 また、栄養教育実習の意味を十分に理解し、その準備に真剣に取り組み、実習後には課題を明確化して将来につなげてほしい。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	提出物（50点）、模擬授業（50点）の内容などから総合的に評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>栄養教育実習日誌（担当教員作成） 教育実習の手引き（第6版）学術図書出版社 教職課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。</p>				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科目名	栄養教育実習				
担当教員名	黒河 あおい				
学年配当	4年	単位数	1単位	開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	教職(栄養):必修	資格要件	教職(栄養):必修
学習到達目標	<p>実習を通して学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解する。 指導教諭と連携し「食に関する指導」等を行う。 また、生きた教材としての「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解する。</p>				
授業の概要	<p>実習では学校経営等について理解し、児童および生徒への個別的な相談・指導の参観・補助、教科・特別活動や給食時間等における指導の参観・補助および食に関する指導案の立案作成や教材研究を行う。 また、校内の連携・調整の参観・補助や家庭・地域との連携・調整等の参観・補助を行う。</p>				
授業の計画	<p>1週間の実習</p> <p>学校経営、校務分掌、食に関する指導および学校給食の学内での位置づけについての理解</p> <p>児童および生徒への個別的な相談、指導の実習</p> <p>児童および生徒への教科・特別活動等における指導の実習</p> <p>食に関する指導の連携・調整の実習</p>				
授業の留意点	<p>必要な準備を整えて実習に臨むこと。 健康管理に十分に留意して実習に専念すること。 実習生であっても学校の構成員の一員である教員としての自覚をもって行動すること。</p>				
学生に対する評価	<p>実習内容(50点)、提出物(30点)、出席状況(20点)などから総合的に評価する。</p>				
教科書(購入必須)	<p>栄養教育実習日誌(担当教員作成) 教育実習の手引き(第6版)学術図書出版社 教育課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。</p>				
参考書(購入任意)					

科 目 名	教職実践演習（栄養教諭）				
担 当 教 員 名	加藤 隆・黒河 あおい・松倉 聡史				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職（栄養）：必修	資 格 要 件	教職（栄養）：必修
学 習 到 達 目 標	教職課程の履修を通じて、教員として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認する。このような学びを通じて、受講生は自ら問題意識を明確にし、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を育成する。				
授 業 の 概 要	「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「生徒理解や学級経営に関する事項」「教科等（栄養教諭）の指導力に関する事項」の4項目で構成し、各項目について総合的に学習するとともに、教職課程の総まとめとして、自己の到達度や今後の課題について最終的な確認を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教職論 望ましい教師とは（加藤） 2 教職論 授業づくりと授業実践(加藤) 3 教職論 生徒指導(加藤) 4 社会性・対人関係 子どもの人権、表現の自由（松倉） 5 学級経営 校務分掌と教職員の協働（松倉・現職者） 6 学級経営 学級づくりの実践（松倉・現職者） 7 学校給食管理 学校現場（共同調理場を含む）見学・調査（黒河・現職者） 8 学校給食管理 講義・グループ討論（黒河・現職者） 9 学習指導 食に関する指導の全体計画・年間指導計画（黒河） 10 学習指導 教材研究と指導案（黒河・現職者） 11 学習指導 授業研究・模擬授業（黒河） 12 児童・生徒指導 個別的な相談、指導・特別支援の食に関する指導（黒河・現職者） 13 生徒指導 ケーススタディ（外部講師） 14 社会性・対人関係 保護者・地域との連携（松倉） 15 教職論 教職実践と自己の課題（加藤） 				
授 業 の 留 意 点	教育実習などの振り返りを生かして進める。				
学 生 に 対 す る 価 値	4つの項目について、実践およびレポート等の課題（20点×4項目）を課し、授業意欲（20点）と合わせて総合的に評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特になし				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	領域に応じて、適宜指示する。				

領域および保育内容の指導法に関する科目

教育の基礎的理解に関する科目

道徳、総合的な時間等の指導法及び生徒指導、

教育相談等に関する科目

教育実践に関する科目

大学が独自に設定する科目

幼稚園教諭

科目名	国語				
担当教員名	堀川 真				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職(幼稚園):選択
学習到達目標	小学校における国語教育の概要を把握したうえで、就学前の乳幼児期にふさわしい教材について理解する。また、乳幼児がことばや文字に関心の持てる指導ができるよう、絵本の読み聞かせ、教材の制作といった技能を身につける。				
授業の概要	乳幼児期における国語教育の教材を紹介するだけでなく、実践例も取り上げつつ、絵本や紙芝居、ことば遊びなどの演習を通して、理解と表現技能の獲得をめざしていく。各回のテーマに沿わせて、できるだけ多くの絵本を紹介したい。				
授業の計画	<p>第1回 オリエンテーション 小学校学習指導要領を読む</p> <p>第2回 赤ちゃん絵本① 国内でのはじまりと構成上の特徴</p> <p>第3回 赤ちゃん絵本② 古典と新作、魅力と展開</p> <p>第4回 のりもの絵本① 制作者の視点から～「あかいじどうしゃよんまるさん」を中心に</p> <p>第5回 のりもの絵本② 古典と新作、魅力と展開</p> <p>第6回 オノマトペ絵本 方言、不思議な造語も視野に入れて</p> <p>第7回 紙芝居 歴史とバリエーション</p> <p>第8回 たべもの絵本 食に親しむ手立てとして</p> <p>第9回 からだの絵本 不思議を知る、自分を知る</p> <p>第10回 せいかつの絵本 暮らしの習慣を導く</p> <p>第11回 昔話絵本① 昔話の特徴と日本の名作絵本に親しむ</p> <p>第12回 昔話絵本② 海外の民話を含む名作絵本に親しむ</p> <p>第13回 絵本史① アメリカ古典絵本を中心に</p> <p>第14回 絵本史② ロシア絵本の20年代と日本における絵本の近現代史</p> <p>第15回 文字のない絵本～まとめ</p>				
授業の留意点	授業内で絵本読み聞かせの実践や簡単なワークショップを行います。気負わずに取り組んでください。				
学生に対する評価	授業内の課題やレポートの提出を50点、期末レポートの提出を50点として評価する。				
教科書(購入必須)	講義時に資料を配布する。				
参考書(購入任意)					

科 目 名	生活				
担 当 教 員 名	柳原 高文				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（幼稚園）：選 択
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科と幼児教育との教育内容の関わりを把握する。 ・具体的な作業を通して、遊びや活動の意味づけを理解する。 				
授 業 の 概 要	幼稚園教育と生活科のつながりについて実践的な活動を通して理解する。さらに、我が国の自然観と生活科の関連、地域に根付いた文化、環境を知り教材に活用する手法を発掘する。 授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。				
授 業 の 計 画	第1回 ガイダンス 講義計画、評価方法 第2回 大学の自然環境① 身の回りの自然観察 第3回 大学の自然環境② 身の回りの自然を教材にする 第4回 大学の自然環境③ 教材発表 第5回 生活科の歴史的实践的系譜と展開① 戦前の名著「自然の観察」 第6回 生活科の歴史的实践的系譜と展開② アクティブラーニングと生活科 第7回 生活科の「授業」にふれる 第8回 生活科の教育内容論（1）生活科の目的 第9回 生活科の教育内容論（2）幼稚園教育と生活科の関わり 第10回 地域の歴史・文化・環境にふれる① 地域の中から教材となり得るテーマを発見する 第11回 地域の歴史・文化・環境にふれる② 発見したテーマを探求する 第12回 地域の歴史・文化・環境にふれる③ グループワーク・劇発表の手法と準備 第13回 劇発表① 第14回 劇発表② 第15回 まとめ				
授 業 の 留 意 点	授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な論議を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業の取り組み方・意欲 20 点、制作物 20 点、発表 20 点、定期試験 40 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	小学校学習指導要領生活				
参 考 書 (購 入 任 意)	幼稚園教育要領、その都度紹介する。				

科 目 名	音楽 I				
担 当 教 員 名	三国 和子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	通 年	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	保 育 士 ・ 教 職 (幼 稚 園) : 必 修
学 習 到 達 目 標	保育者に求められる音楽理論に関する基礎的知識、歌唱や器楽、リズム運動等、幼児に指導するための基礎的技能を修得し、音楽に対して肯定的な態度を身につける。 子どもが他者と楽しさを共有できる音楽活動を構成し、実践できる。				
授 業 の 概 要	おとなとは異なる子どもの音楽表現の様態を理解し、保育者に求められる音楽の基礎的知識・技能を修得する。知識・理論とともに実技を行い、身体の動きと結びついた音楽表現や、幼児期に適した歌唱や器楽のあり方について学ぶ。さらには、音楽に対して肯定的な態度を身につけることをめざす。				
授 業 の 計 画	第 1 回 音名と階名、音部記号 (理論と音楽あそびの演習) 第 2 回 リズム(1)拍とテンポ (理論と音楽あそびの演習) 第 3 回 リズム(2)拍子と音符の長さ (理論と音楽あそびの演習) 第 4 回 リズム(3)さまざまなパターン (理論と音楽あそびの演習) 第 5 回 基本的な音楽記号 - # と ♭ など (理論と音楽あそびの演習) 第 6 回 長調と短調、さまざまなモード (理論と音楽あそびの演習) 第 7 回 音を聴く (音楽あそびの演習) 第 8 回 楽譜のリテラシー (理論と音楽あそびの演習) 第 9 回 音楽と動き(1) リトミック(1) 基礎的な動きとソルフェージュ 第 10 回 音楽と動き(2) リトミック(2) 幼児への指導 第 11 回 音楽と動き(3) わらべうた(1) 幼児の生活に即して 第 12 回 音楽と動き(4) わらべうた(2) 幼児の遊びとその発展 第 13 回 音楽と動き(5) ダンス(1) 拍を意識したステップ 第 14 回 音楽と動き(6) ダンス(2) 幼児に適した音楽と動き 第 15 回 音楽と動き(7) 音楽遊び 第 16 回 歌唱の基礎 第 17 回 子どもの歌(1) ピアノを用いて 第 18 回 子どもの歌(2) リコーダーを用いて 第 19 回 子どもの歌(3) 替え歌 第 20 回 合唱 第 21 回 音楽遊びをつくる 第 22 回 楽器遊び(1) 幼児に適した楽器 第 23 回 楽器遊び(2) ミュージックベル 第 24 回 楽器遊び(3) 合奏 第 25 回 子どもと楽しむ音楽会(1) 企画立案、役割分担 第 26 回 子どもと楽しむ音楽会(2) グループごとの準備、プログラム決定 第 27 回 子どもと楽しむ音楽会(3) グループごとの準備 第 28 回 子どもと楽しむ音楽会(4) グループごとの準備、手直し 第 29 回 子どもと楽しむ音楽会(5) リハーサル 第 30 回 子どもと楽しむ音楽会(6) 本番				
授 業 の 留 意 点	場合によっては動きやすい服装が必要となる。				
学 生 に 対 す る 価 値	ペーパーテスト (60 点)、日常の課題・実技評価 (40 点) により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	小林美実『こどものうた 200』チャイルド社、必要に応じてプリントを配付。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	音楽Ⅱ（ピアノ）				
担 当 教 員 名	三国 和子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士・教職（幼稚園）：選択
学 習 到 達 目 標	音楽Ⅰでの学修を踏まえ、簡単な楽譜やコードネームを見て、子どもの歌のピアノ伴奏ができる能力を修得する。				
授 業 の 概 要	まず、子どもが歌唱する際に楽曲の習熟度に応じてピアノ伴奏ができるよう、コードネームによる伴奏付けを学ぶ。次に、他者のリズムに合わせて演奏できるよう連弾を行う。さらに、個々の演奏技術を高めるためにソロ曲の演奏も行う。				
授 業 の 計 画	<p>第1回 コードネームの基礎（メジャーコード、マイナーコード、セブンス）</p> <p>第2回 右手メロディーと左手和音(1)C、F、Gを中心に</p> <p>第3回 右手メロディーと左手和音(2)G、C、Dを中心に</p> <p>第4回 右手メロディーと左手和音(3)F、B♭、Cを中心に</p> <p>第5回 右手メロディーと左手和音(4)Am、Dm、E、Em、B、を中心に</p> <p>第6回 右手メロディーと左手和音(5)Gm、Aを中心に</p> <p>第7回 右手和音と左手ベース音(1)メジャー</p> <p>第8回 右手和音と左手ベース音(2)マイナー</p> <p>第9回 右手和音と左手ベース音(3)ベース音の動き</p> <p>第10回 右手和音と左手ベース音(4)ディミニッシュ、オーギュメント</p> <p>第11回 右手和音と左手ベース音(5)メジャーセブン</p> <p>第12回 右手和音と左手ベース音(6)サスペンディド</p> <p>第13回 右手和音と左手ベース音(7)歌唱伴奏</p> <p>第14回 伴奏付け発表会（前半グループの演奏）</p> <p>第15回 伴奏付け発表会（後半グループの演奏）</p> <p>第16回 連弾(1)個人練習(1) 譜読み・補正</p> <p>第17回 連弾(2)個人練習(2) アゴーギグ、ダイナミクス</p> <p>第18回 連弾(3)流れの確認</p> <p>第19回 連弾(4)総合表現 ダイナミクス、バランス</p> <p>第20回 連弾(5)総合表現 アゴーギグ、タイミング</p> <p>第21回 連弾(6)仕上げ</p> <p>第22回 連弾発表会（前半グループの演奏）</p> <p>第23回 連弾発表会（後半グループの演奏）</p> <p>第24回 ソロ曲練習(1)譜読み</p> <p>第25回 ソロ曲練習(2)譜読みの補正</p> <p>第26回 ソロ曲練習(3)譜読みの補正、ダイナミクス</p> <p>第27回 ソロ曲練習(4)譜読みの補正、アゴーギグ</p> <p>第28回 ソロ曲練習(5)総合表現、暗譜</p> <p>第29回 ソロ曲練習(6)総合表現、暗譜の補正</p> <p>第30回 ソロ曲練習(7)仕上げ</p>				
授 業 の 留 意 点	グループ単位での個人レッスンを基本的な授業形態とするため、特に欠席・遅刻等についての連絡を怠らないこと。				
学 生 に 対 す る 価 値	前期に行う伴奏付け発表会（20点）、後期に行う連弾発表会（20点）およびソロ発表会（20点）の演奏、および日常の課題への取り組み（40点）による。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	『新版 たのしいドレミファ・ランド』教育芸術社 大学音楽教育研究グループ編『歌唱教材伴奏法』教育芸術社				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	図画工作 I				
担 当 教 員 名	今野 道裕				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士・教職（幼稚園）：必修
学 習 到 達 目 標	絵画の基礎的な技法を身につけ、自然や人間の美しさを知り、表現する楽しさを学ぶ。保育者にとって重要な基礎能力である子どもが楽しめる「おもちゃ」づくりの基礎的な技能と道具に対する知識を身につける。				
授 業 の 概 要	授業の前半は、絵画指導の基礎を学ぶ。後半は、手作りおもちゃ・壁面構成等を実際に製作する中で、造形指導の基礎技術および指導上の留意点について学ぶ。				
授 業 の 計 画	第1回 オリエンテーション（保育における造形分野の役割） 第2回 クレヨンに挨拶 第3回 絵の具との出会い・食べ物を描こう 第4回 自然を描こう 第5回 人を描こう 第6回 絵の具遊び・その他の技法 第7回 折り紙の魅力（かえでの実・かぐや姫・カッパのお面） 第8回 簡単工作（紙の万華鏡・紙ヘリ・紙のホイッスル・風車） 第9回 飛ぶ工作(1)（折り紙飛行機・簡単ロケット・紙トンボ） 第10回 飛ぶ工作(2)（紙皿飛行機・紙コップロケット） 第11回 遊ぶ工作(3)（割り箸でっぼう・けん玉） 第12回 遊ぶ工作(4)（リングくるくる・割れないしゃぼん玉） 第13回 プレゼント工作（飛び出すカード） 第14回 壁面構成を作ろう 第15回 まとめ				
授 業 の 留 意 点	必要に応じて道具・材料を指示するので準備すること。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業における取り組み（30点）、制作物の提出(40点)、レポートの提出およびその内容(30点)により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	『3・4・5歳児の保育に 作ってあそべる製作ずかん』（学研 今野道裕：著）				

科 目 名	図画工作Ⅱ				
担 当 教 員 名	今野 道裕				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士・教職（幼稚園）：選 択
学 習 到 達 目 標	<p>「図画工作Ⅰ」での学修を踏まえ、子どもたちに造形指導する際に必要な創造力、絵画的センスを高め、子どもたちの自己表現能力をどうしたら引き出せるかをより深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応用的造形技法の製作体験を通し、保育活動の幅を広げる可能性と留意点を考えることができる。 ・絵本づくり等総合的な製作物の作成を通して、保育に効果的な造形表現を考えることができる。 				
授 業 の 概 要	<p>図画工作Ⅰでの学修を基礎とし、一般的な幼児のための造形技法のみならず、より高度な技法も含めた製作活動を行う。また、保育活動に役立つような絵本作り等の製作活動を行う。</p>				
授 業 の 計 画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 多様な技法(1) 絵画 パステル1 下絵～彩色</p> <p>第3回 多様な技法(2) 絵画 パステル2 仕上げ</p> <p>第4回 多様な技法(3) 粘土の基礎</p> <p>第5回 多様な技法(4) 粘土 制作仕上げ</p> <p>第6回 多様な技法(5) 工作 木工1 デザイン</p> <p>第7回 多様な技法(6) 工作 木工2 加工</p> <p>第8回 多様な技法(7) 工作 木工3 仕上げ</p> <p>第9回 絵本作り(1) アイディア・構想</p> <p>第10回 絵本作り(2) 作画1 下絵・彩色</p> <p>第11回 絵本作り(3) 作画2 彩色・文章</p> <p>第12回 絵本作り(4) 製本 製本の技法</p> <p>第13回 絵本作り(5) 糊付け</p> <p>第14回 絵本作り(6) 製本</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授 業 の 留 意 点	必要に応じて道具・材料を指示するので準備すること。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業における取り組み（30点）、制作物の提出(40点)、レポートの提出およびその内容(30点)により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	特になし。その都度、必要な資料を配付する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	体育				
担 当 教 員 名	三井 登				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	通 年	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	保 育 士 ・ 教 職 (幼 稚 園) : 必 修
学 習 到 達 目 標	体育に関する保育内容を理解し、子どもの運動遊びを豊かに展開するために必要な知識・技術を習得する。				
授 業 の 概 要	子どもの発達と運動機能の関係や身体に関する知識技術について学ぶ。地域の環境を生かした運動遊びの指導法、様々な遊具、用具、素材等の特性を生かした教材研究に基づく運動遊びの指導法を学ぶ。				
授 業 の 計 画	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 子どもの発達と運動機能 運動機能の系統的発達 欲求と運動 第 3 回 子どもの身体発達と食 第 4 回 食育を通じた身体づくり実践の事例紹介 第 5 回 生活リズムの構築と運動指導 第 6 回 教材研究の視点 運動遊びの系統的指導 理論的根拠 第 7 回 教材研究(1) 道具を使った運動遊び 伝承遊び 第 8 回 教材研究(2) 道具を使った運動遊び ボールを使った遊びの指導法 第 9 回 教材研究(3) 道具を使った運動遊び 縄跳び遊びの指導法 第 10 回 模擬授業(1) 運動遊びの系統的指導 指導計画の作成 第 11 回 模擬授業(2) 運動遊びの系統的指導 指導計画の実践 第 12 回 環境設定と運動遊び 第 13 回 環境に働きかける運動遊び 第 14 回 運動遊びを導く環境の創造 第 15 回 学習のまとめと振り返り				
授 業 の 留 意 点	模擬授業を含むため、動きやすい服装と靴を用意すること。既往症がある場合は、必ず事前に報告すること。				
学 生 に 対 す る 価 値	提出物70点、実技への取り組み30点により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	特になし。その都度、必要な資料を配付する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科目名	保育内容・人間関係 I				
担当教員名	糸田 尚史				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	保育士・教職（幼稚園）：必修
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自立心を育て、子どもの対人関係力を涵養できる保育者をめざす。 ・領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 ・幼児期の人間関係の発達を理解する。 ・教育実践における保育内容「人間関係」の支援法（指導法）について修得する。 				
授業の概要	<p>子どもが人と親しみ、支えあって生活するのための領域「人間関係」について、幼児期の人間関係の発達の特徴を学ぶ。子どもが自立心を持ち、人とかかわる力を養うために保育者が幼児期の教育において構成すべき保育内容の支援法（指導法）を種々の演習により実践的に理解する。具体的にはテキスト、映像、スライド、ホワイト・ボード、紐、紙、テープ、情報機器などのツールも活用して、模擬保育、集団討論、グループワーク、集団での遊び、ロールプレイなどの方法も取り入れながら、授業計画に沿って演習する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 領域「人間関係」の内容とねらい 2 幼児期の人間関係の発達① 子どもと養育者とのアタッチメントや信頼関係の発達 3 幼児期の人間関係の発達② 子どもどうしの仲間関係における情緒・社会性の発達 4 幼児期の人間関係の発達③ 子どもの人間関係をめぐる現代的課題 5 幼児期以降の人間関係の発達 6 子どもと保育者とのアタッチメントや信頼関係の形成 7 子どもの社会的自我の発達と情動の統制 8 子ども集団のなかでのトラブルへの介入・支援（模擬保育） 9 遊びにおける人間関係① 遊びをとおして対人関係性の発達を促す支援（模擬保育） 10 遊びにおける人間関係② 寄り道散歩（模擬保育）、平行遊び、連合遊び、協働遊びと発達支援 11 遊びにおける人間関係③ ふり遊び、ごっこ遊びと発達支援、情報機器活用の方法 12 遊びにおける人間関係④ ルールのある遊び、社会的情動的スキル遊びと発達支援 13 幼児期の人間関係におけるつまずき① 神経発達症（少し気になる子）への支援 14 幼児期の人間関係におけるつまずき② 家庭との連携、専門職連携（IPW）の方法 15 子どもたちの社会的環境と領域「人間関係」との連関 				
授業の留意点	<p>動きやすい服装での出席を指示することがある。 表現演習室での実践的な演習が基本となるが、ときに音楽室・児童文化演習室・屋外（大学周辺）などで行う場合もある。 グループに分かれての討論や実技には積極的に参加すること。</p>				
学生に対する評価	<p>試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物は毎時の「気づきと学び」ペーパーの作成・提出である。</p>				
教科書（購入必須）	<p>文部科学省（2017）『平成29年告示・幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』 チャイルド本社 無藤隆・古賀松香編著（2016）『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知的能力とは』 北大路書房 陳省仁・古塚孝・中島常安編（2003）『子育ての発達心理学』 同文書院</p>				
参考書（購入任意）	<p>必要に応じて適宜指示・配布する。</p>				

科 目 名	保育内容・人間関係Ⅱ				
担 当 教 員 名	及川 智博・中島 常安				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士・教職（幼稚園）：選択
学 習 到 達 目 標	乳幼児が他者とのかわり合い（相互作用）を通じて発達する過程と保育者としての援助の視座についての理解を深めます。幼児の人間関係形成に保育者が果たす役割についても自ら考察できるようになることを目指します。				
授 業 の 概 要	まず、「人間関係Ⅰ」での学修をふまえ、「幼稚園教育要領」の内容から乳幼児の対人関係の発達を確認します。次に人間発達に対する社会文化的アプローチ論に基づいた乳幼児の対人関係の発達について学びます。そのうち主要な視座として「遊びは幼児の発達の主導的路線」とするヴィゴツキーの遊び論を取り上げます。また、DVD や保育事例の考察・ディスカッションを通じ、遊びの指導法について理論・実践の両面から理解を深めます。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 領域「人間関係」について 2 子どもにとっての他者とは 3 子どもの発達と他者との関係 ヴィゴツキーの発達理論から 4 対人関係の発達(1) 大人との関係 5 対人関係の発達(2) 子どもとの関係 6 遊びとは何か 7 乳幼児の遊びの発達(1) ピアジェを中心に 8 乳幼児の遊びの発達(2) ヴィゴツキーを中心に 9 協同的関係のなかで遊びを創るということ 10 即興的パフォーマンスとしての遊び(1) 他児との共同行為としての遊び 11 即興的パフォーマンスとしての遊び(2) 保育者との共同行為としての遊び 12 遊びのなかで生まれる創造性 他者や環境との相互作用に着目して 13 模擬保育－保育者による遊び援助のあり方 指導中心か子ども中心か 14 演習の振り返りとディスカッション 15 理解度の確認 				
授 業 の 留 意 点	演習科目であり、活発な議論を行う上で予習を行うこと。				
学 生 に 対 す る 価 評	講義中のミニレポート（20点）とレポート（80点）での結果をもとに総合的に評価します。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『幼稚園教育要領』 ・厚生労働省『保育所保育指針』 				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<ul style="list-style-type: none"> ・茂呂雄二・田嶋充士・城間祥子（編）『社会と文化の心理学 ヴィゴツキーに学ぶ』 世界思想社 ・Hughes, F.P. Children, Play, and Development Fourth Edition. ・SAGE Publications. L.E.バーグ A.ウィンスラー著（田島信元・田島啓子・玉置哲淳 編訳）『ヴィゴツキーの新・幼児教育法 幼児の足場づくり』 北大路書房 <p>他にも授業内配布プリント等を通じて参考書を提示します。</p>				

科 目 名	保育内容・環境 I				
担 当 教 員 名	柳原 高文				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	保 育 士 ・ 教 職 (幼 稚 園) : 必 修
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「環境」のねらいと内容を理解する。 ・乳幼児期の子どもと環境とのかかわりについて学び、保育実践における保育内容「環境」の指導法を理解する。 				
授 業 の 概 要	<p>子どもは、人や社会、自然など、さまざまな環境に取り巻かれて育つ。この授業では、それらについて学び、保育内容「環境」に関する基礎的な理解をする。また、周囲の環境に対する子どもの好奇心・探究心を高め、子どもがそれらに積極的に関わっていくための保育方法について学ぶ。授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育内容・環境の全体構造 2 領域「環境」のねらいと内容 3 子どもを取り巻く環境 4 乳幼児期の子どもと環境とのかかわりの特性 5 子どもの好奇心と探求心の芽生え 6 子どもと環境（1）自然環境とのかかわり 7 子どもと環境（2）生き物とのかかわり 8 子どもと環境（3）生活の中での文字・数・図形とのかかわり 9 子どもと環境（4）身近なモノとのかかわり 10 子どもと環境（5）生活にかかわる情報や施設への興味・関心、情報機器の活用法 11 人的環境としての友だちや保護者 12 子どもの好奇心と探求心を高める環境構成 13 模擬保育（1）保育内容「環境」に関する指導案作成と評価方法 14 模擬保育（2）指導案に基づく模擬保育と振り返り 15 まとめー保育内容「環境」をめぐる保育者の役割と小学校との連携 				
授 業 の 留 意 点	授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な論議を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業の取り組み方・意欲 20 点、制作物 20 点、発表 20 点、定期試験 40 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	幼稚園教育要領				
参 考 書 (購 入 任 意)	必要に応じて適宜指示する。				

科目名	保育内容・環境Ⅱ				
担当教員名	柳原 高文				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	保育士・教職（幼稚園）：選択
学習到達目標	・「保育内容・環境Ⅰ」の指導法を実践的に学び、保育実践の在り方を考察する。				
授業の概要	「保育内容・環境Ⅰ」で学習したことを踏まえ、指導法について実践的に学ぶ。自然や社会など身近な環境に子どもがいかにかかわっていくか、積極的にかかわっていくにはどんな力が必要なのか、保育者も含めた人的環境の大きさについて考えると共にその指導法を実践的に学ぶ。 授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。 授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 領域のねらい及び内容の理解、全体構造の理解他 2 自然環境（１）身近な自然を観察する 3 自然環境（２）自然のなかでの遊び 4 植物（１）植物を観察する 5 植物（２）植物栽培と保育実践 6 動物（１）身近な生き物を探す 7 動物（２）動物飼育と保育実践 8 子どもの自然体験と保育方法（１）「森のようちえん」のカリキュラムと実践 9 子どもの自然体験と保育方法（２）模擬保育①指導案の作成 10 子どもの自然体験と保育方法（３）模擬保育②指導案に基づく模擬保育 11 幼稚園・保育所における環境整備の在り方、情報機器の利用法 12 身近な動植物とのふれあいができる園庭の整備 13 子どもと文化的環境（１）北海道の環境と保育実践 14 子どもと文化的環境（２）「森の幼稚園」と保育実践 15 まとめ 幼稚園教育の評価・小学校の教科等へのつながり 				
授業の留意点	授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な論議を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。				
学生に対する評価	授業の取り組み方・意欲 20 点、制作物 20 点、発表 20 点、定期試験 40 点				
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』				
参考書（購入任意）	必要に応じて適宜指示する。				

科 目 名	保育内容・健康 I				
担 当 教 員 名	三井 登				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	保 育 士 ・ 教 職 (幼 稚 園) : 必 修
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」のねらいと内容を理解し、その指導法を修得する。 ・子どもの発達を支える領域「健康」の役割と、その保育実践の在り方について理解する。 ・身体を使った遊びを実践的に学び、その知識・技術を習得する。 				
授 業 の 概 要	<p>領域「健康」の内容を実践動向などから理解し、自ら計画し実践する。また、子どもの発達を支える援助や指導の在り方について具体的な事例を紹介し、その実践的意味について理解する。「健康」に関わる保護者支援の場面などを想定し、保育者として必要な実践的知識と技術を身につける。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 園の現状や諸課題について 2 保育内容「健康」について 幼稚園教育要領・保育所保育指針が指すもの 3 子どもの心身の発達と発達 形態の発達、生理機能の発達などを学ぶ 4 生活習慣の獲得と保育者の関わり 基本的な生活習慣や安全に関する指導・援助を学ぶ 5 園生活のリズムと子どものリズム 家庭との連携を視野に（子育て支援の実際） 6 子どもの心身の健康を保障する環境構成について 7 子どもの心身の健康 園生活全体と長期的展望から捉える 8 「健康」の具体的内容と保育指導案 情報機器の活用法と教材研究の基本的な考え方 9 教材研究 1（運動遊び・体育遊びの展開 1）運動機能の発達、心の発達などを学ぶ 10 教材研究 2（運動遊び・体育遊びの展開 2）遊具・器具を使った運動遊びを学ぶ 11 健康と食育 健康の指導、食育の指導における取り組みと指導案について考える 12 模擬授業 1（運動遊び・体育遊びの展開 3）鬼ごっこなどの指導の実際を学ぶ 13 模擬授業 2（運動遊び・体育遊びの展開 4）競い合う遊びの指導の実際を学ぶ 14 模擬授業 3（運動遊び・体育遊びの展開 5）外遊びの実際と心身の発達との関係 15 まとめと振り返り 				
授 業 の 留 意 点	参考文献・資料に目を通すこと。				
学 生 に 対 す る 価 値	意欲・態度 20 点、提出物 80 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	文部科学省『幼稚園教育要領<平成 29 年告示>』フレーベル館				
参 考 書 (購 入 任 意)	授業の中で適宜紹介する。				

科目名	保育内容・健康Ⅱ				
担当教員名	三井 登				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	保育士・教職（幼稚園）：選択
学習到達目標	<p>「保育内容・健康Ⅰ」での学修をふまえ、以下の点を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」の観点から子どもの発達を保障する実践的課題と方法について学ぶ。 ・領域「健康」に関する指導計画、環境構成、保育者の役割について実践的に学ぶ。 ・運動意欲を育む指導、危険や安全を意識するための教師の具体的援助や指導について学ぶ。 ・食育の方法や子どもの健康を保障するための子育て支援の具体的方法について学ぶ。 				
授業の概要	<p>領域「健康」で対象とする、心身の発達、運動指導、生活習慣、安全、食育などについて、先進的实践から学びながら、学生自身が調査研究する。指導計画を立てて実践し、集団で議論しながら課題を発見し、子どもの発達を教師が保障する指導の在り方を学ぶ。また、保護者と保育者・園との関係を、子どもの心身の発達保障という観点から、その共同の在り方を検討する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 2 子どもの健康 運動・食事・睡眠 3 子どもの心身の発育と発達 欲求と運動 4 保育内容としての「健康」 幼稚園教育要領、保育所保育指針より環境構成、保育者の役割学ぶ 5 運動遊びの系統的指導からみた年間計画等の指導計画を考える 6 生活習慣の獲得と保育者のかかわり 基本的な生活習慣・安全についての指導・援助を学ぶ 7 基本的な生活習慣、運動遊び、安全生活に関わる指導計画について調べて発表する 8 子育て支援・児童虐待について 保護者との関係性の構築と共同の在り方を実践例から学ぶ 9 教材研究1（運動遊び・体育遊びの展開その1）運動機能の発達・心の発達と教材の選び方 10 模擬授業1（運動遊び・体育遊びの展開その2）鬼ごっこあそびなどの指導案の実践 11 教材研究2（運動遊び・体育遊びの展開その3）運動あそびの系統的指導の研究方法を遊具・器具を対象にして学ぶ 12 模擬授業2（運動遊び・体育遊びの展開その4）競い合う遊びの指導案の実践 13 健康と食育について 食育の指導における取り組みについて調べ指導計画を立てる 14 食育の取り組みから学んだことを実践する 15 まとめと振り返り 				
授業の留意点	授業の中で適宜紹介する。				
学生に対する評価	意欲・態度20点、提出物80点				
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館				
参考書（購入任意）	授業の中で適宜紹介する。				

科目名	保育内容・言葉				
担当教員名	堀川 真・中西 さやか				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	保育士・教職（幼稚園）：必修
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」について理解する。 ・乳幼児期の言語発達を理解する。 ・子どもの言葉の育ちを支える指導法および保育者の役割を理解する。 				
授業の概要	保育内容「言葉」について、幼稚園教育要領におけるねらいと内容の理解、子どもの言語発達の理解を基盤とし、子どもの言葉の育ちを支えるための指導法を実践的に学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションー幼児教育の基本と子どもの言葉（堀川） 2 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」（中西） 3 子どもの言葉の育ちの道筋① 乳児期の言語発達（中西） 4 子どもの言葉の育ちの道筋② 幼児期の言語発達（中西） 5 保育環境と言葉（堀川） 6 自分の考えや思いを伝える言葉（堀川） 7 感情体験と言葉（堀川） 8 文字との出会い（堀川） 9 言葉のリズムを楽しむ（堀川） 10 子どもの言葉を育む保育の実際①ことばあそび・わらべうた～情報機器の活用（堀川） 11 子どもの言葉を育む保育の実際②絵本・紙芝居に親しむ～情報機器の活用（堀川） 12 子どもの言葉を育む保育の実際③ストーリーテリング～情報機器の活用（堀川） 13 模擬保育①おはなし会の指導案作成（堀川） 14 模擬保育②指導案に基づく模擬保育と振り返り（堀川） 15 幼児教育の現代的課題と保育内容「言葉」ー小学校とのつながりを中心に（堀川） 				
授業の留意点	主体的に授業に参加すること。				
学生に対する評価	授業態度 20 点および提出課題 80 点により評価する。				
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館				
参考書（購入任意）	授業の中で紹介する。				

科目名	保育内容・表現 I				
担当教員名	三国 和子・今野 道裕・堀川 真				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	保育士・教職（幼稚園）：必修
学習到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域「表現」のねらいと内容を理解し、表現についての一般的概念や子どもの表現の発達に関する知識を学び指導法を身につける。				
授業の概要	領域「表現」に関わる基礎的な学習の後、環境構成や教材の提示及び情報機器の活用情報機器の表現の受容など多方面から指導法について学ぶ。実技やグループワーク、模擬保育等も行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（担当：三国） 2 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」の理解（担当：三国） 3 子どもの表現の発達① 音楽（担当：三国） 4 子どもの表現の発達② 造形（担当：今野） 5 素材との出会い① 自然との関わり（担当：堀川） 6 素材との出会い② 環境の構成・情報機器の活用（担当：今野） 7 美的感動の喚起 - 保育者の役割（担当：今野） 8 感動の伝えあいと共有（担当：堀川） 9 表現の方法① 絵とことば（担当：堀川） 10 表現の方法② 絵と歌とことば（担当：堀川） 11 表現の方法③ 工作（担当：今野） 12 表現の方法④ 楽器あそび（担当：三国） 13 模擬保育① 指導案作成（担当：三国） 14 模擬保育② 実習（担当：三国、今野、堀川） 15 まとめ（担当：三国、今野、堀川） 				
授業の留意点	各分野のつながりを意識しながら受講すること。				
学生に対する評価	授業態度（30点）、課題提出（30点）、最終レポート（40点）により評価する。				
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館 保育音楽研究プロジェクト編『青井みかんと一緒に考える幼児の音楽表現』大学図書出版				
参考書（購入任意）	厚生労働省『保育所保育指針』、その他必要な際に提示する。				

科目名	保育内容・表現Ⅱ（音楽）				
担当教員名	三国 和子				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	保育士・教職（幼稚園）：選択
学習到達目標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、領域「表現」における音楽活動の内容及び指導についてより高度な知識・技能を身につける。				
授業の概要	保育内容の領域「表現」のうち音楽分野を扱う。保育の現場で行われる音楽活動やそれを通して養われる子どもの音楽的感性や表現に関する事項について、実技やグループワークを交えながら学ぶ。また、それを踏まえ、表現領域での音楽活動についての支援のあり方について深めていく。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 保育における音楽の位置づけ 2 子どもの音楽表現とその発達①（グループワーク）観察 3 子どもの音楽表現とその発達②（グループワーク）考察 4 子どもの音楽表現とその発達③（全体）報告とまとめ 5 音楽活動のねらい 6 音楽活動の教材研究① レクチャー 7 音楽活動の教材研究② 演習 8 音楽活動の指導① レクチャー 9 音楽活動の指導② 演習 10 音楽活動の指導③ 模擬保育 11 音楽活動のメソッドとアプローチ① レクチャー 12 音楽活動のメソッドとアプローチ② 演習 13 音楽遊びの実践①（グループワーク） 14 音楽遊びの実践②（全体） 15 まとめ 				
授業の留意点	場合によっては動きやすい服装が必要となることがある。				
学生に対する評価	レポート課題（50点）、授業における課題提出（50点）によって評価する。				
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館 保育音楽研究プロジェクト編『青井みかんと一緒に考える幼児の音楽表現』大学図書出版				
参考書（購入任意）	小林美実『こどものうた200』チャイルド社				

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（造形）				
担 当 教 員 名	今野 道裕				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士・教職（幼稚園）：選 択
学 習 到 達 目 標	<p>「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、以下の事項についてより高度な知識・技能を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形活動の実際を体験し、集団的な遊びを通して指導していく上での留意点や工夫について考える。 ・パネルシアター等の製作を通し、保育者が指導する上での表現力・パフォーマンス力向上をめざす。 				
授 業 の 概 要	<p>前半の「遊びを組織する」はグループでの討論・製作・発表（模擬保育）を基本に「考える」過程を重視する授業を行う。後半のパネルシアター等の製作は個人での活動を中心に行う。基本的技術・仕掛けの工夫についての知識はテキストとして提供し、必要に応じて個別に対処し、個々の発想を重視した活動とする。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 遊びを組織する 1（遊びの大会を計画しよう テーマ・内容の決定） 3 遊びを組織する 2（遊びの大会を準備しよう ゲームの道具作り） 4 遊びを組織する 3（遊びの大会を準備しよう 景品作り） 5 遊びを組織する 4（遊びの大会を準備しよう 景品作り・運営の方法確認） 6 遊びを組織する 5（直前準備・遊びの大会を楽しもう） 7 遊びを組織する 6（遊びの大会を楽しもう－模擬保育・反省と評価） 8 様々な造形パフォーマンス 9 パネルシアター 1（基本的なしかけを理解する） 10 パネルシアター 2（制作の実際） ※製作上の諸注意 11 パネルシアター 3（制作の実際） ※特殊なしかけとその効果 12 パネルシアター 4（制作の実際） ※発表の基本 13 パネルシアター 5（発表訓練） ※効果的なパフォーマンス 14 パネルシアター 6（発表－模擬保育） ※児童参加型にするための工夫 15 パネルシアター 7（発表－模擬保育） ※グループごとの発表とまとめ 				
授 業 の 留 意 点	都度必要な道具を連絡するので準備すること。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業における取り組み(30点)、発表および制作物提出(40点)、レポート提出およびその内容(30点)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	文部科学省『幼稚園教育要領<平成 29 年告示>』フレーベル館 その他必要な資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	特になし				

科目名	保育内容・表現Ⅱ（言語）				
担当教員名	堀川 真				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	保育士・教職（幼稚園）：選択
学習到達目標	<p>「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、以下の事項についてより高度な知識・技能を身につける。</p> <p>(1) こどもを取り巻く環境にある言語表現を発達させるものへの理解を深める。</p> <p>(2) こどもの表現活動のうちから言語領域発達の萌芽を読み取る力を高める。</p> <p>(3) 言語に係る表現活動を展開させる手立てをより実践的に学ぶ。</p>				
授業の概要	こどもが受容する児童文化財および表現活動を、幼児教育における「言語」領域という視座からその変遷も含め概説し、こどもの言語の発達をうながす知識、技能の習得と、教材の作成および開発、指導法を実践的に学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 絵画表現が導く「言葉」① 現代美術表現に内包される言葉 3 絵画表現が導く「言葉」② 子どもの絵画表現に内包される言葉 4 表現と言葉の往来（ワークショップ） 5 映像メディアと言葉① 映画やアニメと言葉 6 映像メディアと言葉② ゲームやネット空間と言葉 7 映像玩具と言葉 8 絵本と言葉 9 子どもの発達と絵本の「対象年齢」 10 経験やイメージの言語化－絵本づくりを通して 11 口承文芸と言葉 12 歌に見る言語表現 13 模擬保育「私のそばにあったもの」① 子どもの興味と言語の要素 14 模擬保育「私のそばにあったもの」② 地域や風土と言語の要素 15 まとめ－乳幼児の言語表現と小学校の連携 				
授業の留意点	主体的に授業に参加すること。				
学生に対する評価	授業への取り組み（60点）、レポート課題（40点）により評価する。				
教科書（購入必須）	文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館 その他必要に応じて資料を配付する。				
参考書（購入任意）	授業の際に提示する				

科目名	教育原理				
担当教員名	中西 さやか・加藤 隆				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	保育士・教職（幼稚園）：必修
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の教育を歴史的な視点から理解する。 ・学校教育の内容と方法を理解する。 ・教育の現代的課題を理解し、これからの教育を考える視野を醸成する。 				
授業の概要	<p>学校教育を中心とする教育に関する基礎理論や思想を取り上げるとともに、学校教育の成り立ちと教育方法について学ぶ。また、現代の子どもの現状や学校教育が抱える問題、教師に求められる力量や資質についても考察する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション—教育とは何か—（中西） 2 家庭における子育てと教育（中西） 3 子どもをどのように捉えるか—子ども観の歴史—（中西） 4 教育の思想と歴史① 教育方法の歴史（中西） 5 教育の思想と歴史② 近代日本の教育思想と歴史（中西） 6 幼児教育の思想と歴史（中西） 7 学校の歴史と仕組み（加藤） 8 教育課程・カリキュラムの変遷（加藤・中西） 9 子ども中心主義の思想と学校（加藤・中西） 10 授業と学習指導（加藤） 11 教育の評価（加藤・中西） 12 学力とは何か（中西） 13 教師の成長（中西） 14 教育の現代的課題と学校（中西） 15 まとめ—教育観の再考—（中西） 				
授業の留意点	講義科目であるが、主体的な態度で授業に臨むこと。				
学生に対する評価	講義終了時の小レポート（20点）および提出課題（80点）により評価する。				
教科書（購入必須）	北野幸子編『改訂 子どもの教育原理』建帛社、2018年				
参考書（購入任意）					

科 目 名	幼児教育史				
担 当 教 員 名	塚本 智宏				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（幼稚園）：選 択
学 習 到 達 目 標	この授業では、主として西欧近代の幼児教育や子ども観の歴史・理念に目を向け、過去の遺産たる教育思想並びに教育史を取り上げ、その時代背景や文化、社会構造など考慮しながら、歴史的及び今日的な意義の視点にたって授業を行う。ここでは、教育者の幼児教育実践の土台となる人間尊重の理念・幼児教育観・子ども観の獲得を一般目標とする。 具体的には、教育史について 1)家庭と社会による教育 2)近代教育制度 3)現代社会における教育課題についての知識、理解を得ること、教育思想については、1) 家庭や子ども 2)学校や学習について				
授 業 の 概 要	主として、中世から現代に至るまでの西欧の幼児教育や子ども観の歴史を、メディア・経済・政治の大きな変動にと連動するマクロな歴史としてとらえるとともに、その歴史の中で、幼児教育の思想家・教育者がどういった教育観や子ども観をもって子どもという人間に向き合ってきたのか、その発展を解明することが基本的な授業展開となる。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 中世の社会構造と子ども観・教育観 2 近世文字メディアの誕生と教育観・子ども観の変化 3 近世末期の子どもの養育危機 4 近代社会への転換と子ども・教育観 5 イギリス産業革命と幼児教育・思想 6 フランス市民革命と教育思想 7 ドイツ近代的幼児教育思想と施設 8 近代学校批判と新教育観 9 イタリア新教育と幼児教育思想・施設 10 ロシア革命と保育の思想 11 子どもの発達権思想と人権思想(1) ロシア 12 子どもの発達権思想と人権思想(2) ポーランド 13 第一次世界大戦と幼児教育・子ども観 14 第二次世界大戦と幼児教育・子ども観 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	集中講義として実施する。欠席などの内容にすること。				
学 生 に 対 す る 価	授業途中に課す小レポート（30点）及び授業終了時に課すレポート（70点）による。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	塚本智宏『子どもにではなく子どもと コルチャック先生の子育て・教育メッセージ』2018年、かりん舎				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	同『コルチャックとその時代 子どもの権利史研究の試み』子どもの未来社、2019年予定				

科目名	教職概論（幼稚園）				
担当教員名	加藤 隆				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	教職（幼稚園）：必修
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職観の変遷を踏まえ、幅広い観点から「教師の役割・仕事」について理解する。 ・教師に求められる資質や能力について理解する。 ・学校の役割の多様化を理解し、教職の意義、職務の内容、連携の在り方について考察する。 				
授業の概要	<p>時代の変化の中で、教師の仕事と役割がどのように変化してきたのかを事例に基づいて考察するとともに、変化しない教職の不易について学ぶ。また、学校が担う役割や社会的要請の多様化を理解し、教員の資質や能力、或いは、連携も含めた望ましい教職観について考察する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 授業の紹介と、15回の授業展開の説明 2 教職への就職の方法 教職課程の履修方法や教員採用検査の対応 3 子ども（特に幼児）の生活と学校 最近の子どもの生活と学校の現実の理解と課題 4 教師の職務 法令に示されている教師の職務やサービス 5 教師の役割の変化：戦前、戦後の教師の役割の変化 6 教師の仕事と役割①：どのような内容をどのような計画で教えるか 7 教師の仕事と役割②：よい授業（保育）の条件、教育指導の在り方 8 教師の仕事と役割③：生きる力を育てる教育活動や教育相談 9 教師の仕事と役割④：子ども（特に幼児）の安全や権利についての事例 10 教師をめぐる諸問題①：教師はどのような悩みを抱えて仕事をしているか 11 教師をめぐる諸問題②：最近の学級の荒れの背景と学級経営の在り方 12 これからの教師①：学校の役割の多様化と教師の資質能力と連携 13 これからの教師②：魅力ある教職像（不易と流行）について 14 教師への道：自分なりの目指す教師（保育）像について意見交換 15 授業のまとめ：これまでの授業の振り返り、レポート 				
授業の留意点	出席は前提となる。やむを得ない事情を除き欠席はしないこと。				
学生に対する評価	授業への関心意欲態度（30点）、提出課題（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	適宜プリント等を配布する。				
参考書（購入任意）					

科目名	子ども教育心理学				
担当教員名	糸田 尚史				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	保育士・教職（幼稚園）：必修
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育にかかわる心理学の理論と実践を学ぶ。 ・子どもに関する教育心理学の理論と知識を修得する。 ・子どもに関する教育心理学の理論を現場に応用できる力を身につける。 ・教師としての自覚と責任を持つ。 				
授業の概要	<p>本講義は教育心理学の理論を子どもにかかわる実践において活かすことを目指して行われる。子どもの教育は単なる経験からだけでは行えず、机上の理論だけでも役には立たない。子どもに関する心理学の理論をしっかりと身につけ、それを教育の現場に活かせるようにする。主要内容は「発達」と「学習」に重点を置き、動機づけ、記憶、知能、パーソナリティ、障害の理解についても多く時間を割いて取り扱う。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 履修上の注意事項、成績評価の方法、簡易な教育心理学的実験の演習 2 学習の心理 条件づけとその応用 3 学習の理論を生かす 「学び」の新しいかたち 4 動機づけの心理学 やる気を引き出し、持続させるには 5 記憶の心理学 人間の記憶の多様性と効果的な記憶法 6 知能とは何か 知能にかかわる理論と知的発達過程 7 知能の理論を生かす 認知能力や学習能力を測査する知能検査（心理検査）の活用 8 パーソナリティの心理学 児童・生徒の性格理解と心理検査（人格検査）の活用 9 発達の理論 発達を見つめる枠組み 10 乳児期・幼児期の発達 心の芽生え 11 学童期・青年期の発達 社会的な自己の形成 12 社会性・道徳性の発達 社会への適応と非行（犯罪）の社会心理学 13 心身発達の「障害」の理解 障害をもった子どもたちと、どう向き合うか 14 発達障害（神経発達症）への心理的支援 臨床心理学的技法と長所活用型の特別支援教育 15 まとめ 				
授業の留意点	既に配布済みの資料を遡って使用することがあるので配布資料は遺漏なく綴り、教科書とともに毎回、持参すること。				
学生に対する評価	試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物（20点）は毎時の「気づき・学び」ペーパーの作成・提出である。				
教科書（購入必須）	ナイジェル・C.ベンソン 著（清水佳苗・大前泰彦訳）（2001）『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体像が見える』 講談社（ブルーバックス）				
参考書（購入任意）	<p>子安増生・名和政子ほか著（2018）『発達と学習（教職教養講座）』 共同出版 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編（2015）『心理学（第5版）』 東京大学出版会 下山晴彦・遠藤利彦・齋木潤編（2014）『誠信 心理学辞典（新版）』 誠信書房 細江達郎著（2012）『知っておきたい最新犯罪心理学』 ナツメ社</p>				

科 目 名	発達心理学				
担 当 教 員 名	中島 常安・及川 智博				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士・教職（幼稚園）：必修
学 習 到 達 目 標	1. 発達心理学の基礎理論について理解する。 2. 講義から得た発達理論の知識に基づいて、保育における子ども理解・発達理解の重要性および子どもの評価法を理解する。				
授 業 の 概 要	発達心理学の基礎理論について、保育との関連に触れながら、教科書に沿って講義を行う。授業理解を確実にするために、章末にある復習課題を小レポートとして課す。講義を進めるにあたっては、科学は仮説の上に成り立っており、異なる理論上の立場、学説があること、知識として学ぶばかりでなく、学び方を学ぶことが重要であることに留意する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション／保育と心理学（1） 子どもの発達を理解することの意義（担当：中島） 2 保育と心理学（2） 保育実践の評価と心理学（担当：中島） 3 保育と心理学（3） 発達観、子ども観と保育観（担当：中島） 4 子どもの発達理解～感情と社会性の発達～（1） 感情とは何か／基本的感情とその理解（担当：中島） 5 子どもの発達理解～感情と社会性の発達～（2） 客観的自己意識の発達と自己意識的評価感情の発達／情操の発達（担当：中島） 6 子どもの発達理解～感情と社会性の発達～（3） 客観的自己意識の発達と自己意識的評価感情の発達／情操の発達（担当：中島） 7 子どもの発達理解～認知の発達～（1） 赤ちゃんのこころの発達（担当：及川） 8 子どもの発達理解～認知の発達～（2） 思考の発達／心の理論（担当：及川） 9 人との相互的かかわりと子どもの発達（1） 愛着の形成と発達（担当：及川） 10 人との相互的かかわりと子どもの発達（2） 発達と学習（担当：及川） 11 人との相互的かかわりと子どもの発達（2） 発達と学習（担当：中島） 12 生涯発達と発達援助（担当：中島） 13 障がい児の発達（担当：及川） 14 保育実践事例の分析（担当：中島） 15 まとめ 子ども、社会、環境、発達、自立（担当：中島） 				
授 業 の 留 意 点	本講義は学生に学問的態度を求める。学問とは知の探求である。学問における知識の内容は、研究の深化によって変化する。従って重要なのは記憶することではなく理解する力である。理解は「どこがどのようにわからないのか」を認識することによって深まる。そのような能動的受講態度が必要である。				
学 生 に 対 す る 価 評	授業内レポート（10点）及び期末試験（90点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	中島常安編『保育の心理学～地域・社会のなかで育つ子どもたち～』（同文書院）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	授業内で資料を配付する。				

科目名	特別な教育的ニーズの理解とその支援				
担当教員名	安永 啓司				
学年配当	2年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	保育士・教職（幼稚園）：必修
学習到達目標	1. インクルーシブ保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害等のある子ども及びその保育について理解する。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 3. 障害等のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。 4. 障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5. 障害等のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。				
授業の概要	(1) インクルーシブ保育を支える理念、 (2) 障害等の理解と保育における発達の援助、 (3) インクルーシブ保育の実践、 (4) 家庭及び関係機関との連携、 (5) 障害等のある子どもの保育にかかわる現状と課題 などについて学び、演習を行う。				
授業の計画	1 障害等の理解と援助①（障害とは何か？） 2 障害等の理解と援助②（特別のニーズと支援） 3 障害等の理解と援助③（特別支援教育の理念、歴史、法制度） 4 障害等の理解と援助④（討論：障害と個性） 5 障害等のある子どもの保育の実践①（療育機関・特別支援学校の現状） 6 障害等のある子どもの保育の実践②（小学校・中学校等の現状） 7 障害等のある子どもの保育の実践③（保育園・幼稚園の現状） 8 障害等のある子どもの保育の実践④（討論：差別について） 9 連携の仕組みと支援計画①（関係機関との連携） 10 連携の仕組みと支援計画②（保護者の支援、保護者との連携） 11 連携の仕組みと支援計画③（個別の支援計画等の作成） 12 連携の仕組みと支援計画④（討論：支援を繋げるために） 13 これからのインクルーシブ保育①（特別支援教育から権利条約まで） 14 これからのインクルーシブ保育②（インクルーシブ保育への可能性） 15 これからのインクルーシブ保育③（討論：インクルージョンの展望と課題）				
授業の留意点	演習科目であり、積極的な発言等を求めます。				
学生に対する評価	リアクションペーパー30点、レポート70点で評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一・渡邊貴裕・林安紀子・久見瀬明日香・工藤傑史・大伴潔・安永啓司・田口悦津子編 『知的・発達障害のある子のための「インクルーシブ保育」実践プログラム』 福村出版 2012年				
参考書（購入任意）	伊勢田亮・小川英彦・倉田新編 『障害のある乳幼児の保育方法』 明治図書 2008年 陳省仁・古塚孝・中島常安編著 『子育ての発達心理学』 同文書院 2003年				

科目名	保育内容総論				
担当教員名	中西 さやか				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	保育士・教職（幼稚園）：必修
学習到達目標	保育内容の基本理念と成り立ちを理解し、乳幼児の発達に即した環境構成・指導計画に基づく総合的な保育展開の在り方を学ぶ。				
授業の概要	幼児教育の基本と保育内容および領域の概念について学び、乳幼児の発達と学びを促すためのカリキュラム・計画・指導の在り方について考察する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 幼児教育の基本と保育内容・カリキュラム 2 保育内容・カリキュラムの歴史の変遷 3 保育カリキュラムの編成原理と子ども観 4 教育課程・保育課程の編成とカリキュラム・マネジメント 5 幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育内容の理解 6 子どもの発達と保育内容 7 子ども理解と評価 8 養護と教育の一体性と保育内容 9 保育における計画① 指導計画の作成 10 保育における計画② 計画の展開と評価 11 幼児教育と小学校教育の連携・接続を見据えた保育内容 12 諸外国の保育内容・カリキュラム 13 これからの保育内容①多様な保育ニーズとさまざまな保育形態 14 これからの保育内容②多文化共生の保育 15 まとめ—子どもの主体性と保育内容・カリキュラムの関係性 				
授業の留意点	主体的に授業に参加すること。				
学生に対する評価	授業時の小レポート・授業態度（20点）および提出課題（80点）により評価する。				
教科書（購入必須）	中村恵・水田聖一・生田貞子編『新・保育実践を支える保育内容総論』福村出版、2018年				
参考書（購入任意）	『<平成29年告示>幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』チャイルド本社 厚生労働省『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館				

科 目 名	保育指導論				
担 当 教 員 名	中島 常安・棚橋 裕子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士・教職（幼稚園）：必修
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法の基礎理論および情報機器を活用した教育について理解する。 ・発達理解を踏まえ、教育方法の理論に基づいた、指導・援助、技術について理解する。 				
授 業 の 概 要	幼稚園教育要領教育の理解をもとに、教育方法の基礎理論について、具体的な事例を取り上げながら、指導・援助のあり方と保育技術について理解する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、教育方法の歴史的概観① 児童中心主義の流れと誘導保育論（1） 児童中心主義の基本的理解と計画的児童中心主義としての誘導保育論の概要 2 教育方法の歴史的概観② 児童中心主義の流れと誘導保育論（2）： 誘導保育論の事例と幼稚園教育要領との関係 3 教育方法の歴史的概観③ 活動中心系統主義とその保育（1）： 系統主義の基本的理解とその保育理論の概要 4 教育方法の歴史的概観④ 活動中心系統主義とその保育（2）： 集団主義保育の発展としての伝えあい保育 5 幼稚園教育要領と幼児教育の基本 6 子どもの発達と幼児教育の方法（1）：遊びと発達 7 子どもの発達と幼児教育の方法（2）：遊びと学び 8 子どもの発達と幼児教育の方法（3）：生活と遊び 9 人間発達の基本的理解 10 発達と教育・保育 ヴィゴツキーの最近接発達領域 11 環境を通して行う教育の意味と方法 12 遊びを通して行う指導の意味と方法 13 基本的生活習慣の自立と当番・係活動の指導（1） 自立を促す教育・保育のあり方 14 基本的生活習慣の自立と当番・係活動の指導（2） 当番・係活動の意義と指導方法 15 情報機器の活用について 				
授 業 の 留 意 点	本講義は学生に学問的態度を求める。学問とは知の探求である。学問における知識の内容は、研究の深化によって変化する。従って重要なのは記憶することではなく理解する力である。理解は「どこがどのようにわからないのか」を認識することによって深まる。そのような能動的受講態度が必要である。				
学 生 に 対 す る 価 評	授業内レポート（10 点）及び期末試験（90 点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	文部科学省『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館 中島常安・清水玲子編『事例で学ぶ保育実践』同文書院 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	授業において資料を配付				

科目名	保育指導論演習				
担当教員名	中島 常安				
学年配当	2年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職（幼稚園）：選択
学習到達目標	<p>1. 「保育指導論」での学修を踏まえ、子どもの発達を促す教育方法について実践的な力量を身につける。</p> <p>2. 子どもの実態に即した適切な指導・援助のあるべき方法について、事例を通して自ら考えられる力量を身につける。</p>				
授業の概要	<p>保育指導論で学んだ知識をさらに深めるための講義を受けた上で、いくつかの事例について、集団的討議を通して、その理解を確かなものにする。討議にあたっては、経験に頼ったり信念のみに依拠したりするのではなく、根拠・基準が何であるかを明確にしてその実践が優れた指導方法であるかどうかを判断する。これを踏まえた集団的討議は、反省的保育者あるいは実践的研究者となる礎を築くものであり、保育者に求められる協働性を培うことにもつながる。</p> <p>また授業内において、討議を踏まえた小レポートの提出が求められる。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：授業概要と授業の受け方 2 発達観と教育方法の理論について（1）：講義 3 発達観と教育方法の理論について（2）：グループ討論 4 発達観と教育方法の理論について（3）：全体討論 5 環境を通しての教育について（1）：事例についてのグループ討論 6 環境を通しての教育について（2）：事例についての全体討論 7 領域「表現」と「言葉」を中心にした教育の方法について（1）：事例についてのグループ討論 8 領域「人間関係」を中心にした教育の方法について（1）：事例についてのグループ討論 9 領域「人間関係」を中心にした教育の方法について（2）：事例についての全体討論 10 行事の考え方と教育の方法について（1）：講義 11 行事の考え方と教育の方法について（2）：事例についてのグループ討論 12 行事の考え方と教育の方法について（3）：事例についての全体討論 13 当番活動の指導について（1）：事例についてのグループ討論 14 当番活動の指導について（2）：事例についての全体討論 15 まとめ 				
授業の留意点	<p>保育指導論の内容の振り返りを行うため、あらかじめ復習を行うこと。</p> <p>グループ討論について積極的な発言が求められ、欠席はしないこと。</p>				
学生に対する評価	<p>授業内レポート 20 点、期末レポート 80 点により評価する。</p>				
教科書（購入必須）	<p>文部科学省『幼稚園教育要領<平成 29 年告示>』フレーベル館 中島常安・清水玲子編『事例で学ぶ保育実践』同文書院 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p>				
参考書（購入任意）	<p>授業において資料を配付</p>				

科 目 名	子ども理解と教育相談				
担 当 教 員 名	糸田 尚史				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職（幼稚園）：必修
学 習 到 達 目 標	<p>テーマ：子どもの心や行動への理解と教育相談にかかわる心理学的理論及び実践方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の子ども理解にかかわる基礎的理論と幼児期の子どもの教育との関連を理解する。 ・カウンセリングの基礎理論を理解し、カウンセリングに必要な諸技能を修得する。 ・教育相談の意義を理解し、教育支援の諸技法を実践できる。 ・幼児期の子どもの発達と家庭や社会における現代的な諸問題について学び、それに対する実際的な支援方法（心理療法的支援やソーシャルワーク的支援）を状況即応的に応用できる。 				
授 業 の 概 要	<p>心理学領域で発展してきた子ども理解のための基礎理論と方法、保健医療福祉分野で実践されてきた相談（ソーシャルワーク）やカウンセリングの基礎理論と方法を学び、教師が行う子ども理解と教育相談での活用について修得する。近年、注目されている神経発達症（発達症 / 発達障害）への理解とその教育相談も取り扱う。DSM-5 により名称や概念が変化しつつある発達症や情緒・社会性の発達にかかわる教育相談、支援の実際、教育支援（就学相談）、関係機関との連携などについて解説する。</p>				
授 業 の 計 画	<p>第1回 子ども発達理解と教育相談の意義</p> <p>第2回 子ども理解の理論①</p> <p>第3回 子ども理解の理論②</p> <p>第4回 子ども理解の理論③</p> <p>第5回 子ども理解の方法</p> <p>第6回 子ども・保護者への心理・教育的支援</p> <p>第7回 子どもの心理臨床①</p> <p>第8回 子どもの心理臨床②</p> <p>第9回 子どもの心理臨床③</p> <p>第10回 子ども・養育者の心理臨床</p> <p>第11回 子どもの情緒・社会性の問題①</p> <p>第12回 子どもの情緒・社会性の問題②</p> <p>第13回 子どもの情緒・社会性の問題③</p> <p>第14回 子どもの教育支援（就学相談）</p> <p>第15回 子ども相談と連携</p>				
授 業 の 留 意 点	ケース・スタディやグループ・ワークでは積極的に参加し、活発に意見を述べ合うことを期待する。				
学 生 に 対 す る 価 値	試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物は毎時の「気づきと学び」ペーパーの作成・提出である。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	糸田尚史 「第7章 発達をつまづきと養育者・施設の役割」「第9章 福祉施設における子どもの発達」 陳・古塚・中島編 （2003） 『子育ての発達心理学』 同文書院 菊野春雄編著 （2016） 『乳幼児の発達臨床心理学：理論と現場をつなぐ』 北大路書房				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	佐伯胖 （2014） 『幼児教育へのいざない：改訂増補版』 東京大学出版会 佐伯胖・大豆生田啓友・汐見稔幸ほか （2013） 『子どもを「人間としてみる」ということ』 ミネルヴァ書房 小山充道編・糸田尚史分担執筆 （2008） 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版 マクナミー&ガーゲン他（野村・野口訳） （2014） 『ナラティブ・セラピー』 遠見書房				

科 目 名	教育実習指導				
担 当 教 員 名	中島 常安・今野 道裕				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（幼稚園）：必修
学 習 到 達 目 標	1. 教育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を明確にし、自らの課題を明確にする。 3. 実習園における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価、の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。				
授 業 の 概 要	実習先の決定にいたるまでの手続とその指導、幼稚園の理解、幼稚園教育要領の理解、学外実習の目的および内容の理解、必要な保育技術の習得、学外実習終了後の事後指導をその内容とする。 実習終了後に、1・2年合同で実習報告会を行なう。				
授 業 の 計 画	1 教育実習の意義 （1） 実習の目的 （2） 実習の概要 2 実習の内容と課題の明確化 （1） 実習の内容 （2） 実習の課題 3 実習に際しての留意事項 （1） 子どもの人権と最善の利益の考慮 （2） プライバシーの保護と守秘義務 （3） 実習生としての心構え 4 実習の計画と記録 （1） 実習における計画と実践 （2） 実習における観察、記録及び評価 5 事後指導における実習の総括と課題の明確化 （1） 実習の総括と自己評価 （2） 課題の明確化				
授 業 の 留 意 点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は即実習に行くことが出来ない場合がある。 なお、実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。				
学 生 に 対 す る 価	受講態度、実習への姿勢、提出物等、総合的に判断する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	（保育実習指導・教育実習指導と共通） 河邊貴子・鈴木隆編著『保育・教育実習―フィールドで学ぼう―』同文書院 小林育子他編著『幼稚園・保育所・施設 実習ワーク』萌文書林 相馬和子・中田カヨ子編著『実習日誌の書き方』萌文書林				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	教育実習				
担 当 教 員 名	中島 常安・今野 道裕・棚橋 裕子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（幼稚園）：必修
学 習 到 達 目 標	1. 幼稚園の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。				
授 業 の 概 要	実習を通して幼稚園の役割や機能を理解し、直接対象にかかわりながら保育について総合的に学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 幼稚園の役割と機能 (1)幼稚園の生活と一日の流れ (2)幼稚園教育要領の理解と保育の展開 2 子ども理解 (1)子どもの観察とその記録による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助やかかわり 3 保育内容・保育環境 (1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと保育内容 (4)子どもの健康と安全 4 保育の計画、観察、記録 (1)指導計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての幼稚園教諭の役割と職業倫理 (1)幼稚園教諭の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)幼稚園教諭の役割と職業倫理				
授 業 の 留 意 点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（実習指導、初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。				
学 生 に 対 す る 価 値	実習先での評価表を中心に、実習指導の受講状況、提出物等を加味して総合的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキスト・参考文献は、実習指導のものを参照				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	教職・保育実践演習				
担 当 教 員 名	堀川・今野(道)・三井・柳原・糸田・中島(常)・中西・三国				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士・教職(幼稚園)：必修
学 習 到 達 目 標	保育者として必要な資質能力を確認し、演習を通じて身につける。				
授 業 の 概 要	<p>保育者として求められる4つの事項である下記の事項について、総合的に扱う。</p> <p>①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ②社会性や対人関係能力に関する事項 ③幼児理解やクラス経営等に関する事項 ④教科・保育内容等の指導力に関する事項</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インタロダクション～幼児教育に望まれること(グループ討論：中西、三国) 2 幼稚園・保育所の運営と保育者の責務(1)年間スケジュールと1日の生活(講義：中西、学外講師) 3 幼稚園・保育所の運営と保育者の責務(2)校務務分掌と安全管理(講義・事例研究：中西、学外講師) 4 幼児理解(ロールプレイング：糸田) 5 クラス運営と指導計画(講義・グループ討論：中西、中島、学外講師) 6 家庭や地域との連携(事例研究：糸田) 7 フィールドワーク(1)打ち合わせ(糸田、中西) 8 フィールドワーク(2)現地(糸田、中西) 9 フィールドワーク(3)まとめ(糸田、中西) 10 保育内容の指導力(1)(グループ討論：中島、三国、今野) 11 保育内容の指導力(2)(模擬保育「言葉」と「表現」：中島、三国、堀川) 12 保育内容の指導力(3)(模擬保育「人間関係」と「表現」：中島、三国、今野、糸田) 13 保育内容の指導力(4)(模擬保育「健康」と「環境」：中島、三国、三井、柳原) 14 保育内容の指導力(5)(グループ討論：中島、三国) 15 まとめ～よりよい保育者となるために(中西) 				
授 業 の 留 意 点	グループディスカッション、フィールドワークを伴うので、欠席・遅刻は十分に留意すること。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業毎の提出課題50点、レポート50点により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 中島常安・清水玲子編著『事例からみえる子どもの育ちと保育～保育・教職実践演習のために～』(同文書院)</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	扱う内容に応じてその都度指示する。				

科 目 名	児童文化				
担 当 教 員 名	今野 道裕・堀川 真				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教 職 (幼 稚 園) : 選 択
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・主な「児童文化」に関する知識と実際を知り、その特性や実践上の留意点について理解する。 ・「児童文化」が保育分野に果たす役割を考える中で日本の子ども文化の特性を知る。 ・幼稚園・保育所・学校・地域における文化活動の発展の方向を考える。 				
授 業 の 概 要	伝承遊びからおもちゃ・絵本・人形劇・紙芝居・テレビ等まで、個々の「児童文化」が果たす役割をできるだけ実例提示・実演する中で紹介し、その特性と課題について学ぶ。その中から実践する上で留意すべき事柄を考える。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 概論 子どもを取り巻く文化状況についてデータを元にして知る(今野) 2 あそびについて 「あそび」の持つ意味 集団づくりに役立つ遊び(今野) 3 伝承あそび 伝承遊びの今日的役割 伝承遊びの紹介(堀川) 4 おもちゃについて おもちゃの役割・特性、手作りおもちゃ(今野) 5 おもちゃで遊ぼう グッドトイの紹介(今野) 6 ネイチャーゲーム 自然と遊ぶ、自然で遊ぶ、子どもが自然と関わることの大切さ(堀川) 7 ゲームについて コンピューターゲームのはじまりとコミュニケーションの問題(堀川) 8 紙芝居の世界 発達史、紙芝居と絵本の違い、紙芝居を演じる上で留意点(堀川) 9 人形劇 人形劇の基本的な技法(今野) 10 劇遊び 子どもが楽しい「劇遊び」の指導法(堀川) 11 昔話 日本の主な昔話の紹介、昔話とは何か、昔話の魅力(堀川) 12 絵本創作の背景を探る 絵本作家茂田井武と加古里子を軸に(堀川) 13 絵本への思い 絵本の歴史と戦後「岩波絵本」「福音館絵本」の果たした役割(堀川) 14 テレビ論 児童向けテレビ番組に見る社会との同期性について (堀川) 15 まとめ 授業の感想と児童文化についての考察・発表(堀川) 				
授 業 の 留 意 点	講義科目ではあるが、科目の性格上、多少の演習を含む。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業における小レポート (40 点) レポートの提出およびその内容(60 点)により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	その都度必要に応じてプリントを配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	特になし。				

科 目 名	児童文化演習				
担 当 教 員 名	今野 道裕・堀川 真				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士・教職（幼稚園）：選 択
学 習 到 達 目 標	保育者というのは、自分自身が豊かな表現者であり、遊びの組織者となる必要がある。演習を通し、その基礎的な技術・技能を身につけるとともに、集団で創造することの喜びと感動を体験し保育場面での活用意欲を高める。 絵本は誰もが幼児期に親しんできたものであろう。その絵本作家および絵本という表現形態への理解とそのものの魅力についての理解をさらに深めるのがこの授業の目的である。				
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポンジを使った人形制作の実習とグループによる公演を行う。 ・ 日本の昔話を素材にした影絵劇の作成と上演を行う。 ・ 動物園に行き動物の特性を理解しながら、絵として描く際のポイントを知る。 ・ 絵本作家自身が語る絵本の魅力を知り、絵本制作について実習する。 				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 概論・児童文化とは何か。演習について（担当：今野） 2 人形劇をつくろう(1) スポンジ人形の製作～デザイン・切り出し（担当：今野） 3 人形劇をつくろう(2) スポンジ人形の製作～彩色・仕上げ（担当：今野） 4 人形劇をつくろう(3) 脚本・小道具の製作（担当：今野） 5 人形劇をつくろう(4) 製作仕上げ・練習（担当：今野） 6 人形劇をつくろう(5) 練習～修正～練習（担当：今野） 7 人形劇をつくろう(6) 発表会（担当：今野） 8 動物園を作ろう(1)素材の特性・動物の特徴～グループ分け（担当：堀川） 9 動物園を作ろう(2)グループごとの計画（担当：堀川） 10 動物園を作ろう(3)製作1 個別動物の製作（担当：堀川） 11 動物園を作ろう(4)製作2 配置～仕上げ（担当：堀川） 12 動物園を作ろう(5)完成～展示・交流（担当：堀川） 13 影絵劇をつくろう(1) 製作役割の分担・脚本を作る（担当：今野） 14 影絵劇をつくろう(2) 人形を作る（担当：今野） 15 影絵劇をつくろう(3) 人形を作る・背景を作る（担当：今野） 16 影絵劇をつくろう(4) 背景を作る・公演役割の分担(担当：今野) 17 影絵劇をつくろう(5) 練習・スクリーンと光の関係の理解と工夫（担当：今野） 18 影絵劇をつくろう(6) 練習・人形操作の工夫と修正(担当：今野) 19 影絵劇をつくろう(7) 発表会（担当：今野） 20 動物とこども・保育の関わり（担当：堀川） 21 動物を見つめる(1) 鳥類（担当：堀川） 22 動物を見つめる(2) 類人猿（担当：堀川） 23 動物を見つめる(3) 哺乳類（担当：堀川） 24 動物を見つめる(4) 爬虫類（担当：堀川） 25 物語を描いてみよう(1) 構想（担当：堀川） 26 物語を描いてみよう(2) 各場面を考える(担当：堀川) 27 物語を描いてみよう(3) 修正～完成(担当：堀川) 28 物語を描いてみよう(4) 終わり方を考える(担当：堀川) 29 まとめ 絵本と絵本作家・絵本と子ども（担当：堀川） 30 まとめ(3) 絵本とおとな（担当：堀川） 				
授 業 の 留 意 点	グループによる活動のため、できるだけ欠席はしないこと。				
学 生 に 対 す る 価 評	授業における取り組み(40点)、発表および作品提出(30点)、レポート提出およびその内容(30点)により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	必要に応じてその都度をプリントを配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

特別支援学校教諭

社会保育学科

科目名	障害児支援の基礎理論				
担当教員名	矢口 明				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	教職（特別支援）：必修
学習到達目標	障害者の権利に関する条約批准に伴い、福祉や教育を含む大きな時代的転換が訪れている。特殊教育から特別支援教育へ、障害児教育も大きく変わりつつある。わが国が築きあげてきた障害児教育の歴史を概観し、先達の理念と努力を学ぶことを通して、その意義及び目的と継承すべき視点について深く理解する。併せて、障害児教育を学ぶスタートラインとして、職業的自覚や今後の学びの意味を理解し、高いキャリア意識を醸成する。				
授業の概要	特別支援教育がめざしている社会の理解、発達障害のある子どもたちについての理解と支援方法を学ぶ。障害の有無にかかわらず一人一人の特性に応じた支援について考えることを通して、障害児教育の担い手として必要な知識・技術の概要を知り、今後の学習計画の基盤とする。				
授業の計画	第1回 特殊教育から特別支援教育への転換の経緯 第2回 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システムが目指すもの 第3回 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(1) LD、ADHDの幼児児童生徒 第4回 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(2) 自閉スペクトラムの幼児児童生徒 第5回 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(3) 診断のない幼児児童生徒 第6回 幼児児童生徒の行動の理解と対応(1) コミュニケーション 第7回 幼児児童生徒の行動の理解と対応(2) 不適切な行動 第8回 特別支援学級、通級指導教室の教育課程と個別の教育支援計画 第9回 特別支援学校の教育課程と自立活動の指導 第10回 就学に向けた相談支援体制と福祉制度 第11回 特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制 第12回 家庭や地域と連携した支援体制の構築 第13回 関係機関と連携した支援体制の構築 第14回 児童生徒一人一人の個性を尊重した学級経営の在り方 第15回 これからのインクルーシブ教育				
授業の留意点					
学生に対する評価	議論や質問に応じる機会の多い授業となるため、授業の参加態度や議論や質問等について、講義時の応答・協議で判断する（30点）。これらの評価と最終試験の結果（70点）と併せて評価する。				
教科書（購入必須）	特別支援教育の基礎理論：教育出版				
参考書（購入任意）					

科目名	知的障害者の心理・生理・病理				
担当教員名	奥村 香澄				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職（特別支援）：必修
学習到達目標	知的障害を理解する上で定型発達について理解し、発達の偏りやアンバランスについて理解できるようにする。知的障害の要因や状態、心理や社会背景などを捉えることで、多様な障害を理解する基盤を形成することを目標とする。				
授業の概要	定型発達について再確認するとともに、原因に基づいた発達の様態や表象に現れる様々な特徴を、メカニズムとして理解することが求められる。全般的な知識としてではなく、機序や構造を捉えた知的障害の理解を促すようにするため、協議機会を多く持つ。				
授業の計画	<p>第1回 発達の生理学的基礎 身体、脳、原初期の反応、社会的相互作用、学習</p> <p>第2回 知的障害の定義 障害の認定と教育</p> <p>第3回 知的障害の分類と障害の要因 知的障害の発生機序、学習や行動の特徴</p> <p>第4回 社会的に増悪する知的障害 社会的相互作用、評価</p> <p>第5回 遺伝の仕組みと異常 遺伝形質、先天性、後天性、内因、外因</p> <p>第6回 脳機能の発達 健常児の発達</p> <p>第7回 脳機能の障害 認知、脳波、脳血流量、認知神経心理学、生理心理学</p> <p>第8回 知的障害児の学習特性 ステレオタイプ、固執性、学習された無気力</p> <p>第9回 脳機能障害児の運動特性 操作、協調性運動発達障害</p> <p>第10回 知的障害児の言語発達 他者意図理解、共同注意、自閉症</p> <p>第11回 知的障害児の社会性の発達 経験、学習</p> <p>第12回 知的障害児の行動問題の理解と支援 自傷行動、他害行動、応用行動分析</p> <p>第13回 ダウン症候群 染色体異常、行動特性、学習特性</p> <p>第14回 Williams 症候群 染色体異常、行動特性、学習特性</p> <p>第15回 その他の染色体異常 コーネリア・デ・ランゲ、フェニールケトン尿症、レット症候群、ソトス症候群</p>				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）	特別支援教育における障害の理解：教育出版				

科 目 名	肢体不自由者の心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	平元 東・安永 啓司				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	肢体不自由とは、四肢体幹に永続的な機能障害があり、姿勢や運動動作に制限がある状態のことをいう。その発生原因となる疾病は多様である。それぞれの疾病に応じた特性をテーマにし、それらについての基本的な理解を得ることを目標とする。				
授 業 の 概 要	肢体不自由教育の対象となる主な疾患の病理・生理及び心理について学ぶ。また、認知・社会・コミュニケーション・心理などの特性について理解しながら、その支援について学習する。				
授 業 の 計 画	<p>第1回 肢体不自由とは 肢体不自由の状態、療育、教育（担当：小野川）</p> <p>第2回 姿勢と運動の発達(1) 運動の機序と障害（担当：平元）</p> <p>第3回 姿勢と運動の発達(2) 運動操作における障害と心身の発達（担当：平元）</p> <p>第4回 脳性マヒの特性 脳性マヒの病理と生理（担当：平元）</p> <p>第5回 脳性マヒの支援 就学前期から学歴期の支援（担当：平元）</p> <p>第6回 二分脊椎の特性と支援（担当：平元）</p> <p>第7回 筋ジストロフィーの特性 筋ジストロフィーの状態と病理（担当：平元）</p> <p>第8回 筋ジストロフィーの支援 学校における支援、家庭における支援（担当：平元）</p> <p>第9回 その他の肢体不自由 発達性協調運動障害、脳機能障害（担当：平元）</p> <p>第10回 てんかん てんかんの特性と支援（担当：平元）</p> <p>第11回 肢体不自由を伴う子どもの心理発達過程とその支援 学齢期を中心に（担当：小野川）</p> <p>第12回 肢体不自由を伴う子どもの心理・認知機能とコミュニケーションの支援 代替機器、心理検査（担当：小野川）</p> <p>第13回 肢体不自由を伴う子どもの社会性及び関係発達 社会との接点、困難（担当：小野川）</p> <p>第14回 肢体不自由を伴う子どもの就学、就学支援 検診、就学相談、移行（担当：小野川）</p> <p>第15回 もう一度、肢体不自由とは 見える困難、見えない困難（担当：小野川）</p>				
授 業 の 留 意 点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学 生 に 対 す る 価 値	講義中の課題（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	適宜紹介する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	特別支援教育における障害の理解：教育出版				

科 目 名	病弱者の心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	平元 東・高橋 和明				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	病気の子どもの心理・生理・病理について理解するとともに、具体的な事象や事例から病弱の子どもの行動や学習の背景を考えることができる。				
授 業 の 概 要	病弱教育の対象となる子どもにみられる疾患の生理・病理や病気の子どもの心理的理解と求められる心理的支援・配慮について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<p>第1回 オリエンテーション 学習マップ、授業の進め方（担当：平元）</p> <p>第2回 健康、病気、障害の概念 ICIDH から ICF への転換（担当：小野川）</p> <p>第3回 小児期の慢性疾患(1) ぜんそく、アレルギー（担当：平元）</p> <p>第4回 小児期の慢性疾患(2) 腎臓病・心臓病（担当：平元）</p> <p>第5回 小児期の慢性疾患(3) 糖尿病（担当：平元）</p> <p>第6回 悪性腫瘍 がん、脳腫瘍（担当：平元）</p> <p>第7回 進行性筋ジストロフィー（担当：平元）</p> <p>第8回 てんかん（担当：平元）</p> <p>第9回 血友病とその他の疾患（担当：平元）</p> <p>第10回 心身症と精神疾患の支援 学齢期と就労（担当：小野川）</p> <p>第11回 2次障害としての心理不応 発達障害、不登校（担当：小野川）</p> <p>第12回 病気がもたらす心的な影響(1) 慢性疾患によるもの（担当：小野川）</p> <p>第13回 病気がもたらす心的な影響(2) セルフコントロール（担当：小野川）</p> <p>第14回 病弱の教育的定義 就学、自立を巡って（担当：小野川）</p> <p>第15回 障害の特徴と心理的支援・配慮の在り方 教育、家庭、社会（担当：小野川）</p>				
授 業 の 留 意 点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学 生 に 対 す る 価 値	講義中の課題（20 点）、課題の取組状況（30 点）、レポート（50 点）等で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	適宜紹介する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	特別支援教育における障害の理解：教育出版				

科目名	知的障害者教育課程論				
担当教員名	安永 啓司				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職（特別支援）：必修
学習到達目標	「特殊教育」から現在の「特別支援教育」に至る過程を理解しながら、今後の展望を見通すことを目的とする。特別支援教育の理念を十分に理解しながら、障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、国によって定められる「学習指導要領」に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と立案の際の留意点等について理解をしていく。				
授業の概要	知的障害を中心とする教育について、教育史、教育の目的及び教育形態の概要と、学校が教育的活動を計画し、実践する際によりどころとなる教育課程の概要を理解する。 あわせて、近年のノーマライゼーションの潮流に基づいた、制度・教育的変遷の意義と課題を概観する。				
授業の計画	第1回 知的障害とは（イントロダクション） 認知、学習、生活、自立 第2回 障害児教育の概要(1) 東京学芸大学附属特別支援学校の教育の実際 第3回 障害児教育の概要(2) 特別支援学級の教育の実際 第4回 障害児教育の対象の拡大と教育の本質的課題 「生きる力」を中心に 第5回 障害児教育の教育形態（特別支援学校、特別支援学級、通級学級、特別支援教室） 第6回 教育課程の概念と原理 国による法令と基準 第7回 学習指導要領改訂の変遷と意義 社会背景と教育内容の整備 第8回 教育課程の開発と編成 個別の教育支援計画、個別の指導計画 第9回 各教科の指導 生活科、かず・ことば 第10回 領域の指導 自立活動 第11回 各教科等を合わせた指導 生活単元学習、総合的な学習 第12回 学習指導案の作成の視点 授業改善、授業評価 第13回 チームティーチングの方法 授業計画、授業反省と教材開発 第14回 教育制度と法令 学校制度、教科書、学級編制 第15回 障害児教育の専門性と教師キャリア 地方公務員法、教育公務員特例法、服務、研修				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	講義における小レポート（30点）、最終試験結果（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一他編著「特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究」福村出版				
参考書（購入任意）	特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				

科目名	知的障害者教育方法論				
担当教員名	安永 啓司				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	教職（特別支援）：必修
学習到達目標	知的障害を中心とする教育において、発達諸相と障害特性についての理解を深め、効果的な指導方法を導き、その効果を評価－改善していくプロセス（Plan-Do-See）の意義と具体的な指導について理解を深める。				
授業の概要	知的障害は、認知、コミュニケーション、社会性、行動調整などの諸側面における障害の状態が、単一または複数の関連において生活上の困難として継続しているものである。したがって、その教育や対応は、それぞれの発達の背景と機序を理解することから、具体的な指導法を導くところにあるといえる。障害の特性の評価を行うアセスメントから指導方針を立て、指導方法を導いて、評価を行っていく一連のプロセスについて、事例を交えながら学べるようにする。				
授業の計画	<p>第1回 知的障害教育をめざす自立の姿とは 私は自立しているといえるのか</p> <p>第2回 行動観察とアセスメント 観察視点と評価観点</p> <p>第3回 支援ツールの開発と活用 視覚的支援と身体促進の方法</p> <p>第4回 積極的行動支援法 応用行動分析学に基づく行動調整</p> <p>第5回 自発的行動を高める支援 子どもの情動の把握と支援方法</p> <p>第6回 家庭との共同を生む支援 連絡帳、「個別の指導計画」</p> <p>第7回 主体的活動を促す手がかりツール 行動の初発の支援</p> <p>第8回 コミュニケーションの発達と支援 他者意図理解、共同注意、共同行為、言語発達</p> <p>第9回 社会性の発達と支援 社会性の評価、目標の設定と計画</p> <p>第10回 認知評価の方法 知的障害と認知処理過程</p> <p>第11回 教科の指導 生活科、かず・ことば</p> <p>第12回 領域の指導 自立活動の展開</p> <p>第13回 各教科等を合わせた指導 生活単元学習、総合的な学習</p> <p>第14回 子どもの活動を支えるチームティーチング 授業計画、支援の一貫性</p> <p>第15回 学習指導案と授業 授業研究の視点、改善のプロセス</p>				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	講義における小レポート（30点）、最終試験結果（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	特別支援教育の指導法：教育出版				
参考書（購入任意）	高島庄蔵著「みんなの自立支援をめざす応用行動分析学」明治図書 前川久男・長崎勤編「障害理解のための心理学」明石書店 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				

科 目 名	肢体不自由者教育課程論				
担 当 教 員 名	安永 啓司				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	肢体不自由児の障害特性を理解し、肢体不自由教育の教育内容・方法を学び、教育課程の基本について理解する。肢体不自由教育の授業づくりの基本的視点を理解し、教育実践の基盤を形成することを目標とする。				
授 業 の 概 要	肢体不自由児の障害の基礎的な特徴を概説し、肢体不自由教育の教育課程、指導方法について実践例を交えた教育を行う。				
授 業 の 計 画	<p>第1回 肢体不自由の定義 障害認定と教育</p> <p>第2回 肢体不自由教育の現状 肢体不自由特別支援学校、特別支援学級、通常学級</p> <p>第3回 肢体不自由教育のあゆみ 療育から教育へ</p> <p>第4回 発達と障害の基礎理解 乳児期の反射、学習、経験</p> <p>第5回 脳性マヒの発達と障害の基礎的理解 動かない障害、学習経験を制限される障害</p> <p>第6回 肢体不自由の教育課程(1) 学習指導要領、教育課程の特徴</p> <p>第7回 肢体不自由の教育課程(2) 自立活動</p> <p>第8回 肢体不自由の教育課程(3) コミュニケーション</p> <p>第9回 肢体不自由の教育 準ずる教育と「個別の指導計画」</p> <p>第10回 重度重複障害の実態把握 障害の足し算、障害のかけ算</p> <p>第11回 重度重複障害の教育実践(1) 特別支援学校の教育内容</p> <p>第12回 重度重複障害の教育実践(2) 訪問教育、医療的ケア</p> <p>第13回 肢体不自由児と家族の生活実態と支援 障害に基づく困難</p> <p>第14回 肢体不自由教育の今日的課題 就学の多様化、学習指導要領</p> <p>第15回 学習指導案と授業 授業研究の視点、改善のプロセス</p>				
授 業 の 留 意 点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学 生 に 対 す る 価 値	講義中の協議課題（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	特別支援教育の指導法：教育出版				

科 目 名	肢体不自由者教育方法論				
担 当 教 員 名	野村 春文				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	肢体不自由教育は、一人ひとりの子どもの運動障害の程度や知的発達に応じて、複数の教育課程が用意されている。本講義では、肢体不自由児の事例を通して、指導内容・指導方法及び授業実践の理解を深めることを目標とする。				
授 業 の 概 要	肢体不自由の単一障害や、二分脊椎、脊椎損傷等の知的障害を伴わない教育から、知的障害を伴う重複障害の子どもを対象とした教育まで含めて、肢体不自由児の実態把握や指導内容・方法を考える。実際の授業を行う上で必要とされる基礎的な理解を形成する。				
授 業 の 計 画	<p>第1回 インタロダクション 授業の進め方、学習マップ</p> <p>第2回 肢体不自由児教育の概要(1) 筑波大学附属桐が丘特別支援学校の教育の実際</p> <p>第3回 障害児教育の概要(2) 特別支援学級の教育の実際</p> <p>第4回 肢体不自由児の実態把握 身体面、心理面、学習面</p> <p>第5回 肢体不自由児教育の教育形態（特別支援学校、特別支援学級、通級学級、特別支援教室）</p> <p>第6回 準ずる教育と就学の変化 障害の多様化、障害の重度化、障害の重複化</p> <p>第7回 個別の指導計画と個別の教育支援計画 就学、教育、就労自立</p> <p>第8回 教育課程の開発と編成 個別の教育支援計画、個別の指導計画</p> <p>第9回 各教科の指導 学習支援の方法、支援ツールやテクノロジーの活用</p> <p>第10回 領域の指導 自立活動</p> <p>第11回 領域・教科を合わせた指導 生活単元学習、総合的な学習</p> <p>第12回 学習指導案の作成の視点 授業改善、授業評価</p> <p>第13回 指導内容の設定と授業技術 教示、児童との物理的距離、接近や介助の配慮</p> <p>第14回 授業研究 反省協議、学習指導案への反映</p> <p>第15回 肢体不自由のある子どもの生活と家族支援 地域生活、社会的理解、自立した生活</p>				
授 業 の 留 意 点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学 生 に 対 す る 価 値	講義中の協議課題（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	特別支援教育の指導法：教育出版				

科目名	病弱者教育論				
担当教員名	高橋 和明				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職（特別支援）：必修
学習到達目標	病弱者教育の歴史と意義について理解し、病弱者教育の対象者に応じた教育の特徴について概要を把握するとともに病弱者教育の現代的課題について見通すことを目的とする。				
授業の概要	病弱者教育の歴史から病弱者教育が果たしてきた役割について学び、病弱者教育の意義と課題について学ぶ。病弱者教育の対象である主な疾患とその特徴、教育を行うに当たって配慮すべきことを考察する。病弱者教育の現代的課題や病類に応じた教育の特徴について学ぶ。				
授業の計画	<p>第1回 インタロダクション 授業の進め方、学習マップ 1</p> <p>第2回 病弱者教育の歴史の変遷と定義 療育から教育へ</p> <p>第3回 病弱者教育の意義と目的 学ぶ権利の保障、教育課程の整備</p> <p>第4回 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(1) 呼吸器疾患、内分泌疾患</p> <p>第5回 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(2) 腎・泌尿器疾患</p> <p>第6回 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(3) 心疾患、筋疾患</p> <p>第7回 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(4) 重症心身障害</p> <p>第8回 死について考える ターミナル期にある子どもの教育</p> <p>第9回 自分自身を振り返る 命の選択</p> <p>第10回 病気とともに生きるということ グループワークの協議を通して</p> <p>第11回 拡大する病弱者教育の対象 不登校、被虐待、ネグレクト、精神疾患</p> <p>第12回 病弱者教育の設置基準と教育の場 特別支援学校、学級、院内学級</p> <p>第13回 病状に合わせた指導計画 集団の形成、授業時数の設定</p> <p>第14回 医療機関と教育の関係と連携、家庭との連携 連携のあり方、連絡帳、病状ノート</p> <p>第15回 病弱者教育の現代的課題 医療の高度化、病気の多様化</p>				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	講義中の協議課題（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）により評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）	<p>病気の子どもの教育入門：クリエイツかもがわ</p> <p>特別支援学校教育要領・学習指導要領</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説（総則等編）</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）</p> <p>特別支援教育の指導法：教育出版</p>				

科 目 名	重複障害・発達障害の評価				
担 当 教 員 名	野村 春文・奥村 香澄				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士・教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態との関係を理解する。重複障害と発達障害の正しい理解のもとに、詳細なアセスメントの方法と解釈について、演習を中心として理解する。				
授 業 の 概 要	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。そこでは障害の理解に基づいた正確なアセスメントが求められてくる。多様な評価について学び、実際のアセスメントの知識と技術を身につける。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 アセスメントとは 評価、心理、社会、生活 2 アセスメントの方法 観察、解釈、記録、聴き取り、定量的評価、定性的評価 3 重複障害の評価 反応形成、フィードバック 4 医療的数値 脳波、脳血流量、血中酸素、その他の数値 5 心理検査の理解① 認知理論、心理検査の発展過程 6 心理検査の理解② C-H-C 理論、PASS 理論、知能の定義 7 心理検査の理解③ WISC-3、WISC-4、K-ABC、DN-CAS 8 心理検査の実際① WISC-4 9 心理検査の実際② DN-CAS 10 心理検査の解釈① WISC-4 11 心理検査の解釈② DN-CAS 12 心理検査の解釈③ 総合的な解釈、検査レポート、倫理的責任、支援計画 13 保護者支援 障害受容、療育の見通し、家族との調整 14 自立支援 本人受容、将来設計 15 支援の実際 アセスメント、支援計画、介入、コンサルテーション 				
授 業 の 留 意 点	実際の心理検査などを行うため、グループワークの際は欠席などの無いようにすること。				
学 生 に 対 す る 価 評	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	特別支援教育における障害の理解：教育出版				

科 目 名	重複障害・発達障害の教育				
担 当 教 員 名	野村 春文・奥村 香澄・中野 泰伺				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態とを正しく把握することができ、適正な支援の方法と障害のある幼児、児童、生徒の社会的自立の見通しを立てることができるようにする。				
授 業 の 概 要	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。障害の重複を具体的に捉え、自己決定を保障する方法を学ぶと共に、6.5%といわれる発達障害の概要を理解し、多様なニーズに応えられる知識と技能を身につける。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 重複障害とは 障害の重複、困難の重複、複合的な相互作用 2 重複障害の教育 教育課程、指導法 3 重複障害の予後 施設、病院、家庭、社会参加 4 発達障害とは LD、注意欠如/多動症(AD/HD)、自閉スペクトラム症 5 発達障害の困難 聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する、コミュニケーション 6 発達障害の教育 通常学級、通級による指導、適応教室、不登校 7 発達障害の教育課程における位置づけ 特殊教育、特別支援教育 8 学習やコミュニケーションの困難の機序 感覚、知覚、認知 9 LD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害 10 AD/HD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害 11 自閉症スペクトラムの指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害、アスペルガー症候群 12 発達障害の社会的自立 障害認定、適応 13 社会における発達障害 定義、啓発、受容 14 発達障害に関わる制度の変遷 教育、福祉、就労 15 重複障害・発達障害のまとめ 自己認識、社会的相互作用、社会的背景 				
授 業 の 留 意 点	実際の発達障害支援の実務者の活動を取り混ぜる予定である。				
学 生 に 対 す る 価 値	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	特別支援教育における障害の理解：教育出版				

科目名	視覚障害者教育総論				
担当教員名	星 祐子				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職（特別支援）：必修
学習到達目標	視覚障害の概要を生理・病理の観点から理解し、視覚障害教育の歴史・教育課程・指導内容・指導方法などについて学び、視覚障害教育に関する知識を習得するとともに共生社会形成の基礎となる特別支援教育に対する理解を深めることを目的とする。				
授業の概要	本講義では、主として視覚障害教育に関する以下の内容について、テキスト、プリント資料、映像教材、実物教材を使用しながら授業を行う。 1. 視覚障害の概要（生理・病理）及び視覚管理 2. 視覚障害教育の歴史及び制度 3. 視覚障害教育の教育課程及び指導計画 4. 視覚障害教育の指導内容・指導方法				
授業の計画	第1回 視覚障害の生理及び病理と視覚管理① 視覚障害の定義、視覚器の構造と視覚障害 第2回 視覚障害の生理及び病理と視覚管理② 視機能と視覚障害、眼疾患と教育的配慮 第3回 視覚障害の心理特性、発達を規定する要因と発達の特徴、アセスメント、観察評価 第4回 視覚障害児の歴史と制度 第5回 教育課程と指導計画① 教育課程の意義、教育課程の編成と指導計画の作成 第6回 教育課程と指導計画② 学習指導要領 第7回 指導内容及び指導方法① 視覚障害教育における指導上の配慮事項、盲児の触知覚の特性、点字の読み書きの指導、空間概念の指導、歩行指導、言葉と事物・事象の対応の指導 第8回 指導内容及び指導方法② 弱視児の視知覚の特性 重複障害児の指導、教材教具				
授業の留意点	視覚障害の疑似体験や演習なども行うため、積極的に講義に参加すること。				
学生に対する評価	提示課題の取り組み状況（30点）、レポート課題（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	適宜、プリントを配布する。				
参考書（購入任意）	視覚障害教育入門 ジアース教育新社 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				

科 目 名	聴覚障害者教育総論				
担 当 教 員 名	庄司 和史				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	聴覚障害の概要を生理・病理の観点から理解し、聴覚障害教育の歴史・教育課程・指導方法・評価法などについて学び、聴覚障害教育に関する知識を習得するとともに、発達期における心理的特性や保護者の心情などを理解することを目標とする。				
授 業 の 概 要	聴覚障害は、単に聞こえの障害のみならず様々な学習経験や発達上の困難が生じる。補聴器などの装用に対する心理的な抵抗が生じる場合もある。聞こえの障害を多角的に捉えて、他者を深く理解する基盤を培うことができるように、体験や協議を多くした講義としていく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 聴覚障害の生理及び病理① 聴覚障害の定義、聴覚の構造と障害 2 聴覚障害の生理及び病理② 聴覚機能と聴覚障害、疾患と教育的配慮 3 聴覚障害の心理特性と発達 コミュニケーション、社会性、学習 4 聴性脳幹反応と人工内耳 心理的支援、保護者支援、早期介入 5 聴覚障害教育の歴史と制度 聾唖学校、ろう学校、口話、手話 6 聴覚障害教育における教育課程と指導計画① 各教科の指導 7 聴覚障害教育における教育課程と指導計画② 各領域の指導、自立活動 8 授業の実際 「個別の指導計画」、学習指導案 				
授 業 の 留 意 点	聴覚障害体験なども行うため、積極的に講義に参加すること。				
学 生 に 対 す る 価 値	講義における小レポート（20点）、提示課題の取り組み状況（20点）、レポート課題（60点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	教育オーディオロジーハンドブック：ジアース教育新社 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編） 特別支援教育の指導法：教育出版				

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導				
担 当 教 員 名	安永 啓司・奥村 香澄				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修
学 習 到 達 目 標	実習の意義と目的、実際の幼児・児童・生徒の実態把握の方法、指導計画の作成と指導案作成及び模擬授業を行い、それぞれの実習時期に合わせながら、全体及び個別指導を行う。事後指導においては、再度、教職の意義、教育公務員特例法の意義と教員の義務、キャリア形成等について復習し教職に対する心構えを確認する。				
授 業 の 概 要	特別支援教育に特有のアセスメントなどを再度確認の上、指導計画の作成を通じて障害児教育実習への準備を行う。実習後は授業研究などを通じて、実際の実習の振り返りと教職の意義の確認を行う。				
授 業 の 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別支援と集団による授業における指導計画のたてかた ・ 実態把握のための観察法 ・ 個別のアセスメント ・ 個別指導の方法と集団のダイナミズムの活用方法 ・ 年間指導計画の策定 ・ 個別の指導計画の作成 ・ 教科・領域の指導計画 ・ 学習指導案の作成 ・ 指導意図に基づいた教材の意義の確認と準備 ・ 模擬授業 ・ 授業研究会 ・ 計画の修正と確認 				
授 業 の 留 意 点	相互模擬授業などを行うため、原則として欠席は認めない。				
学 生 に 対 す る 価 値	模擬授業・指導計画作成・実習報告などを総合的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	障害児教育実習					
担 当 教 員 名	安永 啓司・奥村 香澄・藤川 雅人					
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習	
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職（特別支援）：必修	
学 習 到 達 目 標	特別支援学校における実習を通じて、それぞれの障害領域に対応した指導力及び、校内・校外におけるコーディネート能力など教員としてふさわしい能力を身につける。					
授 業 の 概 要	各支援学校において、指導案の作成、研究授業などを行う。					
授 業 の 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・当該障害種における教育の概要（講義及び見学、活動参加実習）と教員の専門性及び服務 ・幼稚部から高等部及び専攻科を通じた、教育の一貫性と自立支援の実際（講義及び見学） ・各教科・領域の授業参観 ・配属学級における学級経営の視点と方法 ・幼児、児童、生徒の実態の把握 ・個別の指導計画と学級経営を元にした指導計画の作成 ・各教科・領域の指導計画の作成 ・実習授業 ・研究授業 ・実習のまとめ 					
授 業 の 留 意 点	実習の所定時間はすべて出席が求められるため、実習中の欠席は認められないので注意すること。					
学 生 に 対 す る 価 値	学習指導、生活指導、実習態度について、実習校担当者が評価し、事前・事後指導の評価と総合して評価する。					
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）						
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）						